

大東市埋蔵文化財調査報告第20集

中 垣 内 遺 跡

— 関西電力株式会社架空送電線鉄塔 (No.24) 建替え等に伴う発掘調査報告書 —

2004年3月

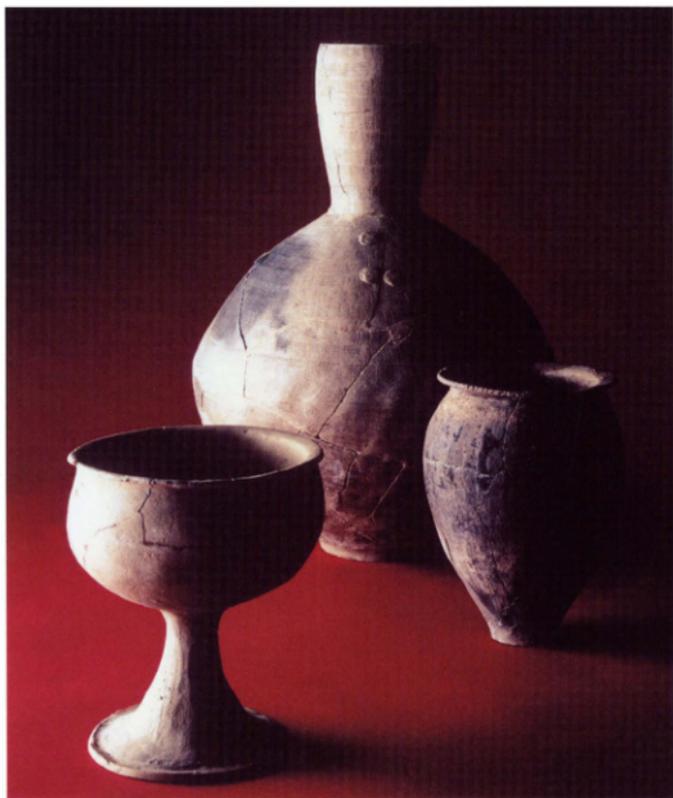
大東市教育委員会

中 垣 内 遺 跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔 (No.24) 建替え等に伴う発掘調査報告書—

2004年3月

大東市教育委員会



1. 出土弥生土器



1. 第2遺構面全景（南より）



2. SD-A201（北より）



1. SD-B201 (北東より)



2. SP-A275柱根



3. SP-A277柱根



1. 第3-a遺構面全景（南より）



2. SD-A301（南西より）



1. SD-B302 (西より)



2. SK-A309 (北西より)

序 文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くに河内湾、河内湖、また江戸時代の中頃までは深野池という大きな池があり、山と海・池などに縁取られた多様な地形環境のなかで古来より豊かな自然を有していました。

そのような環境のなかで先人達は個性ある歴史、また豊かな文化を育んできました。そして、その名残である遺跡、石造物など、いわゆる文化財も数多く残されています。

この度、報告することになりました中垣内遺跡は昭和34年以来、数回にわたって調査が実施されていて、徐々にではありますが、遺跡の実態が明らかにされています。

今回の発掘調査では弥生時代の集落跡が顕著に確認され、これまで弥生時代の代表的な遺跡と言われながらも、やや名前だけが先走りしてきた感があっただけに、今回の調査成果は中垣内遺跡の歴史的価値を再確認するとともに、また鍋田川流域を中心とした古代の大東市を復元するうえで、たいへん貴重な成果を得ることができたと思われまます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました関西電力株式会社をはじめ、お世話になりました関係機関・関係各位に厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできた貴重な文化財を大切に保存し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成16年3月

大東市教育委員会
教育長 中 口 馨

例 言

1. 本書は、大阪府大東市中垣内5丁目における中垣内遺跡発掘調査（NGT92-1）の報告書である。
2. 調査は架空送電線鉄塔（No.24）建替及び電力ケーブル移設に伴うもので、関西電力株式会社大阪北支店より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中達健一が担当した。
調査期間、調査面積等は本文中に記載している。
4. 本調査に係る費用については関西電力株式会社大阪北支店がこれを負担した。記して感謝の意を表す。
5. 本調査及び報告書作成にあたっては、下記の諸氏よりご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表す。（敬称略、順不同、所属は当時による）
田代克巳（帝塚山短期大学）、岩瀬透・阿部幸一（大阪府教育委員会）、三好孝一・若林邦彦（財団法人大阪文化財センター）、塩山則之・浜田延充（寝屋川市教育委員会）、西山昌孝（千早赤坂村教育委員会）、岩崎直也（近江八幡市教育委員会）
6. 現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）
[現地調査]
井尻由美子、井戸上照子、大谷聡、甲斐範浩、皆見秀久、北田享子、小矢田誠司、嶽野幸一、谷崎光子、塚山彦一郎、中慶子、野村香枝、萩野登、長谷哲雄、樋口かよ子、樋口里美、森石千枝子、吉野正泰
[整理作業]
井尻由美子、岩上直子、大谷聡、甲斐範浩、皆見秀久、北田享子、小堀直子、嶽野幸一、田中玲子、谷崎光子、谷崎結生、塚山彦一郎、中慶子、萩野登、長谷哲雄、樋口かよ子、樋口里美、宮澤淳也、宮田八重子、村尾奈津子、森石千枝子、吉野正泰
7. 本調査における基準点、水準点の設置については株式会社大東設計事務所に委託した。
8. 報告書作成に係る一部図面作成、遺物観察表、遺物写真撮影を、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
また、巻頭カラー図版1の写真撮影については有限会社阿南写真工房の阿南辰秀氏に依頼した。
9. 動物遺体の同定については、大阪市立大学大学院医学研究科、安部みき子氏、大阪市立大学大学院文学研究科、高志こころ氏に依頼し、併せて報文を賜った。
10. 本書の執筆、編集は中途が行った。
11. 本調査に関わる遺物、実測図、写真、カラスライド等は、大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本文目次

序文	
例言	
第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法	6
第4章 調査成果	
第1節 基本層序	8
第2節 第1遺構面	8
第3節 第2遺構面	20
第4節 第3-a遺構面	42
第5節 第3-b遺構面	61
第5章 まとめ	78
附章 中垣内遺跡出土動物遺体について	(安部みき子・高志こころ) 81

挿図目次

第1図 調査地位置図	2
第2図 大東市位置図	3
第3図 周辺遺跡分布図	5
第4図 調査区区分図	7
第5図 調査区壁面断面図	9・10
第6図 包含層等出土遺物(1)	11
第7図 包含層等出土遺物(2)	12
第8図 包含層等出土遺物(3)	13
第9図 包含層等出土遺物(4)	14
第10図 包含層等出土遺物(5)	15
第11図 SK-C101平・断面図	16
第12図 SK-C104・溝平・断面図	16
第13図 第1遺構面全体図	17・18
第14図 SX-A101・A102平・断面図	19
第15図 第2遺構面全体図	21・22
第16図 SD-A201平・断面・遺物出土状況図	23
第17図 SD-B201平・断面・遺物出土状況図	24
第18図 SD-A201出土遺物(1)	25

第19図	SD-A201出土遺物(2)	26
第20図	SD-A201出土遺物(3)	27
第21図	SD-A201出土遺物(4)	28
第22図	SD-B201出土遺物(1)	29
第23図	SD-B201出土遺物(2)	30
第24図	SD-B201出土遺物(3)	31
第25図	SK-A203平・断面・遺物出土状況図	33
第26図	SK-A204・A232平・断面・遺物出土状況図	33
第27図	SK-A220・SP-A292遺物出土状況図	34
第28図	SK-A233・SP-A2165遺物出土状況図	34
第29図	SK-A234平・断面・遺物出土状況図	34
第30図	SK-C202平・断面図	36
第31図	SK-C203平・断面図	36
第32図	SK-C209平・断面図	36
第33図	SK-C211平・断面図	36
第34図	SX-A201遺物出土状況図	37
第35図	SX-A204遺物出土状況図	39
第36図	SX-C202平・断面・遺物出土状況図	38
第37図	SX-C203遺物出土状況図	38
第38図	SP-A2122遺物出土状況図	39
第39図	第2遺構面 ピット(SP)断面図	39
第40図	第2遺構面 土坑(SK)・不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物(1)	40
第41図	第2遺構面 土坑(SK)・不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物(2)	41
第42図	SK-A302平・断面図	42
第43図	第3-a遺構面全体図	43・44
第44図	SK-A303平・断面・遺物出土状況図	45
第45図	SK-A304平・断面図	45
第46図	SK-A306平・断面図	46
第47図	SK-A308平・断面図	46
第48図	SK-A309平・断面・遺物出土状況図	47
第49図	SK-A312平・断面図	47
第50図	SK-A313平・断面図	48
第51図	SK-A316平・断面図	48
第52図	SK-A319平・断面図	49
第53図	SK-A320平・断面図	49
第54図	SK-A324平・断面図	50
第55図	SK-A325平・断面図	50
第56図	SK-A327平・断面図	51

第57図	SK-A330平・断面・遺物出土状況図	51
第58図	SK-A331平・断面図	52
第59図	SK-A333平・断面・遺物出土状況図	52
第60図	SK-B301平・断面図	53
第61図	SK-B302平・断面図	53
第62図	SK-B303平・断面図	54
第63図	SK-B304平・断面図	54
第64図	SK-B305平・断面・遺物出土状況図	54
第65図	SK-C304平・断面図	54
第66図	SK-C306平・断面図	55
第67図	SK-C308平・断面図	55
第68図	SK-C315平・断面図	55
第69図	SK-C316・C317平・断面図	55
第70図	SK-C318平・断面図	56
第71図	SX-A301断面図	56
第72図	SX-A302平・断面・遺物出土状況図	56
第73図	SX-A303平・断面図	57
第74図	SP-A375平面図(根石)	57
第75図	第3-a遺構面 ピット(SP)断面図	57
第76図	第3-a遺構面 土坑(SK)出土遺物(1)	58
第77図	第3-a遺構面 土坑(SK)出土遺物(2)	59
第78図	第3-a遺構面 不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物(1)	60
第79図	SD-A301平・断面・遺物出土状況図	62
第80図	第3-b遺構面全体図	63・64
第81図	SD-A301出土遺物	65
第82図	SD-A302遺物出土状況図	66
第83図	SD-A303(側溝掘削時)遺物出土状況図	66
第84図	SD-A302出土遺物	67
第85図	SD-A303出土遺物	68
第86図	SD-B302遺物出土状況図(上層)	69
第87図	SD-B302平・断面・遺物出土状況図(下層)	70
第88図	SD-B302出土遺物(1)	71
第89図	SD-B302出土遺物(2)	72
第90図	SD-B302出土遺物(3)	73
第91図	SD-C301遺物出土状況図	74
第92図	SD-C302遺物出土状況図(1)	74
第93図	SD-C302遺物出土状況図(2)	75
第94図	SD-C301・C302出土遺物(1)	76

第95図	SD-C302出土遺物(2)	77
第96図	出土骨角製品(1)	81
第97図	出土骨角製品(2)	82

表 目 次

表1	動物遺体の出土表	84~93
表2	イヌ・イノシシ・シカの出現頻度表	94・95
表3	上顎歯の計測値・下顎歯および顔面骨の計測値・ 四肢骨の計測値・四肢と体幹の計測値	96~99
表4	出土遺物一覧表	101~113

写真図版目次

巻頭カラー図版1

1. 出土弥生土器

巻頭カラー図版2

1. 第2遺構面全景(南より)

2. SD-A201(北より)

巻頭カラー図版3

1. SD-B201(北東より)

2. SP-A275 柱根

3. SP-A277 柱根

巻頭カラー図版4

1. 第3-a遺構面全景(南より)

2. SD-A301(南西より)

巻頭カラー図版5

1. SD-B301(西より)

2. SK-A309(北西より)

図版1 遺構(1)

1. 第1遺構面全景(南より)

2. 第1遺構面全景(西より)

図版2 遺構(2)

1. 第1遺構面全景(東より)

2. 第1遺構面・A区(東より)

図版3 遺構(3)

1. 第1遺構面・C区(東より)

2. 第1遺構面・C区(西より)

図版4 遺構(4)

1. 第2遺構面全景(南より)

2. 第2遺構面全景(西より)

図版5 遺構(5)

1. 第2遺構面全景(東より)

2. 第2遺構面・A区北西部(南西より)

図版6 遺構(6)

1. 第2遺構面・A区南西部(西より)

2. 第2遺構面・A区南東部(東より)

図版7 遺構(7)

1. 第2遺構面・B区(南東より)

2. 第2遺構面・C区(東より)

図版8 遺構(8)

1. SD-A201(北より)

2. SD-A201遺物出土状況①

図版9 遺構(9)

1. SD-A201遺物出土状況②

2. SD-B201(北東より)

図版10 遺構(10)

1. SD-B201遺物出土状況①

2. SD-B201遺物出土状況②

図版11 遺構(11)

1. SD-A201・B201(南東より)

2. SD-C201(南より)

図版12 遺構(12)

1. SK-A203(北西より)

2. SK-A203遺物出土状況(北西より)

図版13 遺構(13)

1. SK-A204(南より)

2. SK-A220(南西より)

図版14 遺構(14)

1. SK-A229(南より)

2. SK-A230(南より)

図版15 遺構(15)

1. SK-A232(西より)

2. SK-A233(東より)

図版16 遺構(16)

1. SK-C202(西より)

2. SK-C211(南より)

図版17 遺構(17)

1. SX-A201(西より)

2. SX-A204(南より)

図版18 遺構(18)

1. SX-C202(南西より)

2. SX-C202遺物出土状況(北東より)

図版19 遺構(19)

1. SX-C203(東より)

2. SX-C203遺物出土状況(東より)

図版20 遺構(20)

1. A区北西部 ピット群(南西より)

2. A区南西部 ピット群(北西より)

図版21 遺構(21)

1. SP-A242(西より)

2. SP-A275(東より)

図版22 遺構(22)

1. SP-A277(南より)

2. SP-A2136(北西より)

図版23 遺構(23)

1. 第3-a遺構面全景(南より)

2. 第3-a遺構面全景(西より)

図版24 遺構(24)

1. 第3-a遺構面全景(東より)

2. 第3-a遺構面・A区北西部(南西より)

図版25 遺構(25)

1. 第3-a遺構面・A区南西部(南東より)

2. 第3-a遺構面・A区南東部(東より)

図版26 遺構 (26)

1. 第3-a遺構面・B区(北東より)

2. 第3-a遺構面・C区(西より)

図版27 遺構 (27)

1. SK-A302(南より)

2. SK-A303(北西より)

図版28 遺構 (28)

1. SK-A303遺物出土状況(北東より)

2. SK-A304(西より)

図版29 遺構 (29)

1. SK-A306(北より)

2. SK-A308(西より)

図版30 遺構 (30)

1. SK-A309(西より)

2. SK-A310(南西より)

図版31 遺構 (31)

1. SK-A330(南より)

2. SK-A333(北西より)

図版32 遺構 (32)

1. SK-B305(西より)

2. SK-C314(南西より)

図版33 遺構 (33)

1. SX-A301(南東より)

2. SX-A302(東より)

図版34 遺構 (34)

1. SP-A321 柱根

2. SP-A391 柱根

図版35 遺構 (35)

1. SP-A375 根石

2. SP-B324 根石

図版36 遺構 (36)

1. 第3-b遺構面全景(南より)

2. 第3-b遺構面全景(西より)

図版37 遺構 (37)

1. 第3-b遺構面全景(東より)

2. 第3-b遺構面・A区北西部(南西より)

図版38 遺構 (38)

1. 第3-b遺構面・A区南西部(西より)

2. 第3-b遺構面・A区・C区(西より)

図版39 遺構 (39)

1. 第3-b遺構面・B区(南東より)

2. 第3-b遺構面・C区(西より)

図版40 遺構 (40)

1. SD-A301(南西より)

2. SD-A301断面(南西より)

図版41 遺構 (41)

1. SD-A301遺物出土状況(南より)

2. SD-A302(南西より)

図版42 遺構 (42)

1. SD-A302断面(南西より)

2. SD-A302遺物出土状況(南西より)

図版43 遺構 (43)

1. SD-A303(南より)

2. SD-A303遺物出土状況①(北より)

図版44 遺構 (44)

1. SD-A303遺物出土状況②(北東より)

2. SD-A304(北より)

図版45 遺構 (45)

1. SD-B302 (西より)
2. SD-B302断面 (西より)

図版46 遺構 (46)

1. SD-B302遺物出土状況〔上層〕① (東より)
2. SD-B302遺物出土状況〔上層〕②

図版47 遺構 (47)

1. SD-B302遺物出土状況〔下層〕①
2. SD-B302遺物出土状況〔下層〕②

図版48 遺構 (48)

1. SD-C301 (南より)
2. SD-C301遺物出土状況 (北西より)

図版49 遺構 (49)

1. SD-C302 (南より)
2. SD-C302遺物出土状況〔上層〕

図版50 遺構 (50)

1. SD-C302遺物出土状況〔下層〕①
2. SD-C302遺物出土状況〔下層〕②

図版51 出土遺物 (1)

図版52 出土遺物 (2)

図版53 出土遺物 (3)

図版54 出土遺物 (4)

図版55 出土遺物 (5)

図版56 出土遺物 (6)

図版57 出土遺物 (7)

図版58 出土遺物 (8)

図版59 出土遺物 (9)

図版60 出土遺物 (10)

図版61 出土遺物 (11)

図版62 出土遺物 (12)

図版63 出土遺物 (13)

図版64 出土遺物 (14)

図版65 出土遺物 (15)

図版66 出土遺物 (16)

図版67 出土遺物 (17)

図版68 出土遺物 (18)

図版69 出土遺物 (19)

図版70 出土遺物 (20)

図版71 出土遺物 (21)

図版72 出土遺物 (22)

第1章 調査に至る経緯

中垣内遺跡は昭和34年に関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に見えられた遺跡である。それに伴う緊急調査が一部実施されており、限られた条件下の調査であったにもかかわらず堅穴住居跡などを検出し、また弥生土器など大量の遺物が出土したことから、当時においては弥生時代の集落遺跡として多大な評価を得た遺跡であった。

その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、昭和62年の大阪産業大学の校舎建設に伴う調査を皮切りに、昭和62年～平成元年にかけては変電所敷地内における4ヶ所の調査など、現在に至るまで昭和34年の調査を含めば、合計11次にわたる調査が実施されている。その結果、遺跡としては集落を中心とした縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられているが、大東市域では現在においても弥生時代を代表する遺跡となっている。

今回の調査は、関西電力株式会社大阪北支店により架空送電線鉄塔の増強工事の事業計画がなされたことによる。この事業計画は生活水準の向上、都市機能の高度化および産業の発展などにより電力需要が年々増加の傾向を示し、将来において電力供給不足の状態が懸念されることから、大阪府東部地域などに電力供給している東大阪変電所の電力容量を増やすこととなり、そのため奈良県生駒市北田原に所在する新生駒変電所から東大阪変電所に至る一部送電線（東大阪新生駒線）鉄塔を大型化するため建替えを行うというものであった。

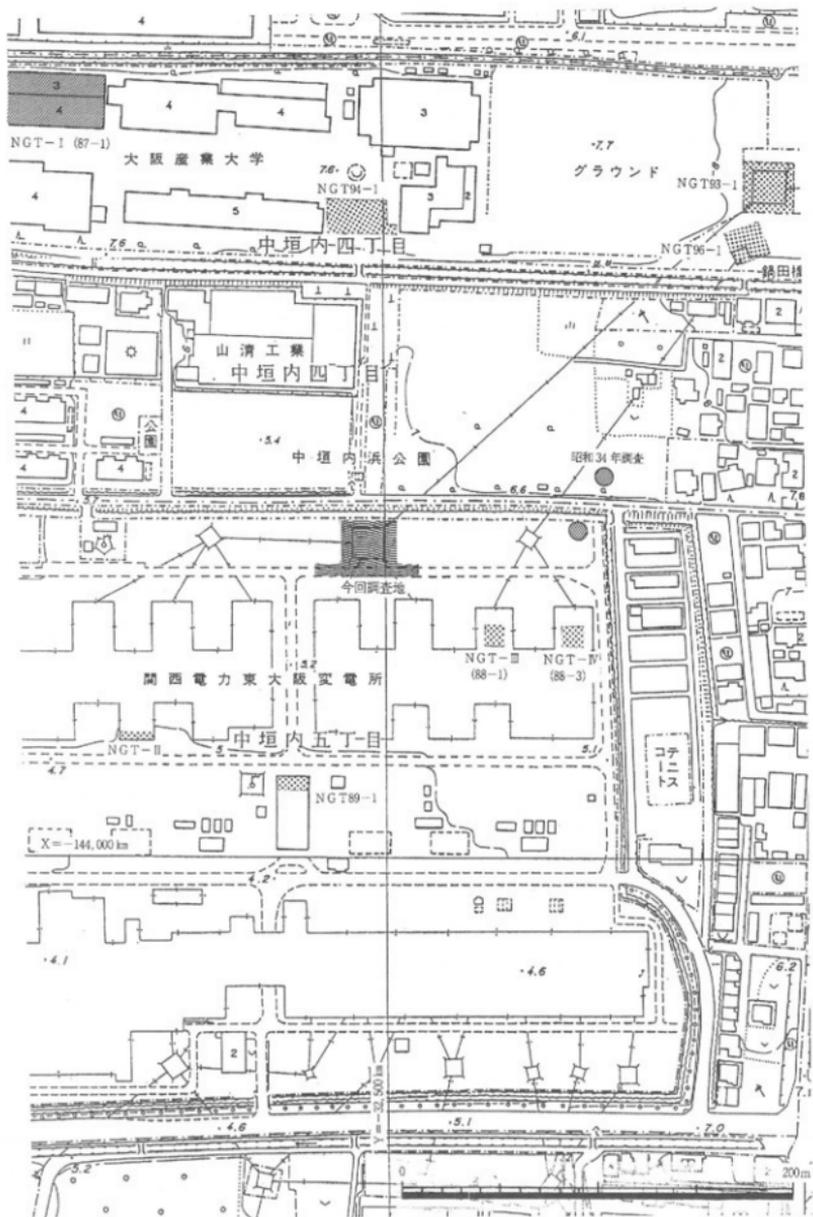
これらの計画のうち大東市域においては10基の鉄塔が対象であったが、特に東大阪変電所が中垣内遺跡内に立地することが周知されていたこともあり、関西電力株式会社大阪北支店より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、事業対象である各鉄塔のうち5基が遺跡内を占め、残りの5基が本市で指定する遺跡周辺地域を占めることから、前者については各鉄塔別に文化財保護法第57条の2に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。また後者については試掘調査の実施の必要性を伝え、遺跡が発見された場合には同様の処置が必要である旨を伝えた。結果、事前の範囲確認調査及び試掘調査に関しては本市教育委員会が実施することで合意を得た。

以上の協議を経て、まず当該事業における東大阪新生駒線 No. 24号と呼称される鉄塔が対象とされた。文化財保護法第57条の2に基づく届出は平成3年11月1日付で提出され、以下、諸手続きを経て平成4年2月18日に本市教育委員会が範囲確認調査を実施した。その結果、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がりが確認されたことから遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の特殊性もあり計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

その後の協議において、発掘調査の実施については本市教育委員会に依頼がなされたことから、さらに調査に関する具体的項目について協議がなされ、結果、平成4年6月11日付で「埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」が交わされるに至った。

調査は既設鉄塔部分を除いた鉄塔拡張部分373.45㎡、及び鉄塔大型化に伴い地中配電線を移設する必要が生じたことによるその移設部分302.63㎡、合計676.08㎡を対象に、平成4年6月22日から開始し、同年10月30日に終了した。



第1図 調査地位置図

第2章 遺跡の位置と環境

中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約1kmの範囲を持つと推定されている遺跡である。これまで数次にわたって調査が行われており縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落跡としては有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地とその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、周辺の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年における採集のため、出土状況など詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認さ

れているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集されている他、土器では包含層等からの出土ではあるが主に扇状地及び周辺の遺跡から早期末～前期初頭の可能性のある土器片から晩期に至るまではほぼ全時期を通して見受けられる。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な遺物も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分あると考えられる。

〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の堅穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系の影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地勢的環境からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮磁短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることか



第2図 大東市位置図

ら当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

(古代)

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径1m程の木を削り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

(中世)

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

(近世)

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定される遺構が検出されており、備前播鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺播鉢、石臼などの陶磁器類がまとめて出土している。

(引用・参考文献)

- 大阪府史編纂専門委員会 1991年 『大阪府史』別巻 大阪府
- 大東市教育委員会 1973年 『大東市史』
- 大東市教育委員会 1987年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第1集
- 大東市教育委員会 1989年 『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第3集
- 大東市教育委員会 1990年 『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第6集
- 大東市教育委員会 1997年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集
- 大東市教育委員会 1997年 『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集
- 大東市教育委員会 1998年 『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集
- 大東市教育委員会 1999年 『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集
- 大東市教育委員会 2000年 『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集
- 大東市教育委員会 2004年 『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第21集
- 大東市教育委員会 2002年 『平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書
- 大東市北新町遺跡調査会 1986年 『北新町遺跡第1次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1991年 『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』
- 大東市北新町遺跡調査会 1997年 『北新町遺跡第3次発掘調査概要報告書』
- 大阪府教育委員会 1993・1994年 『室山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯
- 中津健一 1995年 『大東市・北条西遺跡(93・1次調査)』『まんだ』第五十六号
- 黒田淳 1988年 『大東市「宮谷古墳群」の調査』『まんだ』第三十五号



- | | | | | | |
|----------|--------------|-----------|----------|-------------|---------|
| 1 中堀内遺跡 | 2 銅田川遺跡 | 3 元粉遺跡 | 4 若宮遺跡 | 5 福運寺遺跡 | 6 メノコ遺跡 |
| 7 影灯内遺跡 | 8 市水道寺川配水場古墳 | 9 瓦堂遺跡 | 10 福運寺古墳 | 11 城の礎上の段古墳 | |
| 12 城の礎古墳 | 13 堂山上遺跡 | 14 堂山下古墳 | 15 堂山古墳群 | 16 六地藏古墳 | |
| 17 十林寺古墳 | 18 寺川古墳群 | 19 大谷神社古墳 | 20 寺川遺跡 | 21 大谷古墳群 | |
| 22 寺川浜遺跡 | 23 野崎余筆遺跡 | 24 中堀内東遺跡 | 25 若宮東遺跡 | | |

第3図 周辺遺跡分布図

第3章 調査の方法

今回の調査区は既設の鉄塔の撤去と併行して大型の鉄塔を設置するという工法によるため、調査時においては既設の鉄塔が遺存する状況であった。その状況から派生する諸事情のため、鉄塔幅部分については2ヶ所に分断されることになり、地中配電線移設部分を含め合計3ヶ所の調査区になることから、鉄塔の2ヶ所の部分をそれぞれA区、B区とし、移設部分をC区とした。

掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

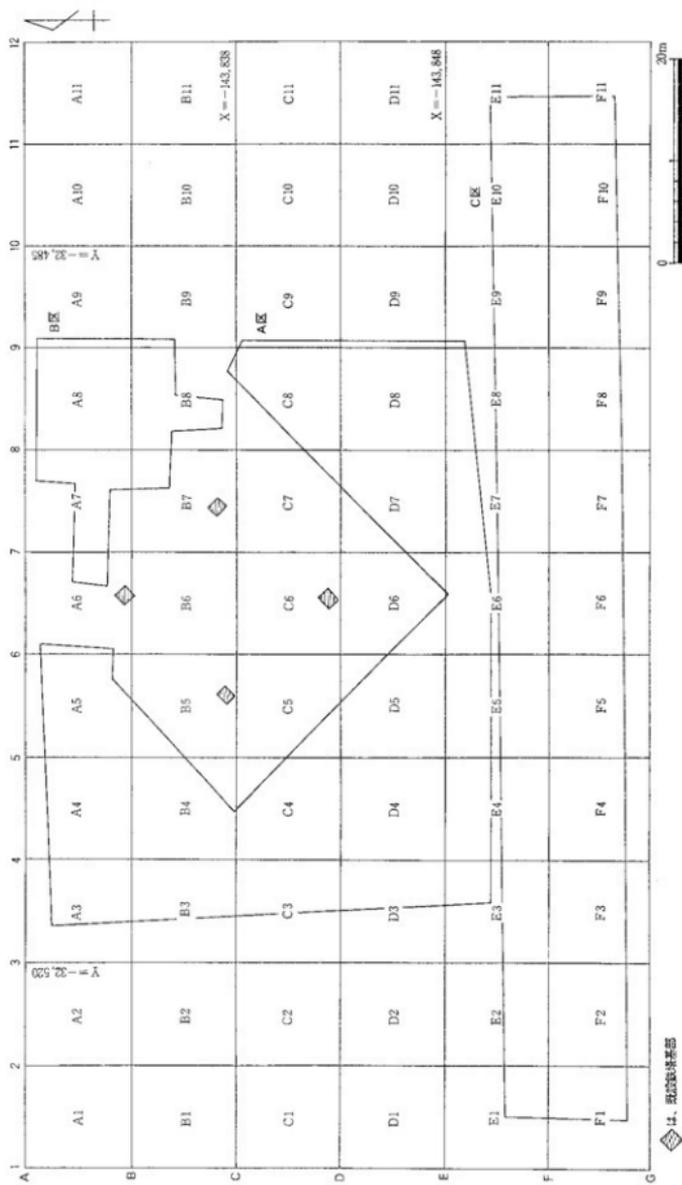
遺構の平面実測については、変電所内ということもあり、また送電線等が走ることからクレーン、ヘリコプターなどによる空中写真測量は不可能であったため、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近においてA、B、C区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国上座標第VI系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ5mごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に5m四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点として算用数字を順次付し、また東西座標軸については北端を起点としてアルファベットを順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点をを用いている(第4図)。また、水準についてはT. P. (東京湾平均海面値)を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については調査区毎、および遺構検出面ごとに付与しており、それらの各区名、各遺構面を示す数字は遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については、写真撮影用の足場を安全上建てることができなかったので、調査区広域を対象とした撮影には関西電力が工事の際に使用するバケット車を使用した。特に調査区全域を撮影する場合には変電所内施設を利用したため、その際は関西電力の職員が撮影を実施した。撮影には6×7の中型カメラによるモノクロ撮影、35mm小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている。

また、今回の調査では弥生時代集落の遺跡であることから石鏃などの石製品や石屑が多量に含まれていることが想定されたため、遺構の埋土、包含層掘削土のすべてを採取して水洗作業を実施しその抽出に努めた。しかし、諸般の事情から調査と平行してその作業を終える必要があったため、石製品以外のその他微細な遺物、骨、種子などの抽出については実施することができなかった。



第4图 调查区剖面

第4章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査では3面の遺構面を確認した。基本的層序については以下の通りである。

第I層 盛土。層厚0.5m。現況でT. P. +4.8mを測る。

第II層 灰緑色土。層厚0.2～0.3m。調査区西半部に認められた。

第III層 茶褐色土。層厚0.2～0.3m。調査区東半部に認められた。

第IV層 灰黄～灰白色砂。層厚0.1～0.2m。A区東半部、B区南半部に認められた。

第V層 黒褐色～黒灰色土。層厚0.2m。C区西半部を除き、ほぼ全域に認められた。弥生時代中期の包含層である。第1遺構面のベース面をなす。

第VI層 暗緑灰～暗灰緑色土。層厚0.2～0.3m。第2遺構面のベース面をなす。

第VII層 淡灰緑色シルト。層厚0.1m。いわゆる地山層である。第3遺構面のベース面をなす。

第2節 第1遺構面

第V層をベース面として、溝、土坑、ピットなどを検出した(第13図)。標高はC区東側が最も高く、T. P. +4.5m測り、またC区西側が最も低くT. P. +3.9mを測る。A、B区は若干、西に向かって傾斜する傾向があるが、概ねT. P. +4.2m前後である。

1. 溝

[A区]

12条を検出した。ほぼ東西南北に走るものであり、規模からみて鋤溝など耕作に伴うものと考えられる。遺物は瓦器、瓦質土器、須恵器、土師器などが出土しており概ね中世に比定できる。

[C区]

22条を検出した。ほぼ南北に走るものが多数を占めている。A区の溝と同様、規模からみて鋤溝など耕作に伴うものと考えられる。遺物は瓦器、瓦質土器、須恵器などが出土しており概ね中世に比定できる。

2. 土坑

[C区]

SK-C101 (第11図)

F7区で検出した。ほぼ楕円形を呈し、規模は長径約0.9m、短径約0.6m、深さ約0.2mを測る。埋土は黄褐色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

SK-C102

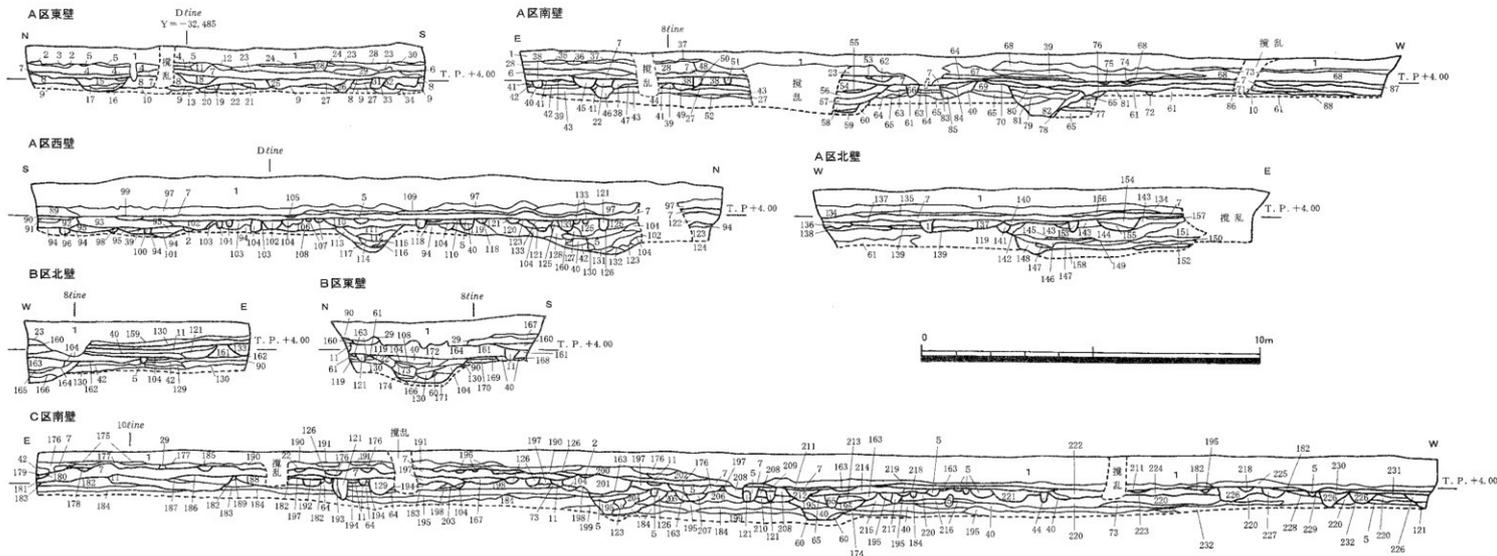
F6区で検出した。SK-C103を切る。調査区外に広がるため形態は明らかでないが、ほぼ隅丸の長方形を呈するものと思われる。規模は幅約0.9m、深さ約0.09mを測る。遺物は須恵器が出土している。

SK-C103

F6区で検出した。SK-C102に切られる。ほぼ楕円形を呈し、規模は長径約2.1m、短径約0.7m、深さ約0.15mを測る。遺物は須恵器が出土している。

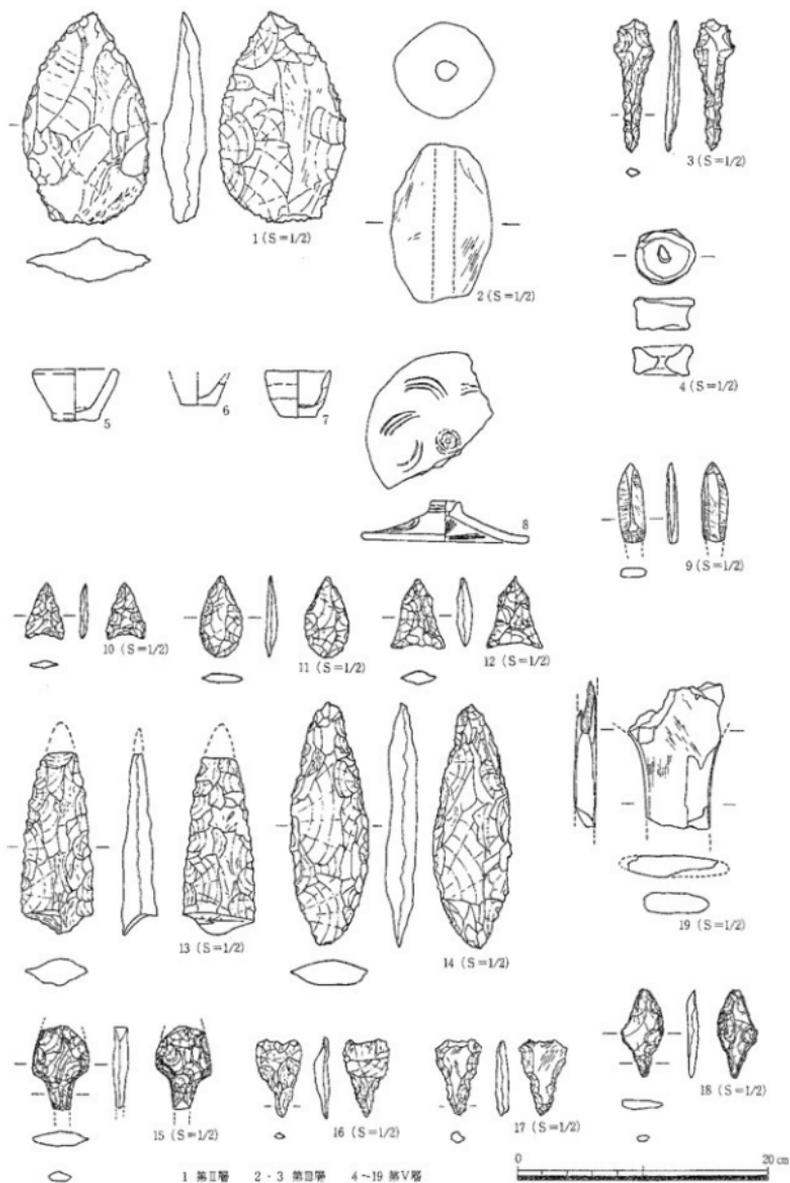
SK-C104 (第12図)

F5区で検出した。溝に切られる。深さ約0.06mを測る。遺物は出土していない。

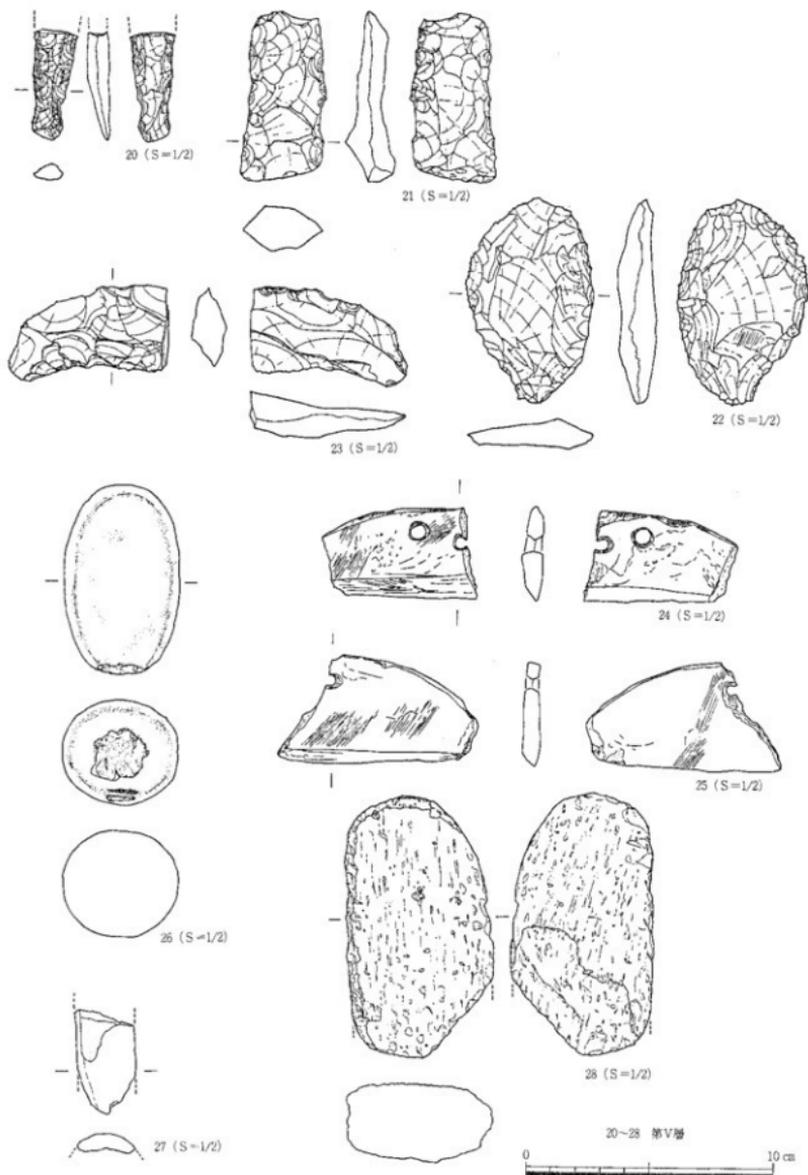


- | | | | | |
|-------------------------|-------------------|------------------------------|-------------------|-----------------------------|
| 1 藍土 | 48 緑灰色土混じり暗灰色土 | 95 灰緑色粘土混じり黄灰色砂質土 | 142 暗緑褐色土 (ベース層) | 188 茶褐色混じり暗灰色土 |
| 2 灰白色砂質土 | 49 暗灰色粘質土 | 96 暗灰色細砂質土 (灰緑色土下及び黄灰色粗砂を含む) | 143 黄灰色粗砂混じり暗灰色土 | 189 暗灰色粘質土 |
| 3 灰白色土混じり灰褐色シルト | 50 暗灰色粘質土 | 97 暗緑褐色土 | 144 灰褐色土 | 190 暗灰色土 |
| 4 暗茶褐色土 (暗灰色土のブロックを含む) | 51 暗灰色粘質土 | 98 黄灰色粘質土混じり暗灰色土 | 145 灰褐色粘質土 | 191 暗緑褐色粘質土 |
| 5 暗灰色砂質土 | 52 緑灰色粘土 | 99 灰緑色粘土混じり暗灰色土 | 146 灰褐色粘質土 | 192 暗緑褐色粘質土 (粘土を含む) |
| 6 暗茶褐色土混じり暗灰色粘質土 | 53 暗緑褐色粘質土 | 100 黄灰色粗砂混じり暗灰色砂質土 | 147 暗茶褐色粘質土 | 193 暗灰色粘質土 |
| 7 黄褐色土 | 54 暗褐色土 (黒灰色土を含む) | 101 灰色シルト | 148 暗茶褐色粘質土 | 194 暗灰色粘質土 |
| 8 暗緑褐色土 | 55 灰白色砂 | 102 暗褐色粘質土 | 149 暗褐色粘質土 | 195 暗褐色粘質土 |
| 9 灰緑色シルト | 56 暗緑褐色粘質土 | 103 暗灰色粘質土 | 150 暗褐色粘質土 | 196 暗褐色粘質土 |
| 10 灰白色砂 | 57 暗褐色粘質土 | 104 暗緑褐色粘質土 | 151 黄褐色粘質土 | 197 暗褐色粘質土 |
| 11 黒褐色粘質土 | 58 暗緑褐色粘質土 | 105 黄褐色粘質土 | 152 暗褐色粘質土 | 198 暗褐色粘質土 |
| 12 黄褐色粘質土 | 59 暗褐色粘質土シルト | 106 黄褐色粘質土 | 153 暗褐色粘質土 | 199 暗褐色粘質土 |
| 13 暗褐色粘質土 | 60 暗灰色砂 | 107 黄灰色粗砂混じり暗緑褐色砂質土 | 154 暗褐色粘質土 | 200 暗褐色粘質土 |
| 14 灰白色粘質土 | 61 暗緑色シルト | 108 暗褐色粘質土シルト | 155 暗褐色粘質土 | 201 暗褐色粘質土 (多量の灰、粘土等を含む) |
| 15 暗褐色粘質土 | 62 黄灰色粗砂混じり暗緑褐色土 | 109 暗褐色粘質土混じり暗緑褐色粘質土 | 156 暗褐色粘質土 (灰を含む) | 202 暗褐色粘質土 |
| 16 暗灰色粘質土 | 63 灰緑色シルト (黒色粘土) | 110 暗褐色粘質土 | 157 暗褐色粘質土 | 203 暗褐色粘質土 |
| 17 暗褐色粘質土 | 64 暗褐色粘質土 | 111 暗褐色粘質土 | 158 暗褐色粘質土 | 204 暗褐色粘質土混じり暗緑褐色粘質土 |
| 18 暗褐色粘質土 | 65 暗褐色粘質土 | 112 暗褐色粘質土 | 159 暗褐色粘質土 | 205 暗褐色粘質土 |
| 19 暗褐色粘質土 | 66 暗褐色粘質土 | 113 暗褐色粘質土 | 160 暗褐色粘質土 | 206 暗褐色粘質土 |
| 20 暗褐色粘質土 | 67 暗褐色粘質土 | 114 暗褐色粘質土 | 161 暗褐色粘質土 | 207 暗褐色粘質土 |
| 21 暗褐色粘質土 | 68 暗褐色粘質土 | 115 暗褐色粘質土 | 162 暗褐色粘質土 | 208 暗褐色粘質土 |
| 22 暗褐色土 | 69 暗褐色粘質土混じり土 | 116 暗褐色粘質土 | 163 暗褐色粘質土 | 209 暗褐色粘質土 |
| 23 暗褐色土 | 70 暗褐色粘質土 | 117 暗褐色粘質土と灰色粘土の互層 | 164 暗褐色粘質土 | 210 暗褐色粘質土 |
| 24 暗褐色粘質土 | 71 暗褐色粘質土 | 118 暗褐色粘質土 | 165 暗褐色粘質土 | 211 暗褐色粘質土 |
| 25 暗褐色粘質土 | 72 黒色土混じり暗緑褐色砂 | 119 暗褐色粘質土 | 166 暗褐色粘質土 | 212 暗褐色粘質土 (底部に粘土、灰等を多量を含む) |
| 26 暗褐色粘質土 | 73 暗褐色粘質土 | 120 暗褐色粘質土 | 167 暗褐色粘質土 | 213 暗褐色粘質土 |
| 27 暗褐色粘質土 | 74 暗褐色粘質土 | 121 暗褐色粘質土 | 168 暗褐色粘質土 | 214 暗褐色粘質土 (多量の灰、粘土等を含む) |
| 28 暗褐色粘質土 | 75 暗褐色粘質土 | 122 暗褐色粘質土 | 169 暗褐色粘質土 | 215 暗褐色粘質土 |
| 29 暗褐色粘質土 | 76 暗褐色粘質土 | 123 暗褐色粘質土 | 170 暗褐色粘質土 | 216 暗褐色粘質土 |
| 30 暗褐色粘質土 | 77 暗褐色粘質土 | 124 暗褐色粘質土 | 171 暗褐色粘質土 | 217 暗褐色粘質土 |
| 31 暗褐色粘質土 | 78 暗褐色粘質土 | 125 暗褐色粘質土 | 172 暗褐色粘質土 | 218 暗褐色粘質土 |
| 32 暗褐色粘質土 | 79 暗褐色粘質土 | 126 暗褐色粘質土 | 173 暗褐色粘質土 | 219 暗褐色粘質土 |
| 33 暗褐色粘質土 | 80 暗褐色粘質土 | 127 暗褐色粘質土 | 174 暗褐色粘質土 | 220 暗褐色粘質土 |
| 34 暗褐色土 | 81 暗褐色粘質土 | 128 暗褐色粘質土 | 175 暗褐色粘質土 | 221 暗褐色粘質土 |
| 35 黄褐色土混じり灰色土 | 82 灰褐色粘質土 | 129 暗褐色粘質土 | 176 暗褐色粘質土 | 222 暗褐色粘質土 |
| 36 暗褐色粘質土 | 83 暗褐色粘質土 | 130 暗褐色粘質土 | 177 暗褐色粘質土 | 223 暗褐色粘質土 |
| 37 暗褐色粘質土 | 84 黄灰色粘質土 | 131 暗褐色粘質土 | 178 暗褐色粘質土 | 224 暗褐色粘質土 |
| 38 暗褐色粘質土 | 85 暗褐色粘質土 | 132 暗褐色粘質土 | 179 暗褐色粘質土 | 225 暗褐色粘質土 |
| 39 暗褐色粘質土 | 86 暗褐色粘質土 | 133 暗褐色粘質土 | 180 暗褐色粘質土 | 226 暗褐色粘質土 |
| 40 暗褐色粘質土 | 87 黄褐色土混じり暗緑褐色粘質土 | 134 暗褐色粘質土 | 181 暗褐色粘質土 | 227 暗褐色粘質土 |
| 41 暗褐色粘質土 (黒色の斑点を含む) | 88 暗褐色粘質土 | 135 暗褐色粘質土 | 182 暗褐色粘質土 | 228 暗褐色粘質土 |
| 42 暗褐色土 | 89 暗褐色粘質土 | 136 暗褐色粘質土 | 183 暗褐色粘質土 | 229 暗褐色粘質土 |
| 43 暗褐色粘質土 | 90 黄褐色粘質土 | 137 暗褐色粘質土 | 184 暗褐色粘質土 | 230 暗褐色粘質土 |
| 44 暗褐色粘質土 | 91 暗褐色粘質土 | 138 暗褐色粘質土 | 185 暗褐色粘質土 | 231 暗褐色粘質土 |
| 45 暗褐色粘質土 | 92 暗褐色粘質土 | 139 暗褐色粘質土 | 186 暗褐色粘質土 | 232 暗褐色粘質土 |
| 46 暗褐色粘質土 (粘土、灰等を多量を含む) | 93 暗褐色粘質土 | 140 暗褐色粘質土 | 187 暗褐色粘質土 | |
| 47 暗褐色粘質土 | 94 暗褐色粘質土 (灰点を含む) | 141 暗褐色粘質土 | 188 暗褐色粘質土 | |

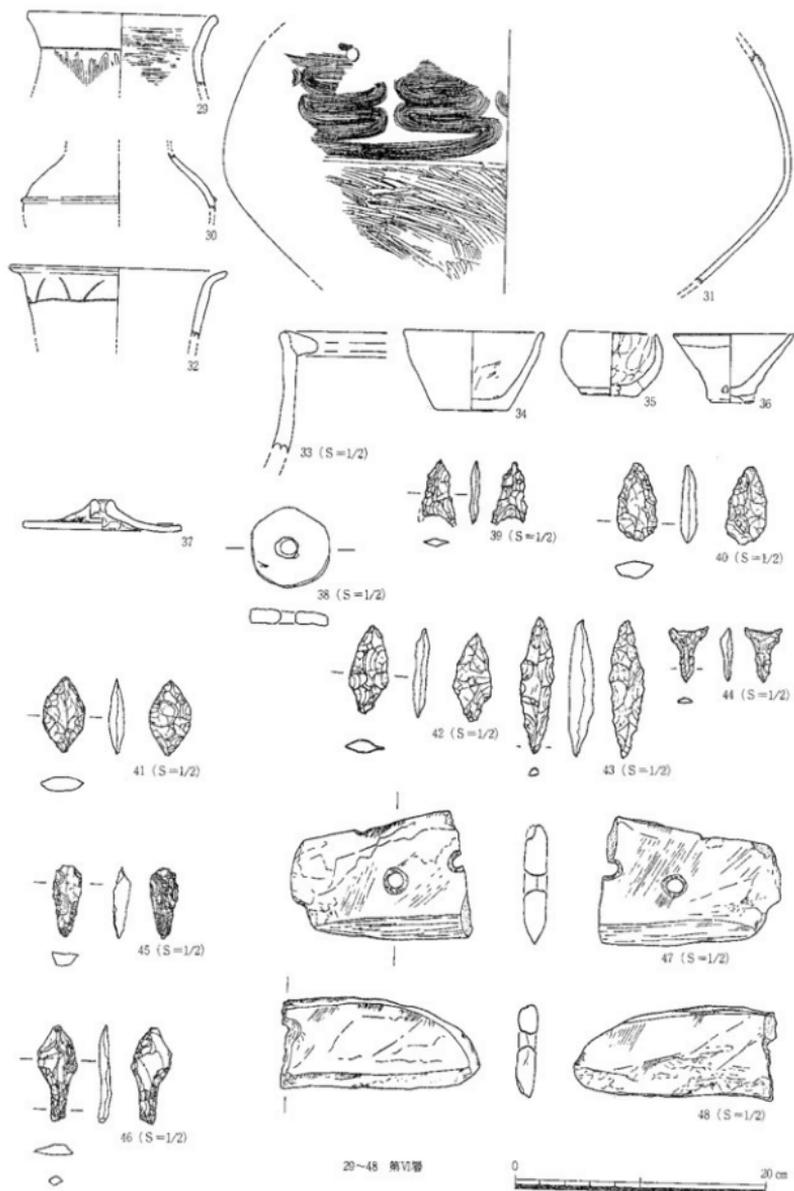
第5図 調査区壁面断面図



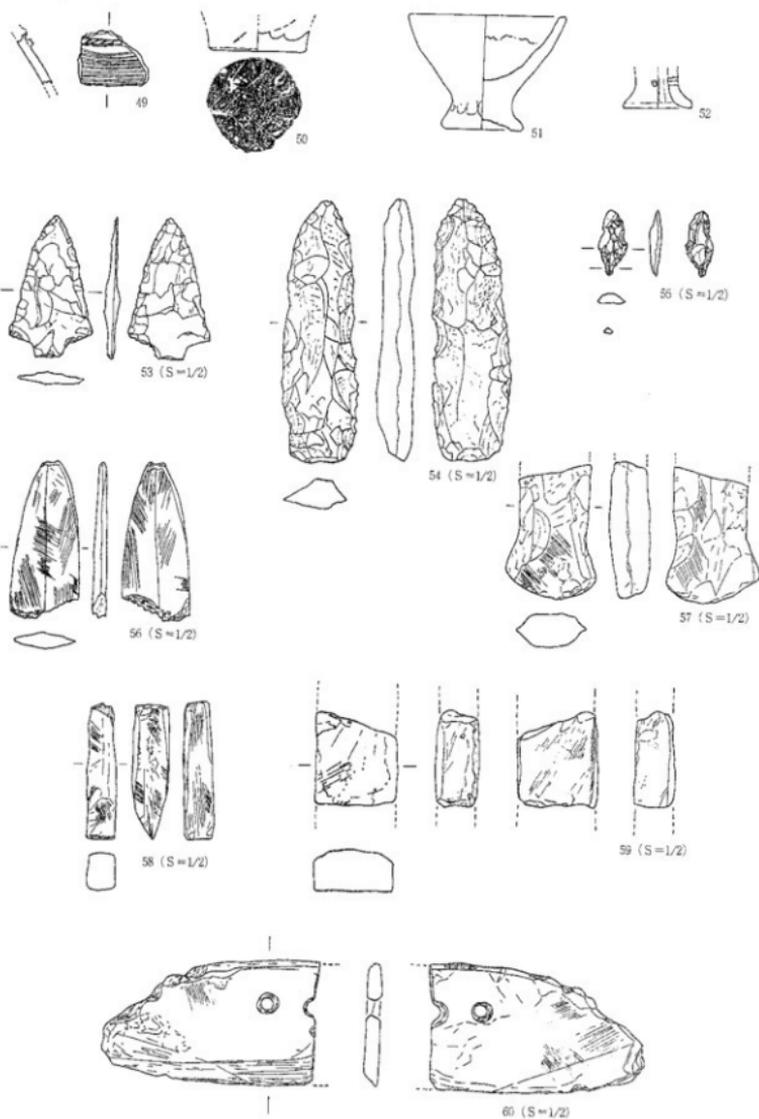
第6圖 包舍層等出土遺物(1)



第7圖 包合層等出土遺物(2)



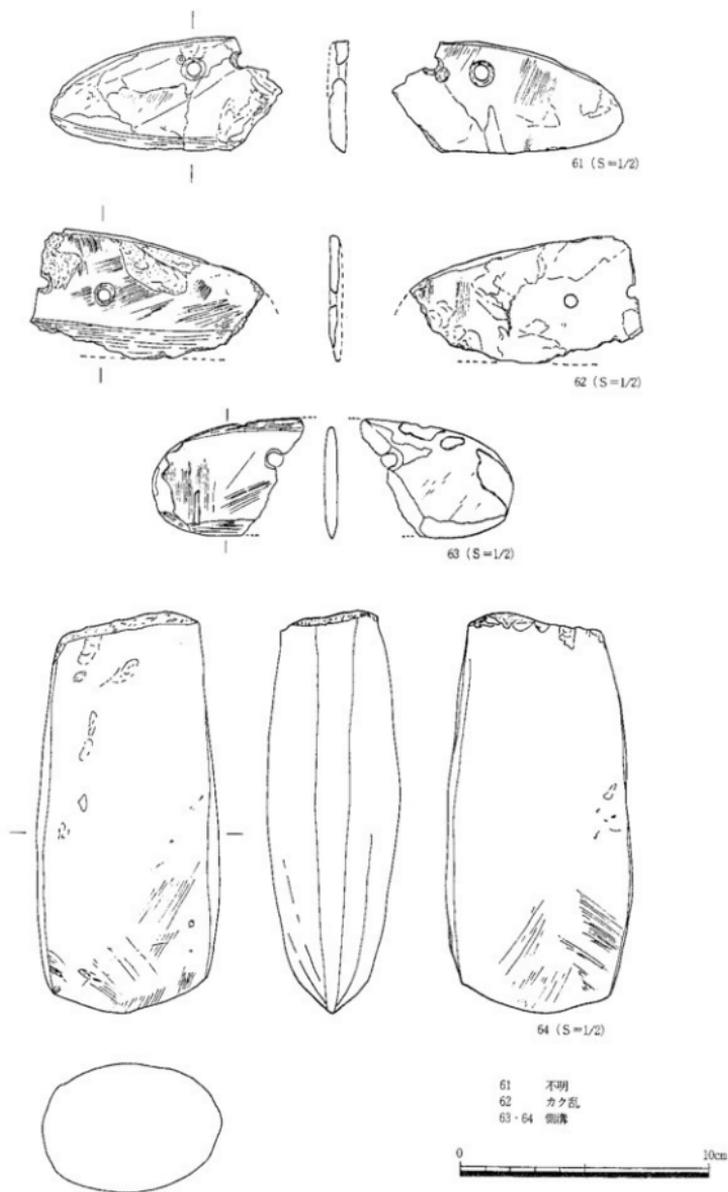
第8图 包含层等出土遗物(3)



49・51・57 カノ乱
50・52・56・59-60 細砂

0 20 cm

第9図 包含層等出土遺物(4)



第10図 包合層等出土遺物 (5)

3. 不明遺構

[A区]

SX-A101 (第14図)

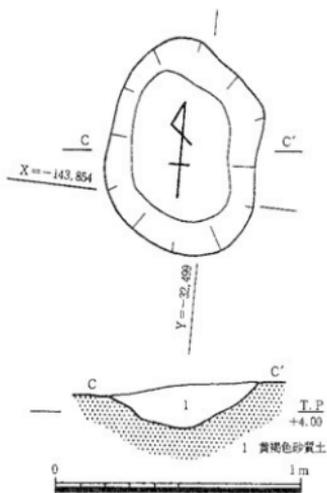
A3~4、B3~4にかけて検出した。不定形を呈し、深さ約0.14mを測る。遺物は瓦器、須恵器などが出土している。

SX-A102 (第14図)

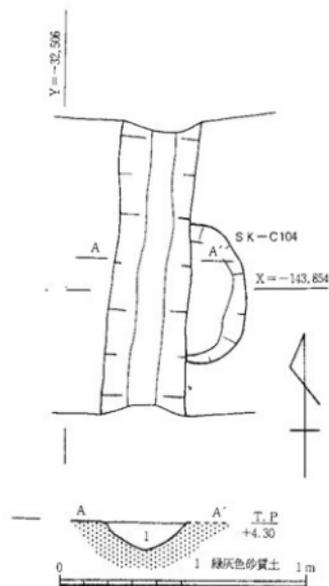
A3~5にかけて検出した。不定形を呈し、深さ約0.08mを測る。遺物は瓦器、須恵器、土師器などが出土している。

4. ビット

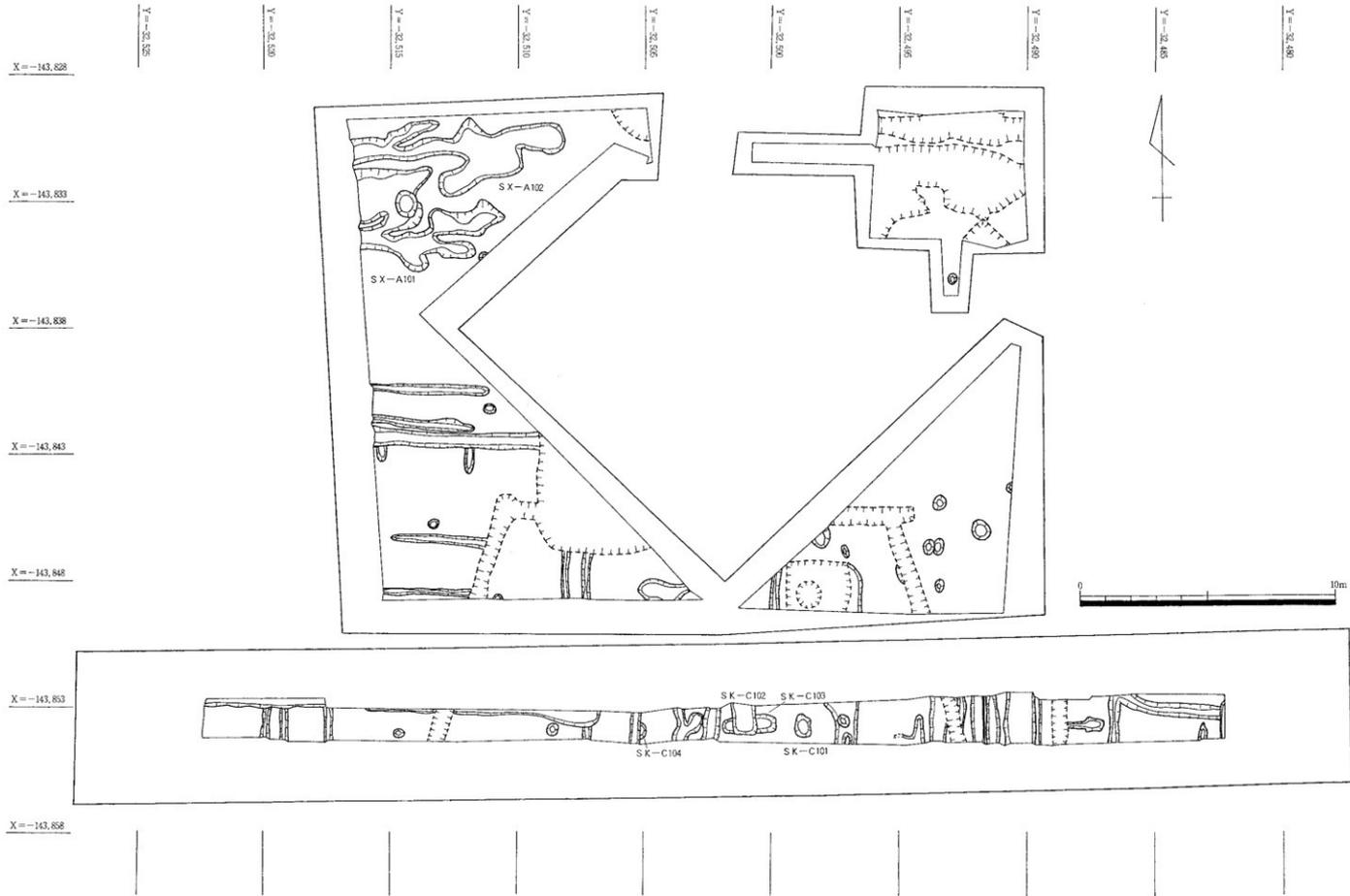
A~C区にかけて18基を検出したが、遺物の出土もなく性格の不明なものである。



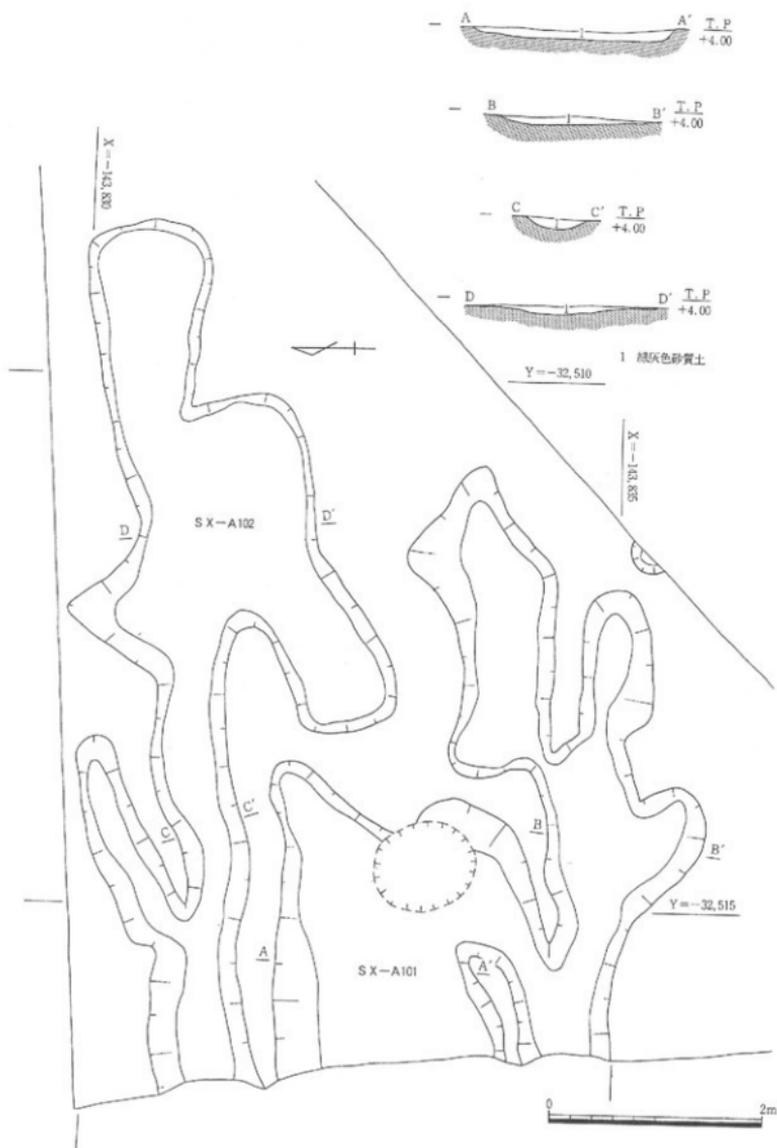
第11図 SK-C101 平・断面図



第12図 SK-C104 溝 平・断面図



第13図 第1遺構面全体図



第14圖 SX-A101·A102 平·断面圖

第3節 第2遺構面

基本層序第VI層をベース面として、溝、土坑、多数のピットを検出した（第15図）。標高は第1遺構面と同様にC区東端が最も高く西および北西に向けて若干、傾斜する傾向を示している。C区東端でT. P. +4.5m、C区西端でT. P. +3.8m、A、B区では概ねT. P. +4.0mを測る。また、C区東端のF9～10区にかけては地形的に高いことにより、既に第3遺構面に対応する面が検出されており、第2遺構面に対応する遺構は形成されていない状況であった。

1. 溝

〔A地区〕

SD-A201（第16図）

C8～E8区にかけて検出した、若干、弧状を描きながら北北西に走る溝である。SD-B201に繋がる。規模は全体の幅は確認し得ないが、およそ約6.0mと推定され、深さ約0.2～0.3mを測る。埋土は3層で黒灰色砂質土、黒灰色土、黒灰色粘質土である。遺物は弥生中期土器、土製品、石製品、木片、動物遺体、炭、種など大量の遺物が出土している。

〔B地区〕

SD-B201（第17図）

A7～8、B7～8区にかけて検出した南北に走る溝である。SD-A201に繋がる。規模は幅約4.7m、深さ約0.2～0.4mを測る。埋土はA区のSD-A201とは酸化、鉄分を含むため若干雰囲気異なるが、4層で暗灰褐色土～粘質土が主体をなす。遺物はSD-A201同様に大量の遺物が出土している。

〔C地区〕

SD-C201

F8区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約0.9m、深さ約0.4mを測る。埋土は2層で褐色混灰黄色砂質土、暗灰黒色土である。遺物は出土していない。

2. 土坑

〔A地区〕

SK-A203（第25図）

D4～5区にかけて検出した。形態、規模は攪乱に切られているため明らかでない。最深部で約0.14mを測る。埋土は1層で黒色土である。遺物は弥生中期土器片、サヌカイト剥片、骨などが出土している。

SK-A204（第26図）

D4で検出した。形態は不定形な円形を呈し、規模は径約1.1～1.3m、深さ約0.18mを測る。埋土は1層で黒色土である。遺物は弥生中期土器片が出土している。

SK-A220（第27図）

A3～4区にかけて検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.5m、短径約0.75m、深さ約0.15mを測る。遺物は弥生中期土器片、石製品、サヌカイト剥片などが出土している。

SK-A227

B4区で検出した。形態は調査区外に伸びるため明らかではないが、ほぼ楕円形を呈するものと思われる。規模は短径約0.4m、深さ約0.09mを測る。埋土は1層で暗灰色土である。遺物は弥生中期土

X = -143,828

005° 25' = A

X = -143,833

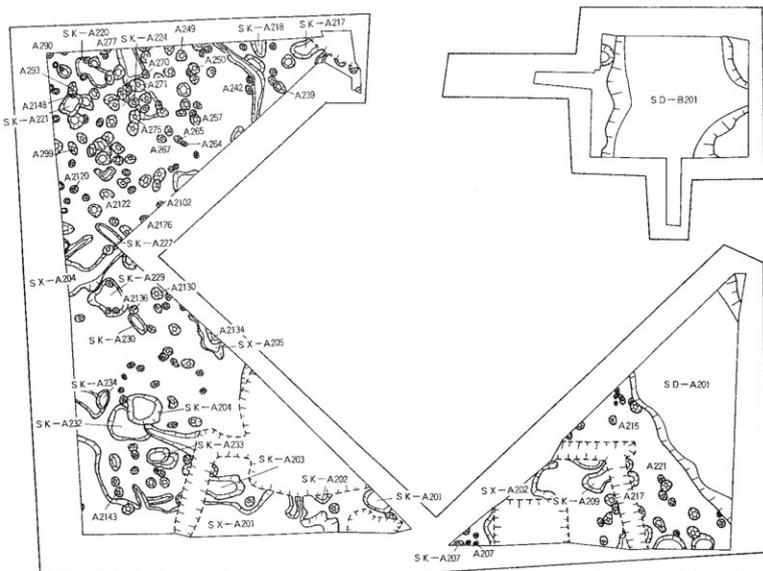
X = -143,838

X = -143,843

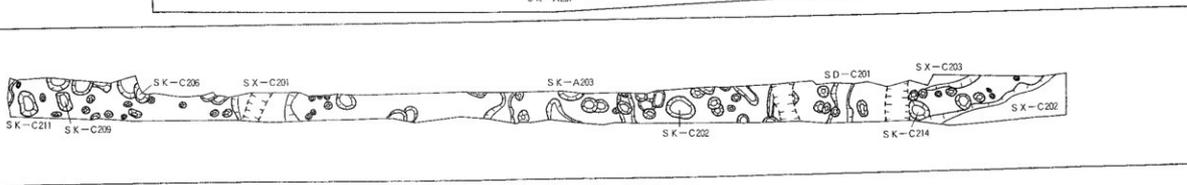
X = -143,848

X = -143,853

X = -143,858



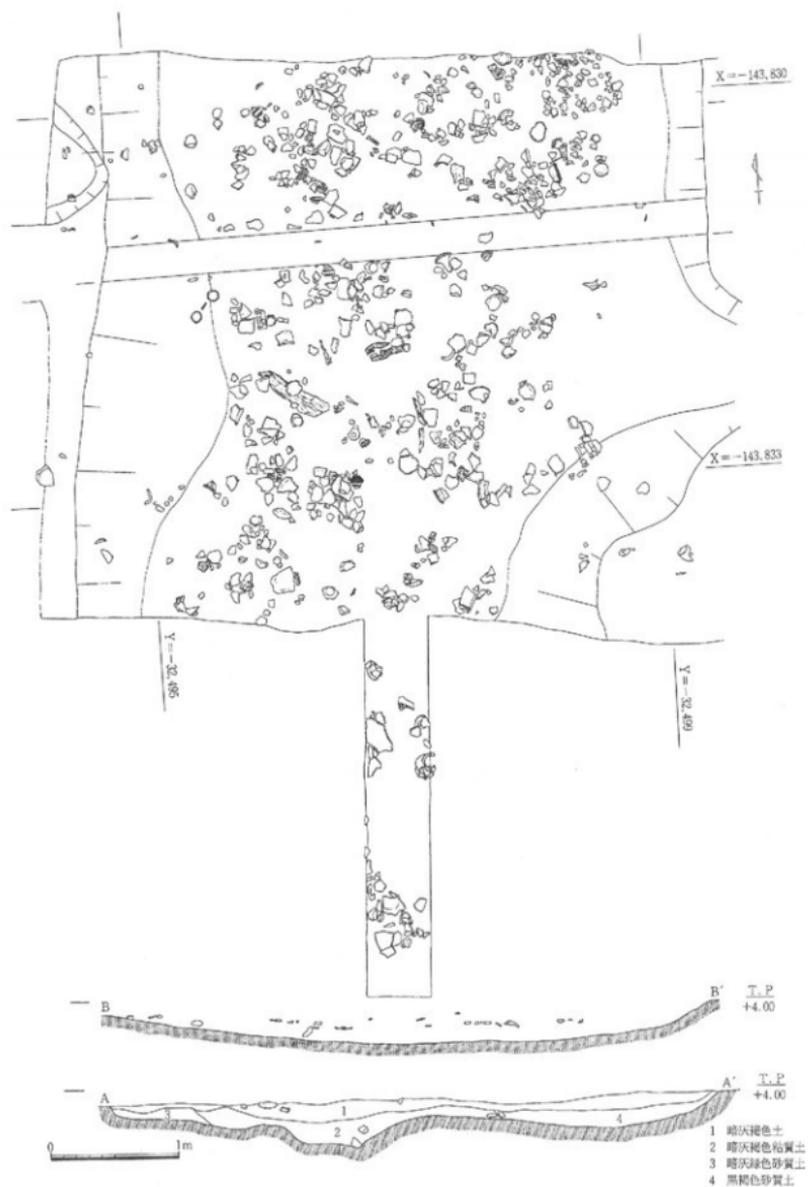
※数字のみはピット (S P)



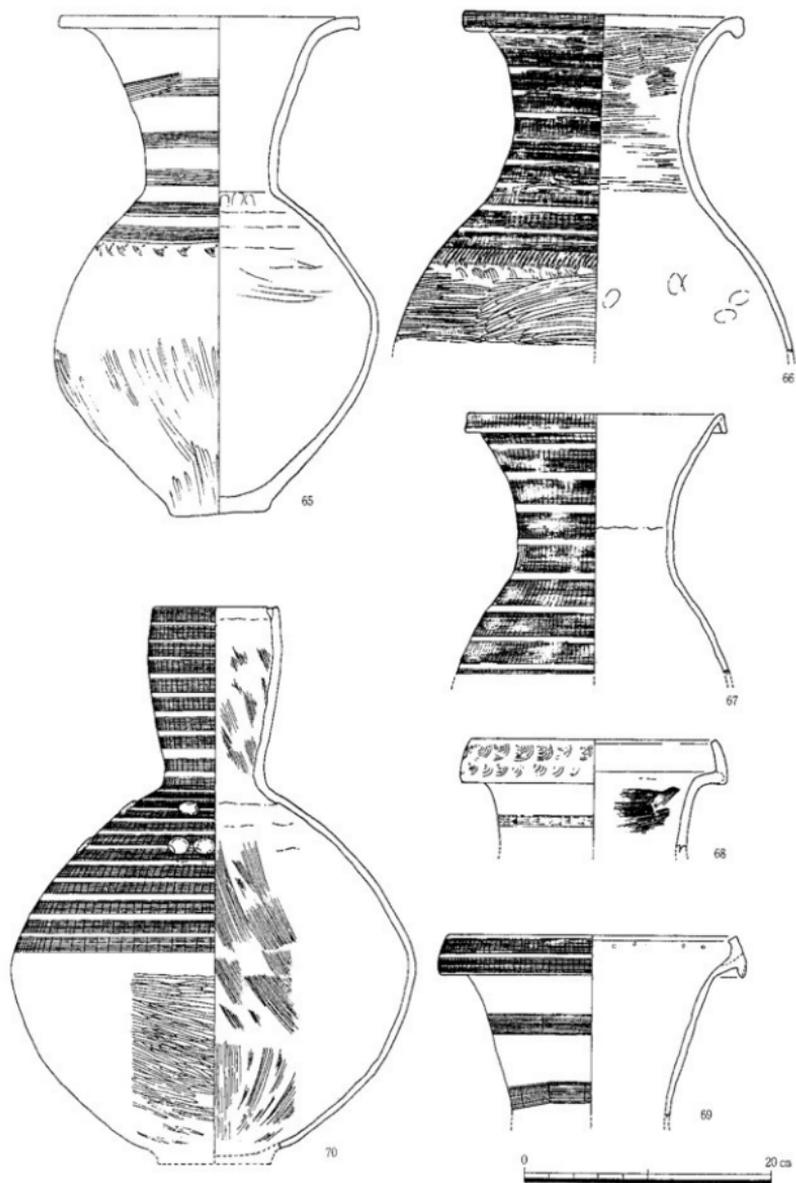
第15図 第2遺構面全体図



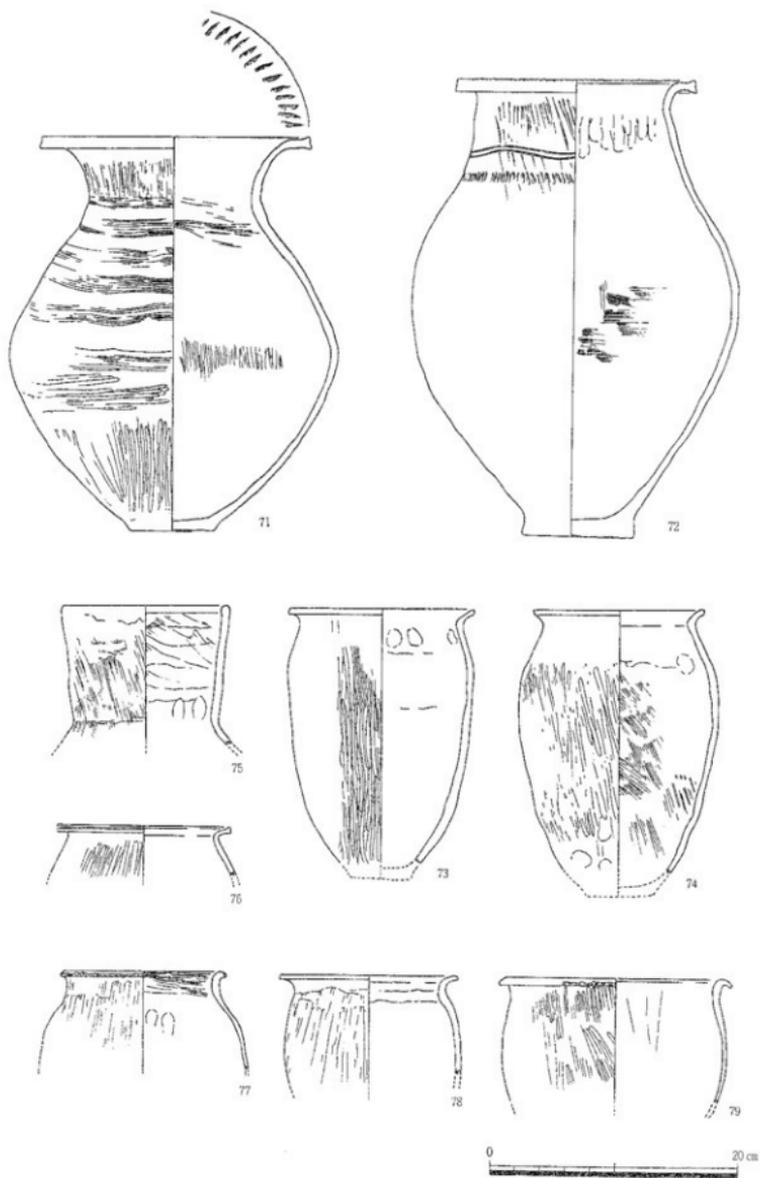
第16图 SD-A201 平·断面·遺物出土狀況图



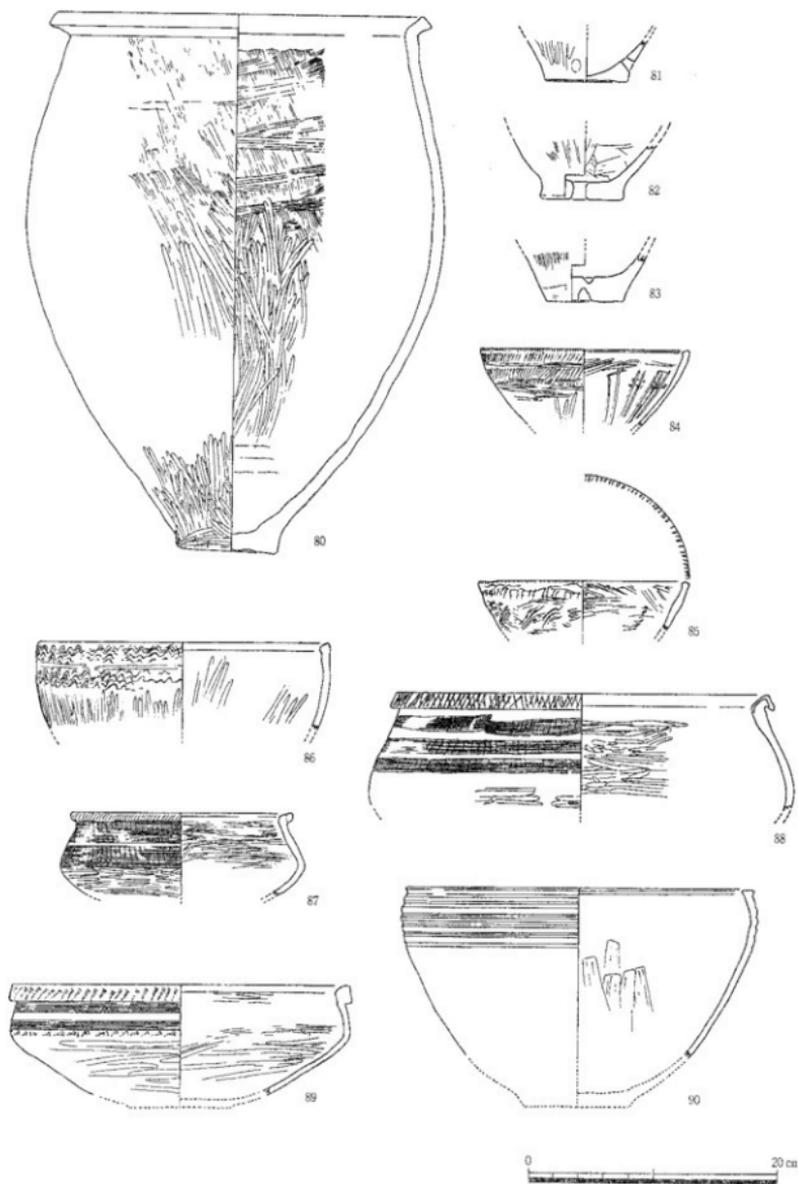
第17圖 SD-B201 平・断面・遺物出土狀況圖



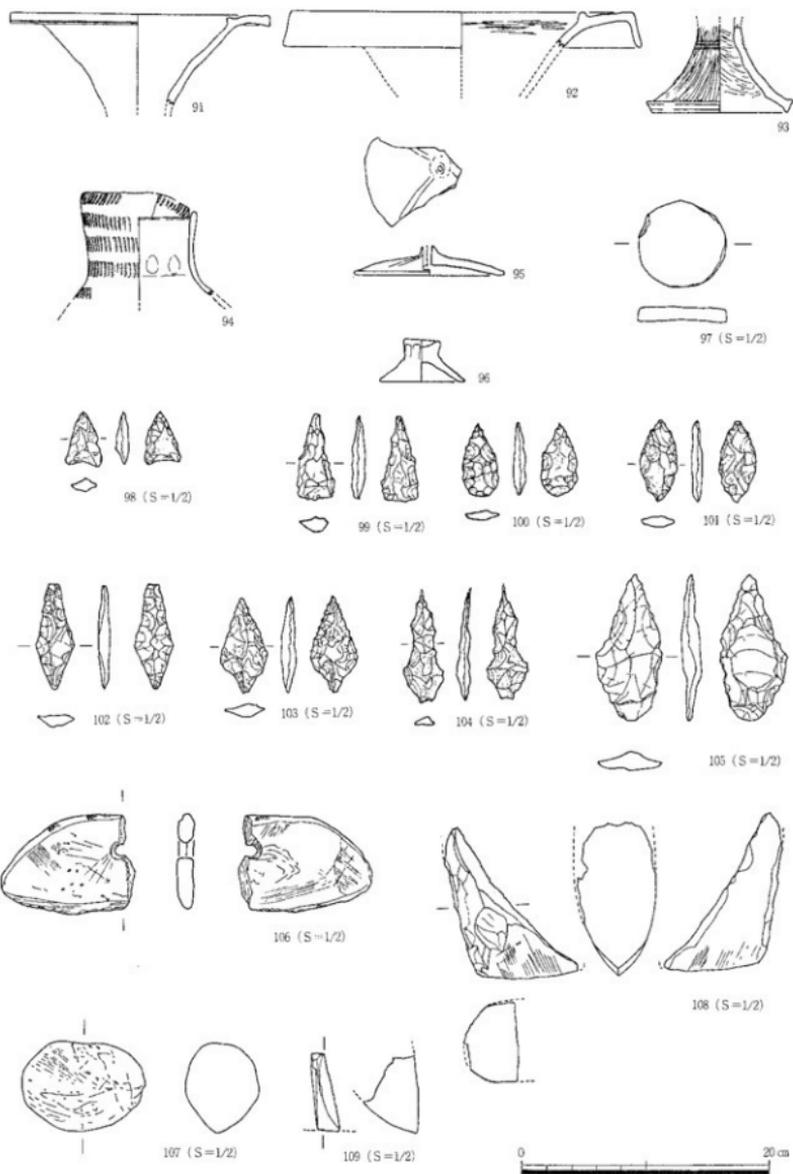
第18圖 SD-A201 出土遺物(1)



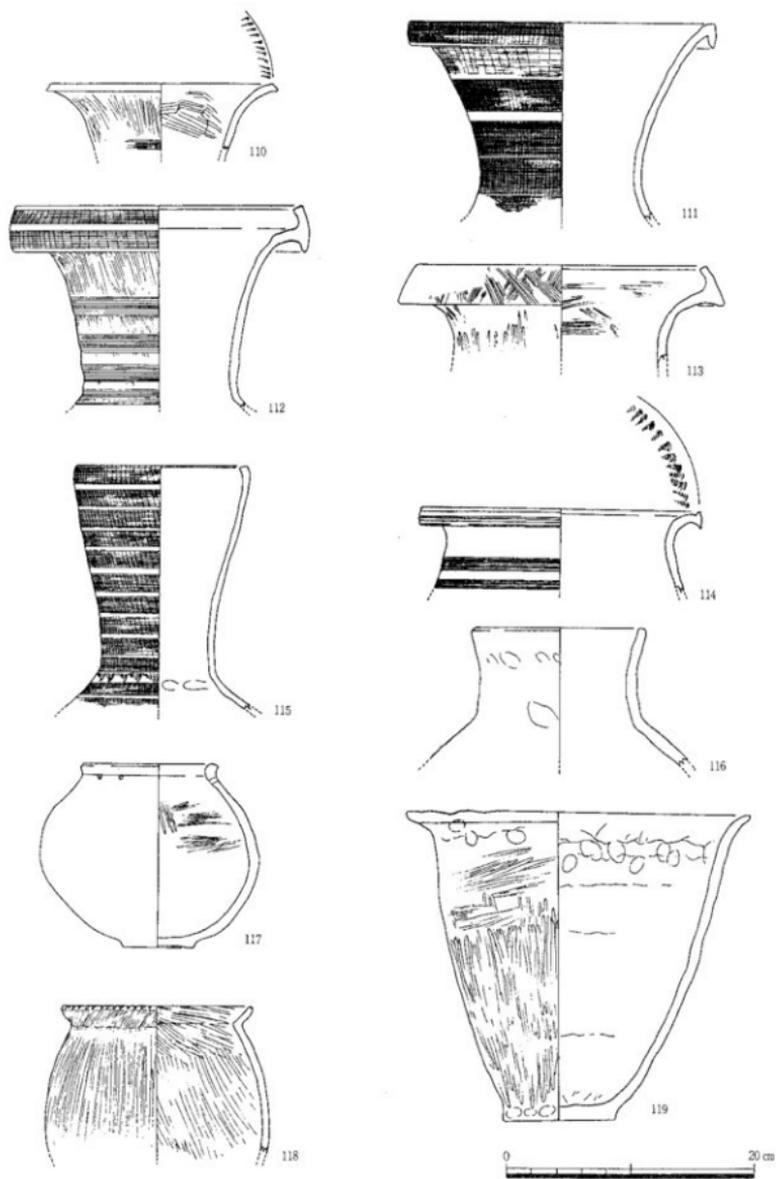
第19圖 SD-A201 出土遺物(2)



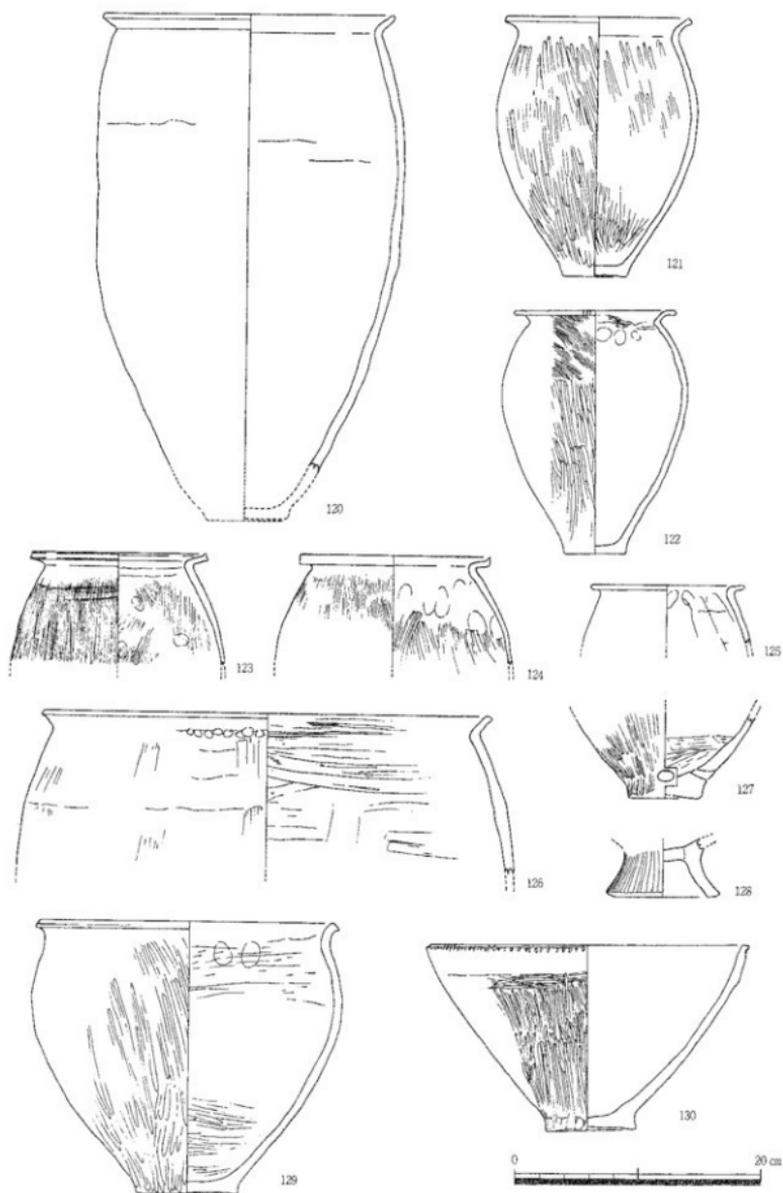
第20圖 SD-A201 出土遺物(3)



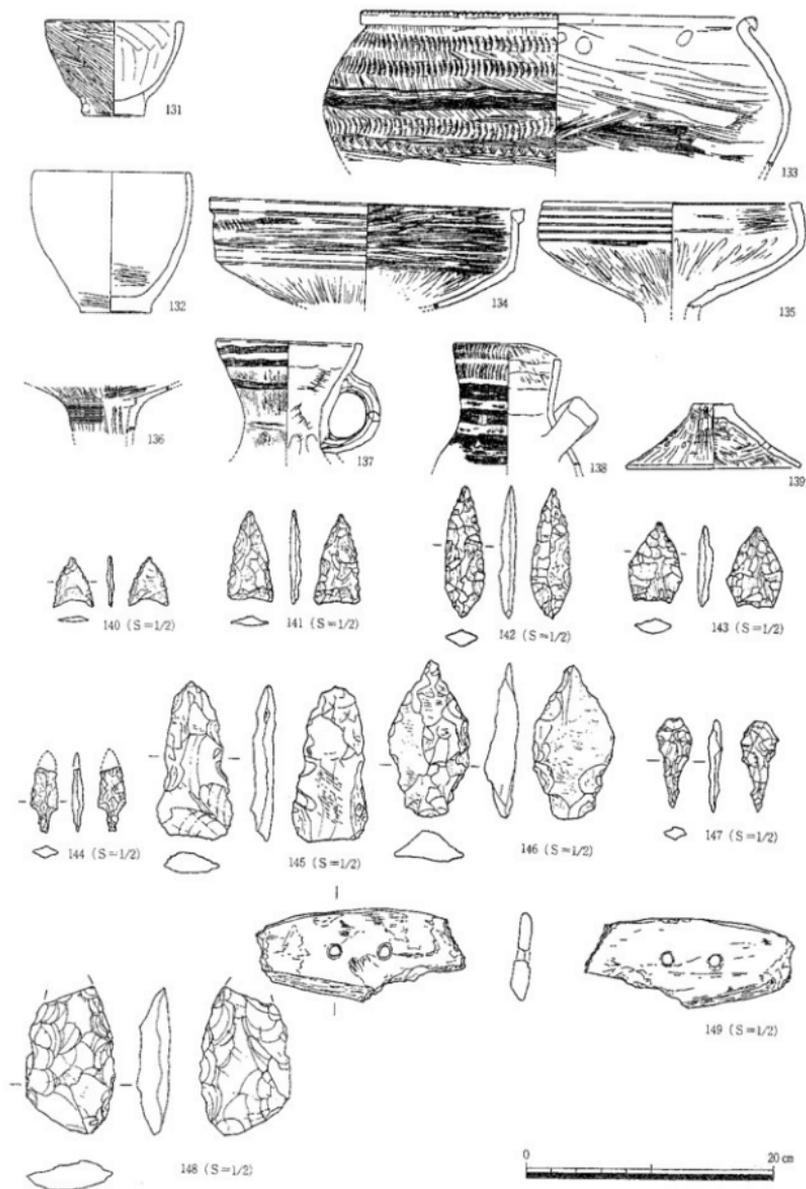
第21圖 SD-A201 出土遺物(4)



第22图 SD-B201 出土遺物(1)



第23図 SD-B201 出土遺物(2)



第24圖 SD-B201 出土遺物 (3)

器片、サヌカイト剥片、骨などが出土している。

SK-A229

C3～4区にかけて検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.4m、短径約1.0m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で黒色土である。遺物は弥生中期土器片、石製品、サヌカイト剥片などが出土している。

SK-A230

C4区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.0m、短径約0.45m、深さ約0.16mを測る。埋土は1層で黒色土である。遺物は弥生中期土器片、サヌカイト剥片、骨などが出土している。

SK-A232 (第26図)

D4区で検出した。SK-A204に切られる。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.8m、短径約0.55m、深さ約0.05mを測る。埋土は2層で黒色土、灰色砂である。遺物は弥生中期土器片が出土している。

SK-A233 (第28図)

D4区で検出した。他の土坑に切られるため、形態は明らかでない。最深部で約0.1mを測る。埋土は1層で黒色土である。遺物は弥生中期土器片が出土している。

SK-A234 (第29図)

D4区で検出した。形態はほぼ円形を呈し、規模は径約0.55m、深さ約0.16mを測る。埋土は2層で暗灰色砂質土、黒色土である。遺物は出土していない。

[C地区]

SK-C202 (第30図)

F7区で検出した。形態はほぼ楕円形を呈し、規模は長径約1.1m、短径約0.9m、深さ約0.15mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は弥生土器片が出土している。

SK-C203 (第31図)

F6区で検出した。形態、規模は調査区外に伸びるため明らかでない。最深部で約0.09mを測る。埋土は3層で灰緑色砂質土、灰色砂質土、暗灰色砂混粘質土である。遺物は弥生土器片、石包丁などが出土している。

SK-C209 (第32図)

F2区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.75m、短径約0.5m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層でややしまった暗灰緑色砂である。遺物は弥生土器片が出土している。

SK-C211 (第33図)

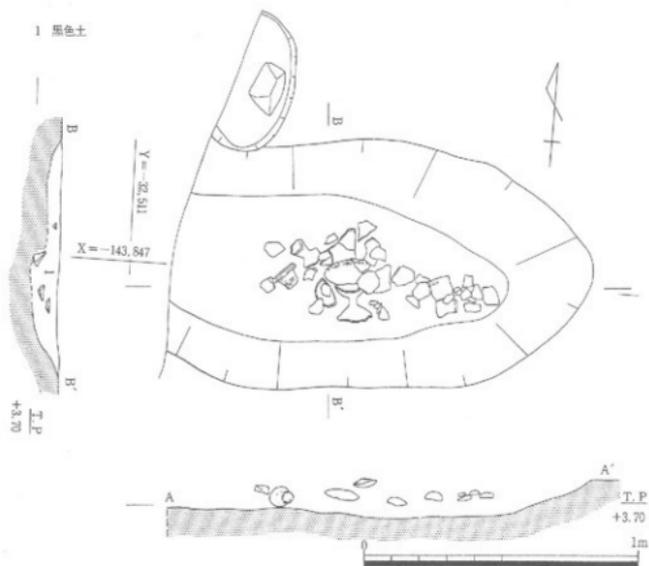
F2区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.0m、短径約0.6m、深さ約0.15mを測る。埋土は1層でややしまった暗灰緑色砂である。遺物は弥生土器片、サヌカイト剥片、骨などが出土している。

3. 不明遺構

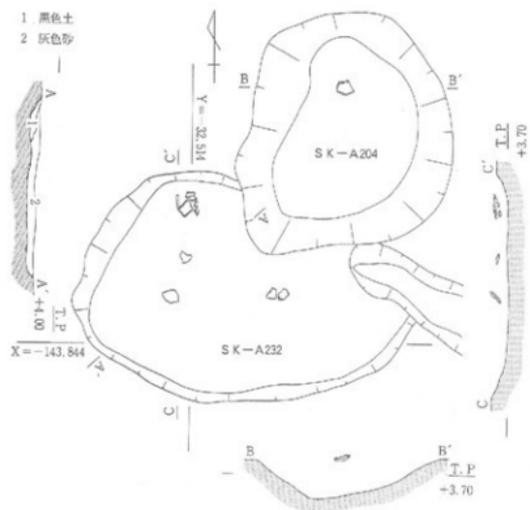
[A地区]

SX-A201 (第34図)

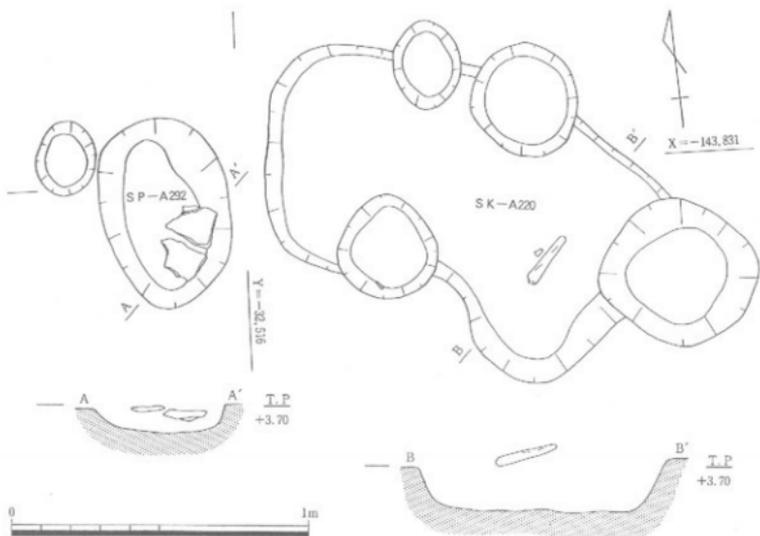
D3～5、E3～5にかけて検出した不定形な土坑である。最深部で約0.12mを測る。埋土は2層で黒色土、暗茶褐色砂混土である。遺物は弥生中期土器片、骨、炭などが出土している。



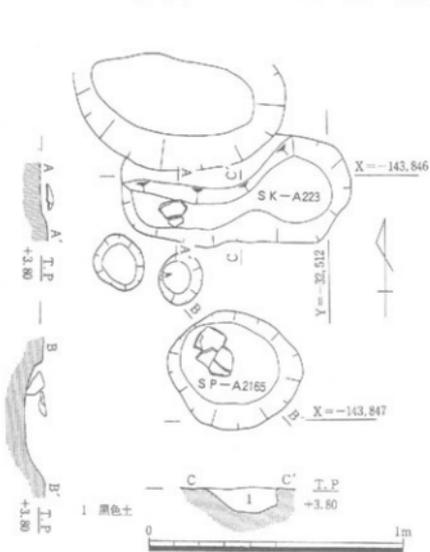
第25图 SK-A203 平·断面·遗物出土状况图



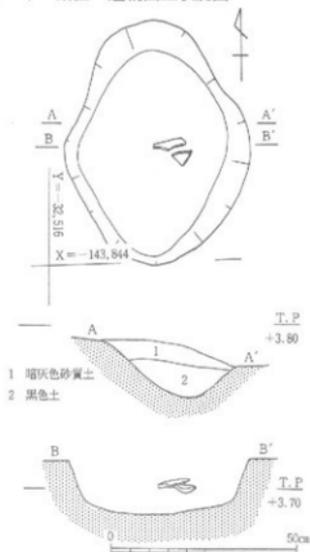
第26图 SK-A204·A232 平·断面·遗物出土状况图



第27图 SK-A220 SP-A292 平·断面·遺物出土狀況図



第28图 SK-A233 SP-A2165
平·断面·遺物出土狀況図



第29图 SK-A234
平·断面·遺物出土狀況図

SX-A202

D7～E7区にかけて検出した不定形な遺構である。最深部で約0.09mを測る。遺物は弥生中期土器片、土製円盤などが出土している。

SX-A204 (第35図)

B4、C3～4にかけて検出した不定形な遺構である。最深部で約0.2mを測る。埋土は2層で暗灰色砂質土、暗灰緑色シルトである。遺物は弥生中期土器片、骨、木片などが出土している。

[C地区]

SX-C201

F4区で検出した形態、規模ともに不明確な遺構である。最深部で約0.74mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は弥生中期土器片が出土している。

SX-C202 (第36図)

E10、F9～10区で検出した形態、規模ともに不明確な遺構である。最深部で約0.28mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は比較的まとまって出土しており弥生前期土器片、土製円盤、骨などが出土している。

SX-C203 (第37図)

E9～F9で検出した形態、規模ともに不明確な遺構である。最深部で約0.17mを測る。遺物は弥生前期土器片、土製円盤などが出土している。

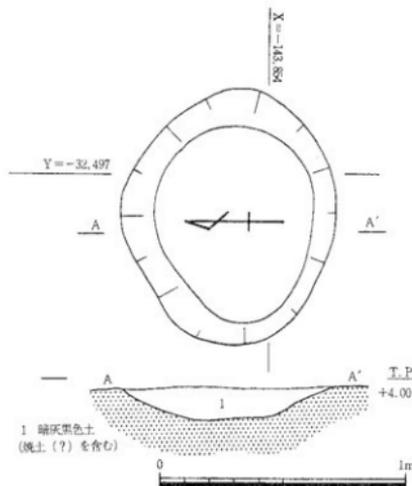
4. ピット

A区で183基、C区で62基を検出した。特にSP-A2122では土器片が根石のような状態で検出されている(第38図)。また、柱材が遺存していたものとしてSP-A215、A221、A242、A257、A264、A265、A267、A271、A275、A277、A299、A2102、A2120、A2134、A2136、A2148、A2176の17基があった。(第39図)

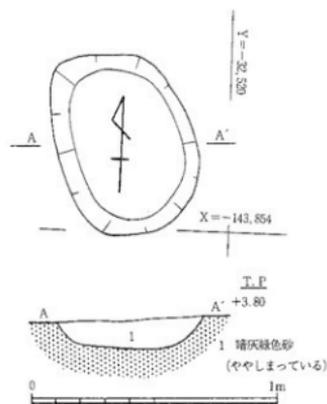
おそらく掘立柱建物が存在するものと思われ、調査時に概ね7棟ほどを想定したが、再検討の結果、断定するには至らなかった。

註

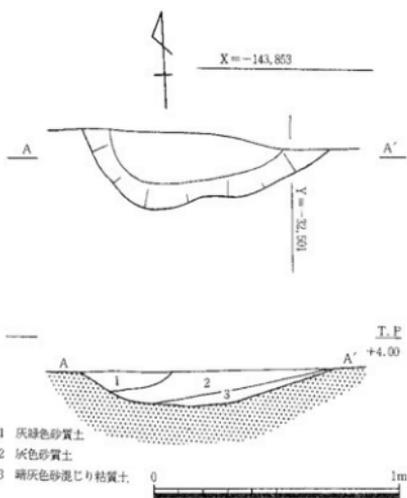
- (1) 『中埴内遺跡現地説明会資料』 大東市教育委員会 1992年10月



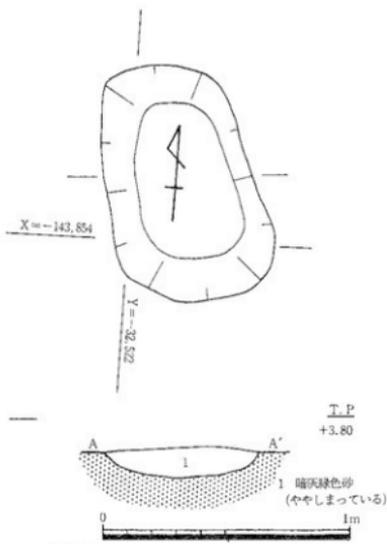
第30図 SK-C202 平・断面図



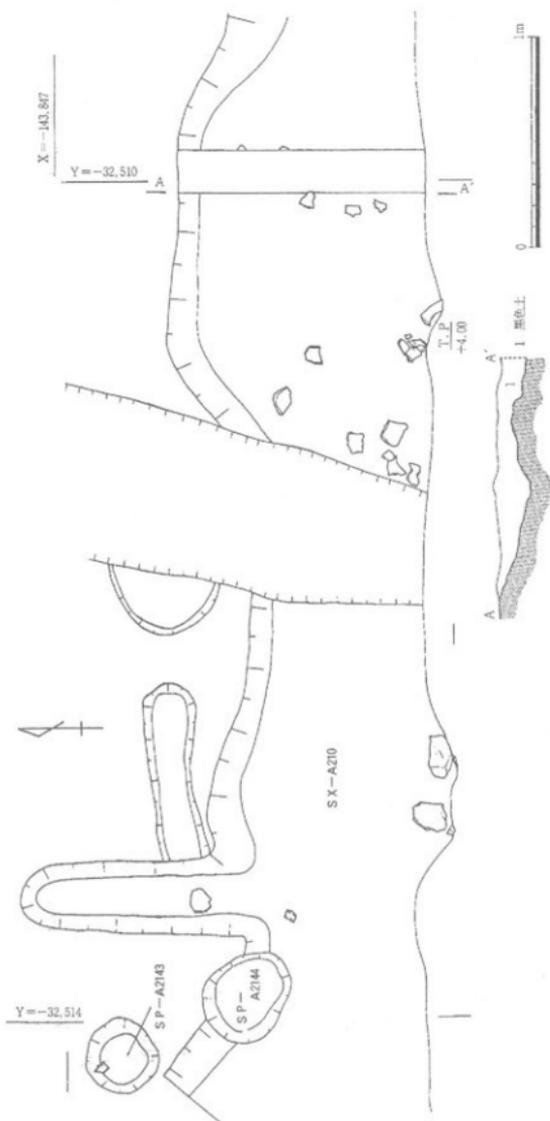
第32図 SK-C209 平・断面図



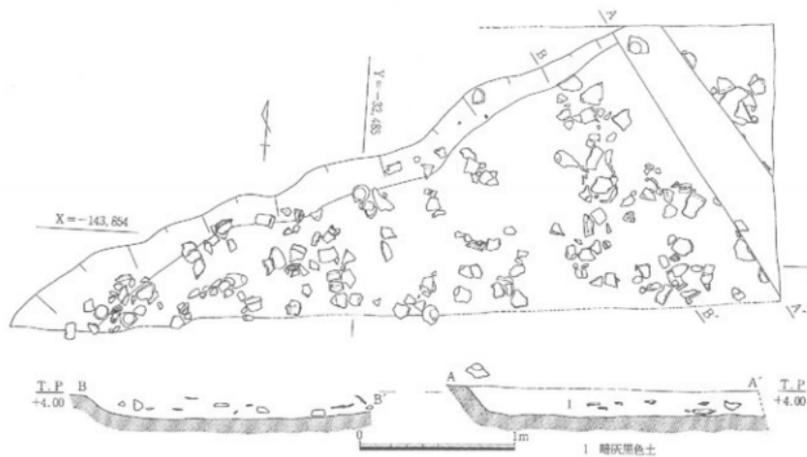
第31図 SK-C203 平・断面図



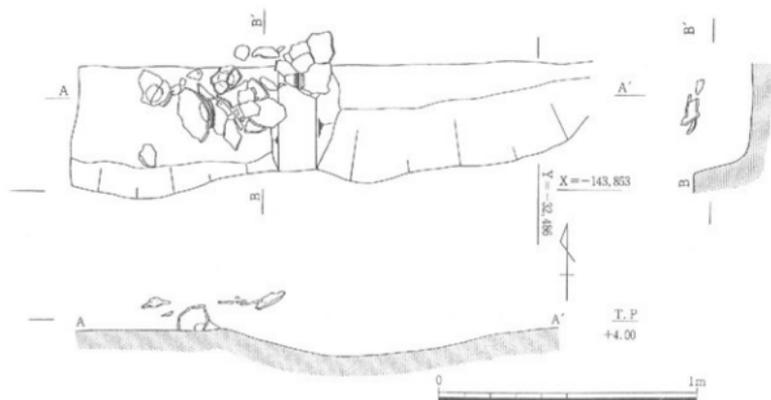
第33図 SK-C211 平・断面図



第34図 SX-A201 遺物出土状況図



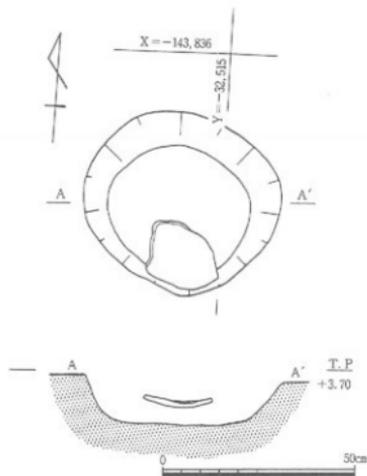
第36圖 SX-C202 平・断面・遺物出土狀況



第37圖 SX-C203 遺物出土狀況圖



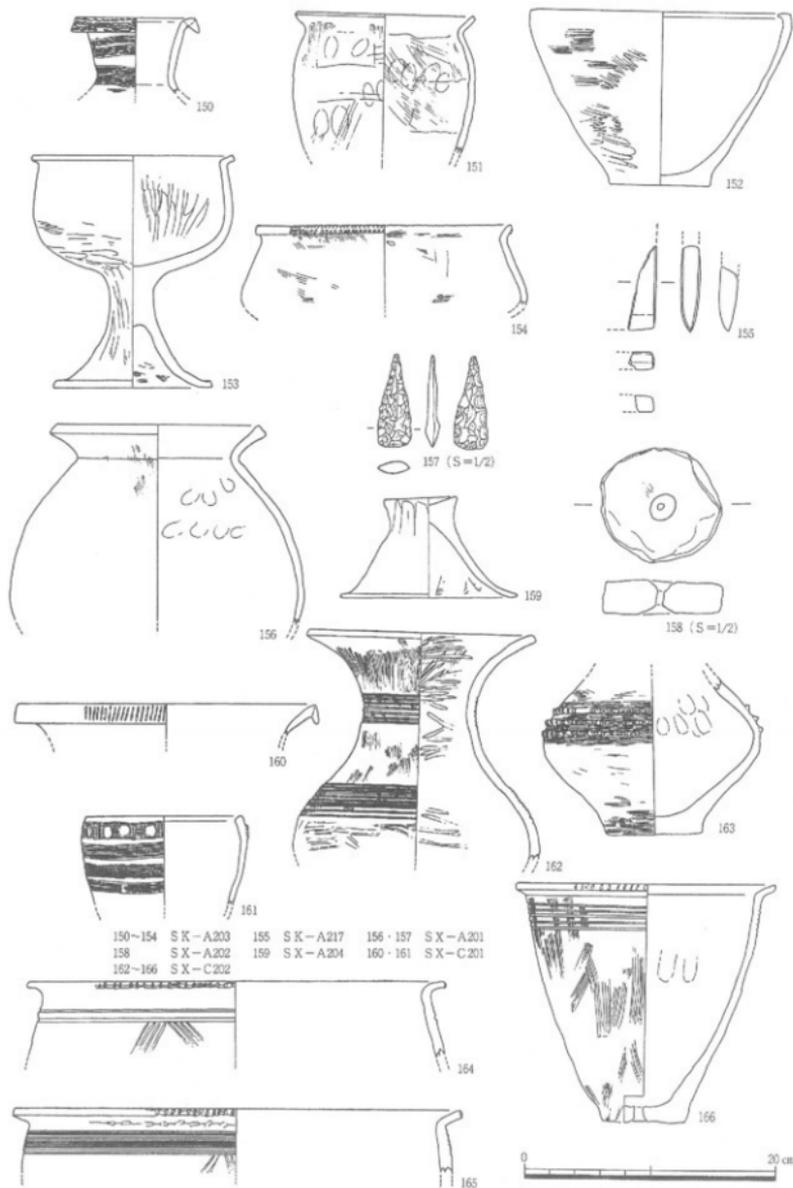
第35図 SX-A204 遺物出土状況図



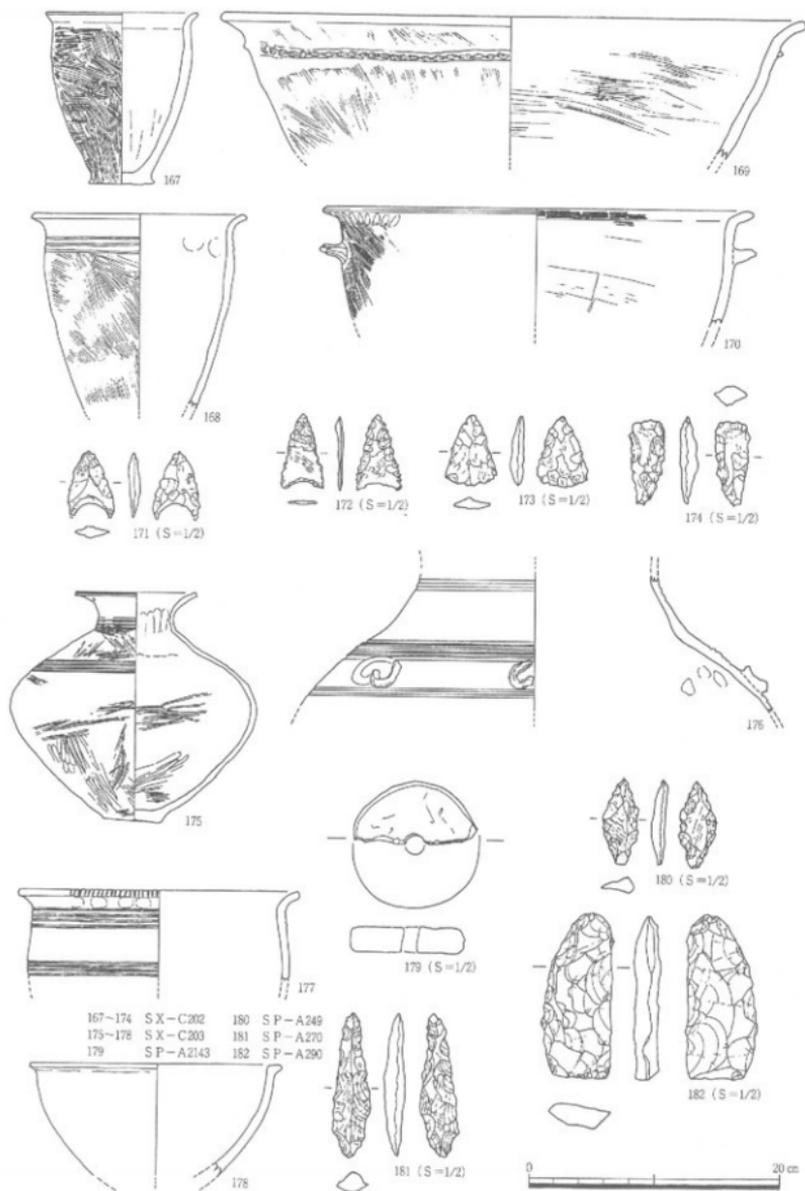
第38図 SP-A2122 遺物出土状況図



第39図 第2遺構面 各ビット (SP) 断面図



第40図 第2遺構面 各土坑(SK)・不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物(1)



第41図 第2遺構面 各土坑(SK)・不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物(2)

第4節 第3-a遺構面

基本層序第Ⅶ層をベース面として、溝、土坑、多数のピットを検出した（第43図）。標高は第1、2遺構面同様にC区東端が最も高く西および北西に向けて若干傾斜する傾向を示している。C区東端でT. P. +4.5m、C区西端でT. P. +3.8m、A区北西端ではT. P. +3.7mを測り、全体として概ねT. P. +3.8m前後である。

後述する第3-b遺構面とは検出面は同じであるが、比較的規模の大きい溝を切っている遺構を含めた面までを第3-a遺構面とし、溝を完掘した状態での面を第3-b遺構面とした。遺構の切り合い関係からある程度の時期差は当然考えられるものであるが、図面作成において便宜上分けたものであり、ここでは溝以外について記述する。

1. 土坑

[A地区]

SK-A302（第42図）

A4区で検出した。形態はほぼ楕円形を呈し、規模は長径約0.75m、短径約0.5m、深さ約0.7mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A303（第44図）

A4～5、B4～5区にかけて検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.22mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A304（第45図）

B4区で検出した。形態は不定形を呈し、規模は最大径約1.7m、深さ約0.4mを測る。埋土は2層で暗灰黒色粘質土、暗灰色土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SK-A306（第46図）

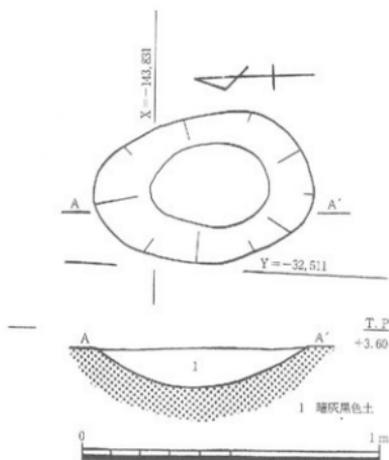
B4区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.0m、短径約0.85m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰黄色砂である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A308（第47図）

A3区で検出した。形態はやや形の崩れた隅丸の長方形を呈し、規模は長径約1.85m、短径約1.0m、深さ約0.2mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A309（第48図）

B3～4区にかけて検出した。形態は隅丸の長方形を呈し、規模は長径約2.1m、短径約0.9m、深さ約0.23mを測る。



第42図 SK-A302 平・断面図

X = -143, 828

X = -143, 833

X = -143, 838

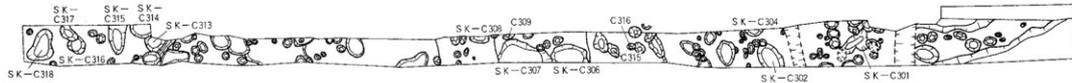
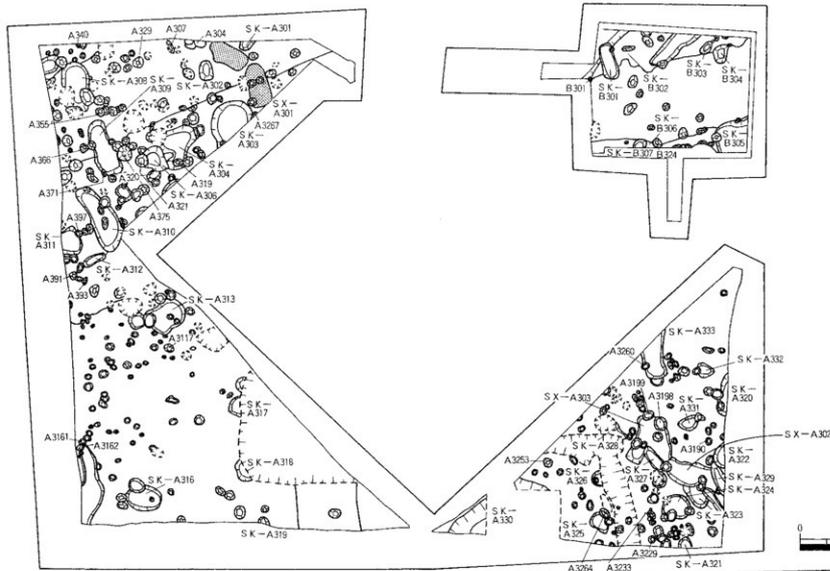
X = -143, 843

X = -143, 848

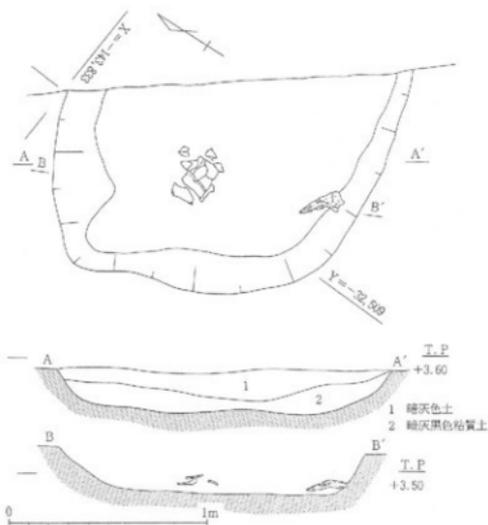
X = -143, 853

X = -143, 858

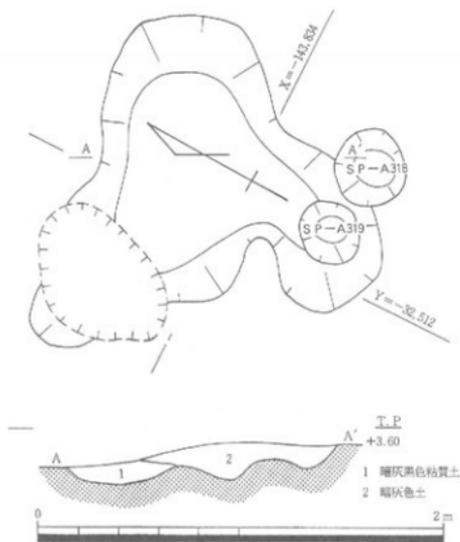
057.25 = X



第43図 第3-a遺構面全体図



第44図 SK-A303 平・断面・遺物出土状況図



第45図 SK-A304 平・断面図

埋土は1層で暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、サヌカイト剥片、骨、炭片などが出土しているが、ほぼ中央にまとまった遺物が認められることや、先端に約0.35m程度の石が遺存していた状況は通常の土坑とは異なる様相を窺わせる。

SK-A310

B3~4区にかけて検出した。形態は隅丸の長方形を呈し、規模は長径約2.6m、短径約1.0m、深さ約0.2mを測る。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A311

B3区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでない。埋土は1層で暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A312 (第49図)

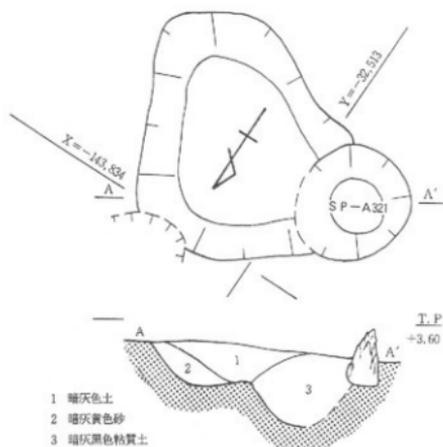
C3~C4区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.95m、短径約0.3m、深さ約0.07mを測る。埋土は1層で暗灰緑色シルト混じり暗灰色土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A313 (第50図)

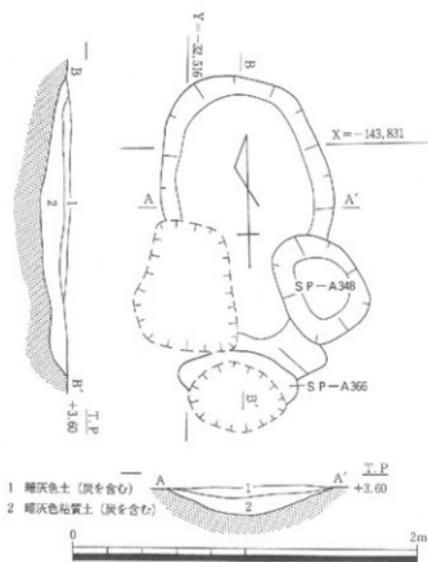
C4区で検出した。形態はやや形の崩れた隅丸の方角を呈し、規模は長径約1.4m、短径約1.2m、深さ約0.07mを測る。埋土は1層で灰色シルト混じり暗灰黄色シルトである。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A316 (第51図)

D4区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.4m、短径約0.95m、深さ約0.14mを測る。埋土は1層で黄灰色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、炭片などが出土している。



第46図 SK-A306 平・断面図



第47図 SK-A308 平・断面図

SK-A317

D5区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.13mを測る。埋土は2層で暗黄灰色シルト混じり灰色砂、暗灰色シルトである。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A318

D5区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.17mを測る。埋土は2層で暗黄灰色砂質土、暗灰色粘質シルトである。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A319 (第52図)

E5区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.13mを測る。埋土は1層で暗黄灰色粗砂混じり暗灰色粘質土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A320 (第53図)

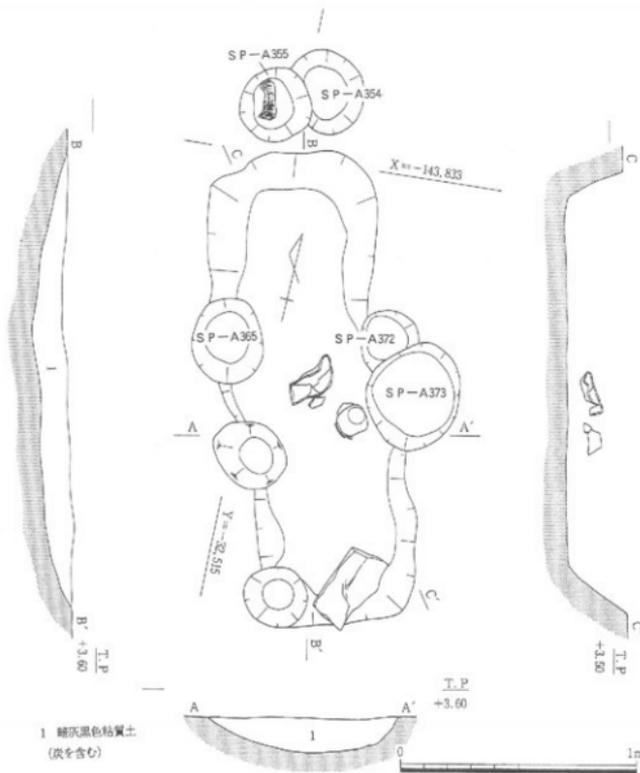
C8~D8区にかけて検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.11mを測る。埋土は2層で暗灰緑色シルト、黄灰色砂である。遺物は弥生前期土器片、紡錘車、骨などが出土している。

SK-A321

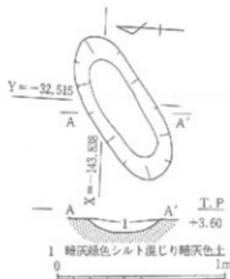
E8区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.21mを測る。埋土は2層で暗灰緑色土、暗灰緑色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SK-A322

D8区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.06mを測る。埋土は1層で暗灰黒色土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。



第48図 SK-A309 平・断面・遺物出土状況図



第49図 SK-A312 平・断面図

SK-A323

D8区で検出した。他の遺構に切られているため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.09mを測る。埋土は1層で褐黄色砂混じり暗褐色土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。SK-A324 (第54図)

D8～E8区にかけて検出した。形態は不定形な円形を呈し、規模は径約0.95m、深さ約0.37mを測る。埋土は2層で暗灰緑色土、暗灰緑色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A325 (第55図)

E7区で検出した。形態は隅丸の三角形

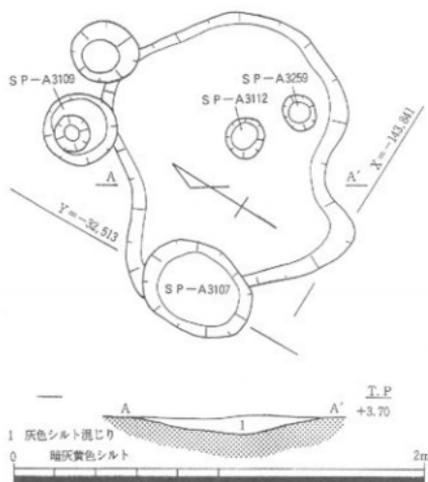
を呈し、規模は径約0.75m、深さ約0.12mを測る。埋土は2層で暗灰青色土、暗灰緑色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-A326

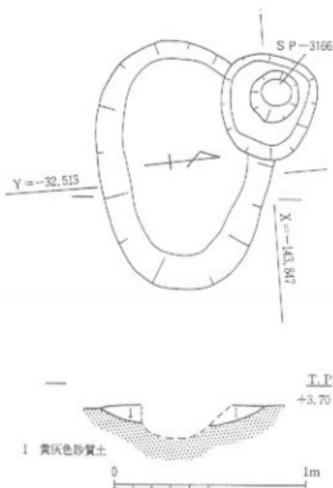
D7区で検出した。攪乱に切られているため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.09mを測る。埋土は2層で暗灰黒色砂質土、黄灰色砂である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A327 (第56図)

D8区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.0m、短径約0.5m、深さ約0.23mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺



第50図 SK-A313 平・断面図



第51図 SK-A316 平・断面図

物は弥生前期土器片が出土している。

SK-A328

D7～8区にかけて検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.16mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰緑色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SK-A330 (第57図)

D6～7、E6区にかけて検出した。SD-A304を切る。調査区外に広がり、また攪乱に切られているため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.29mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、土製品、骨、炭片などが出土している。

SK-A331 (第58図)

D8区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.8m、短径約0.6m、深さ約0.2mを測る。埋土は1層で暗灰色土である。遺物は弥生前期土器片、炭片などが出土している。

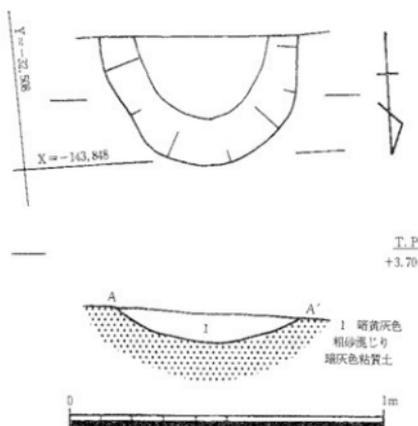
SK-A333 (第59図)

C8区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.28mを測る。埋土は2層で褐色粘質土、暗褐色粘質土である。遺物は比較的まとまって出土しており弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

[B地区]

SK-B301 (第60図)

A7～A8区にかけて検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.45m、短径約0.55m、深さ約0.3mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片な



第52図 SK-A319 平・断面図

どが出土している。

SK-B302 (第61図)

A8区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.5m、短径約0.2m、深さ約0.05mを測る。埋土は1層で灰緑色シルト混じり黒色粘質土である。遺物は骨が出土している。

SK-B303 (第62図)

A8区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.6m、短径約0.35m、深さ約0.06mを測る。埋土は1層で灰黄色粗砂混じり灰緑色土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-B304 (第63図)

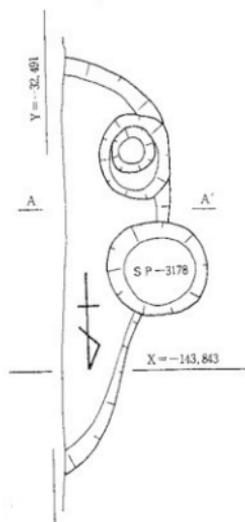
A8区で検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約0.75m、短径約0.55m、深さ約0.06mを測る。埋土は1層で暗灰黒色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-B305 (第64図)

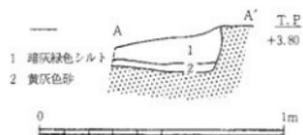
A8～B8区にかけて検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.04mを測る。遺物は比較的まとまって出土しており弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。また、東側にはまとまった集石が見受けられた。

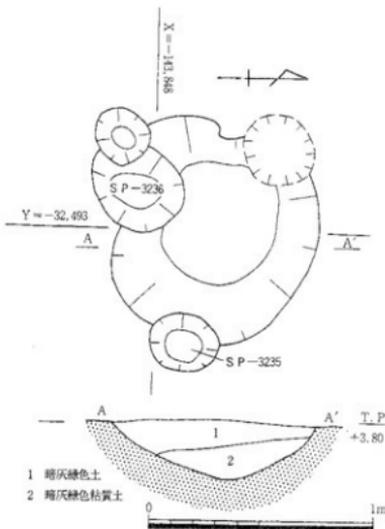
SK-B307

B8区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.16mを測る。埋土は1層で灰緑色シルト混じり暗灰色土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

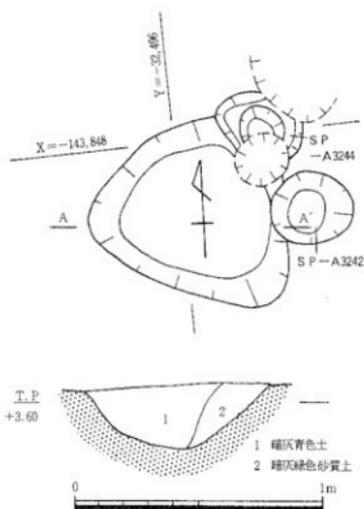


第53図 SK-A320 平・断面図





第54図 SK-A324 平・断面図



第55図 SK-A325 平・断面図

〔C地区〕

SK-C301

F8区で検出した。他の遺構に切られているため形態、規模は明らかでない。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-C304 (第65図)

F8区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.3mを測る。埋土は2層で暗灰緑色土、暗灰緑色砂質土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-C306 (第66図)

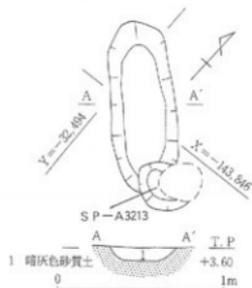
F6区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.24mを測る。埋土は1層で暗灰青色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-C307

F6区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.24mを測る。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-C308 (第67図)

F5～6区にかけて検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.42mを測る。埋土は2層で緑灰色粘土混じり暗灰色土、灰緑色微砂である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。



第56図 SK-A327
平・断面図

SK-C313

F3区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.35mを測る。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

SK-C314

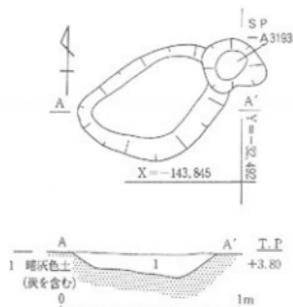
F3区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.17mを測る。埋土は2層で暗灰青色土、暗灰緑色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SK-C315 (第68図)

F3区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.29mを測る。埋土は2層で暗灰青色砂質土、暗灰色砂質土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。



第57図 SK-A330 平・断・遺物出土状況図



第58図 SK-A331 平・断面図

SK-C316 (第69図)

F2区で検出した。形態は楕円形を呈するものと思われ、規模は短径約0.7m、深さ約0.4mを測る。埋土は2層で暗灰色土、暗灰色砂質土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SK-C317 (第69図)

F2区で検出した。調査区外に広がるため形態、規模は明らかでないが、最深部で約0.14mを測る。埋土は1層で暗灰色砂質土である。遺物は弥生前期土器片が出土している。

SK-C318 (第70図)

F2区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約1.25m、短径約0.7m、深さ約0.33mを測る。

埋土は1層で暗灰色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

2. 不明遺構

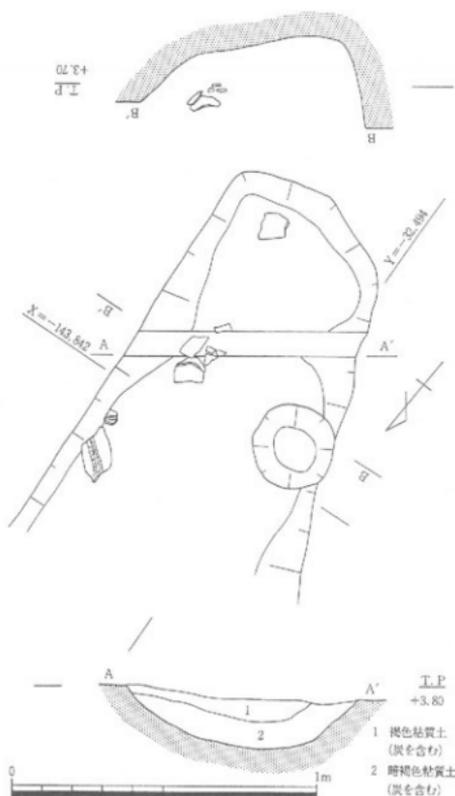
[A地区]

SX-A301 (第71図)

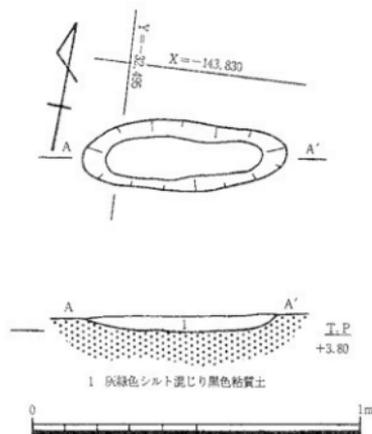
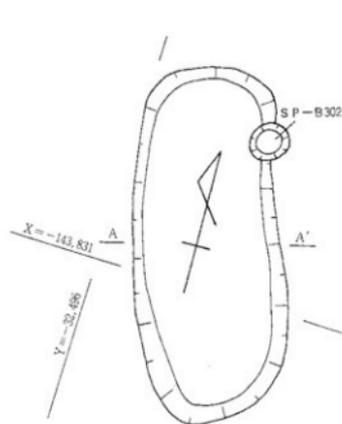
A4~5区にかけて検出した炭状のものである。長さ約1.6m、幅約0.8mの範囲で弧状を描く状態であり、遺物も弥生前期土器片や骨などが見受けられた。焼失家屋の可能性も考えられるだろう。

SX-A302 (第72図)

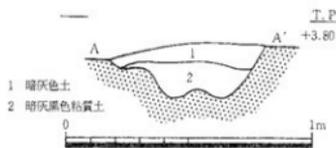
D8区で検出した不定形な土坑であった。規模は長径約1.5m、短径約0.9m、深さ約0.32mを測る。埋土は2層で褐色土、暗褐色土である。遺物は比較的まとまって出土しており弥生前期土器片、紡錘



第59図 SK-A333 平・断面遺物状況図



第61図 SK-B302 平・断面図



第60図 SK-B301 平・断面図

車、サヌカイト剥片、骨、炭片などが出土している。

SX-A303 (第73図)

D8区で検出した不定形な土坑であった。規模は長径約1.75m、短径約1.25m、深さ約0.47mを測る。埋土は2層で暗灰緑色土、暗灰緑色砂質土である。遺物は比較的まとまって出土しており弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

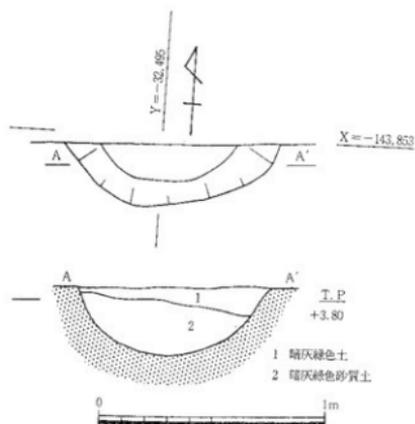
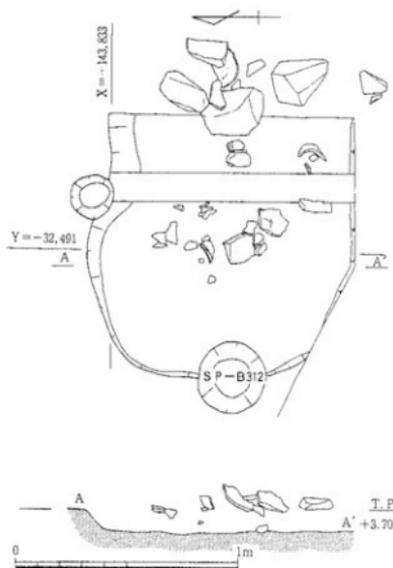
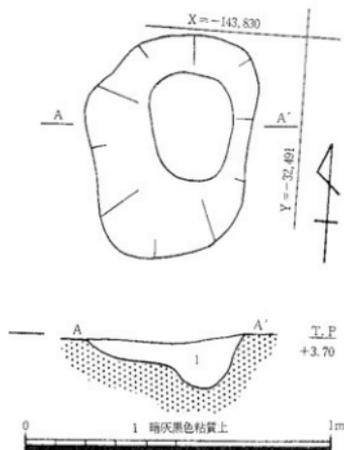
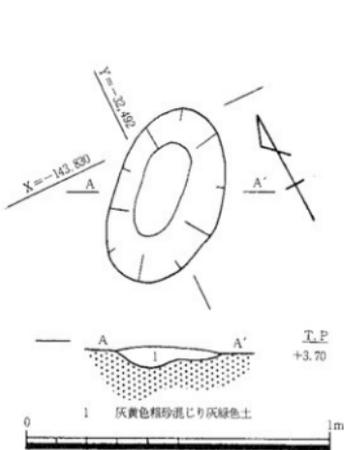
3. ビット (SP)

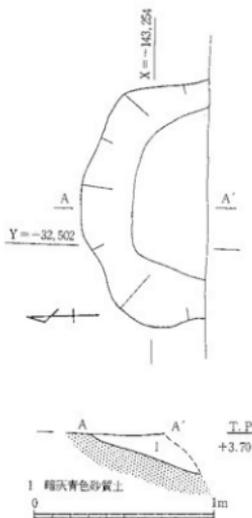
A区で281基、B区で28基、C区で91基を検出した。柱材が遺存していたものとしてSP-A319、A321、A371、A391、A393、A3117、A3162の7基があり(第75図)、また根石が施されていたものにSP-A375(第74図)、B324などがあつた。

おそらく掘立柱建物が存在するものと思われ、調査時に第2遺構面と同様の概ね7棟ほどを想定したが、再検討の結果、断定するには至らなかった。⁽⁴¹⁾

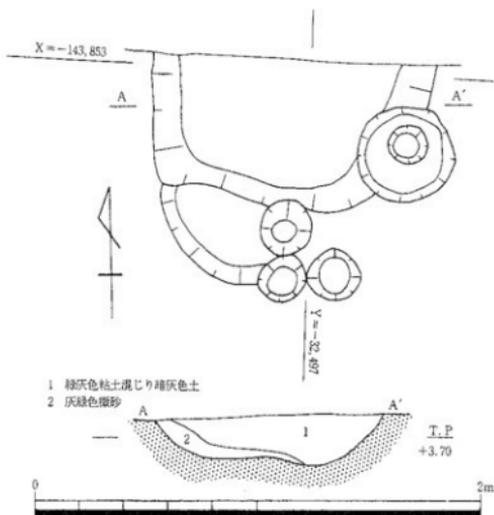
註

(1) 『中垣内遺跡現地説明会資料』 大東市教育委員会 1992年10月

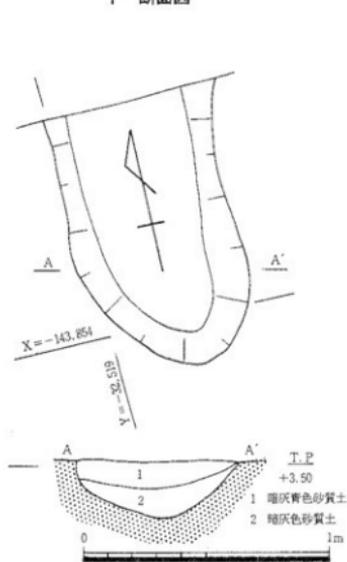




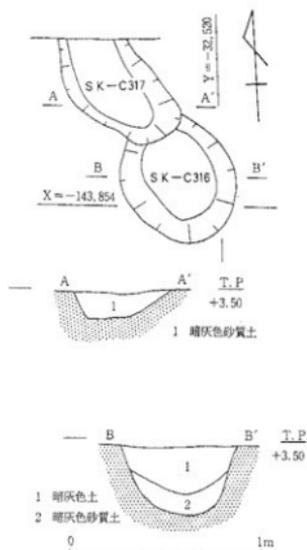
第66図 SK-C306 平・断面図



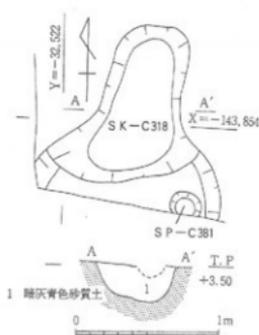
第67図 SK-C308 平・断面図



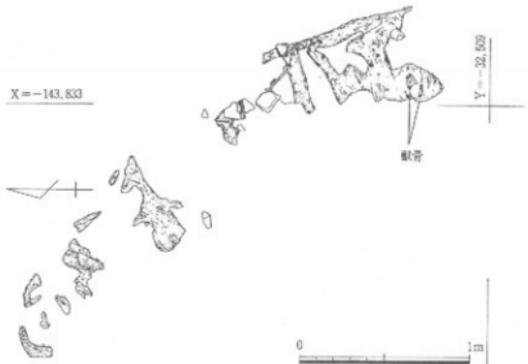
第68図 SK-C315 平・断面図



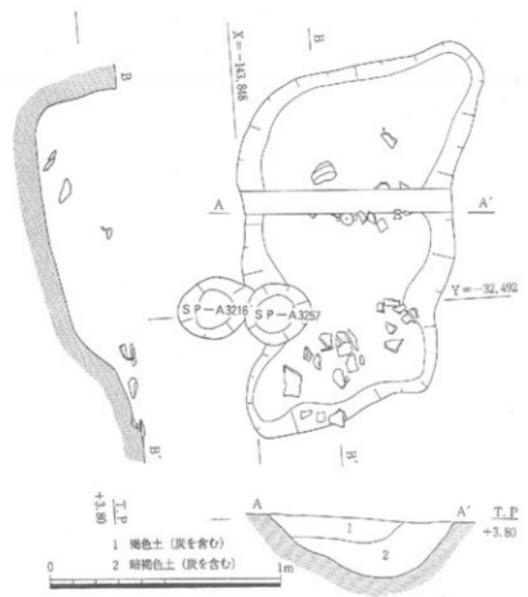
第69図 SK-C316・C317 平・断面図



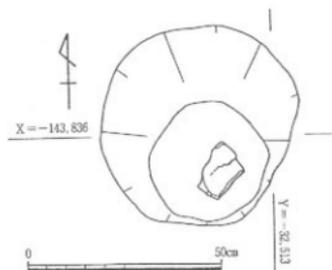
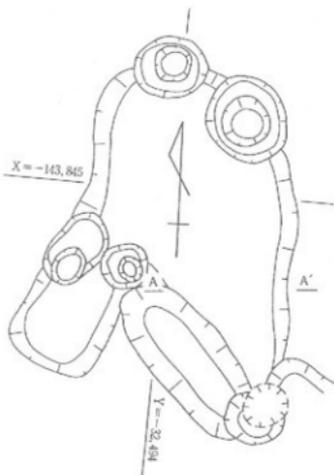
第70図 SK-C318
平・断面図



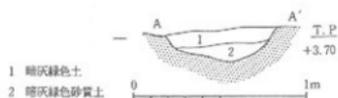
第71図 SX-A301 平面図



第72図 SX-A302 平・断面・遺物出土状況図

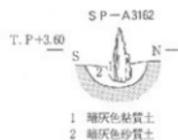
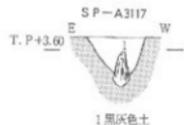
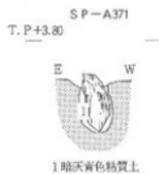
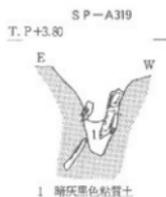


第74図 SP-A375
平面図(根石)

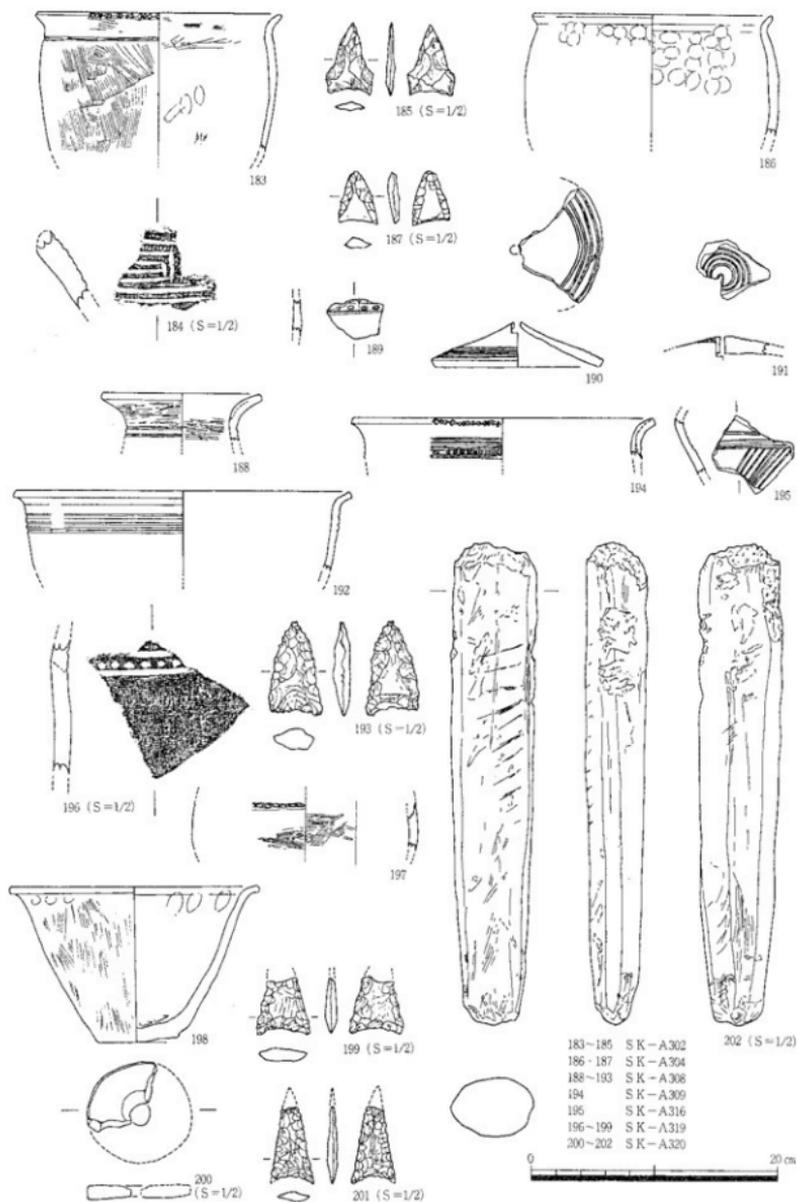


- 1 暗灰緑色土
- 2 暗灰緑色砂質土

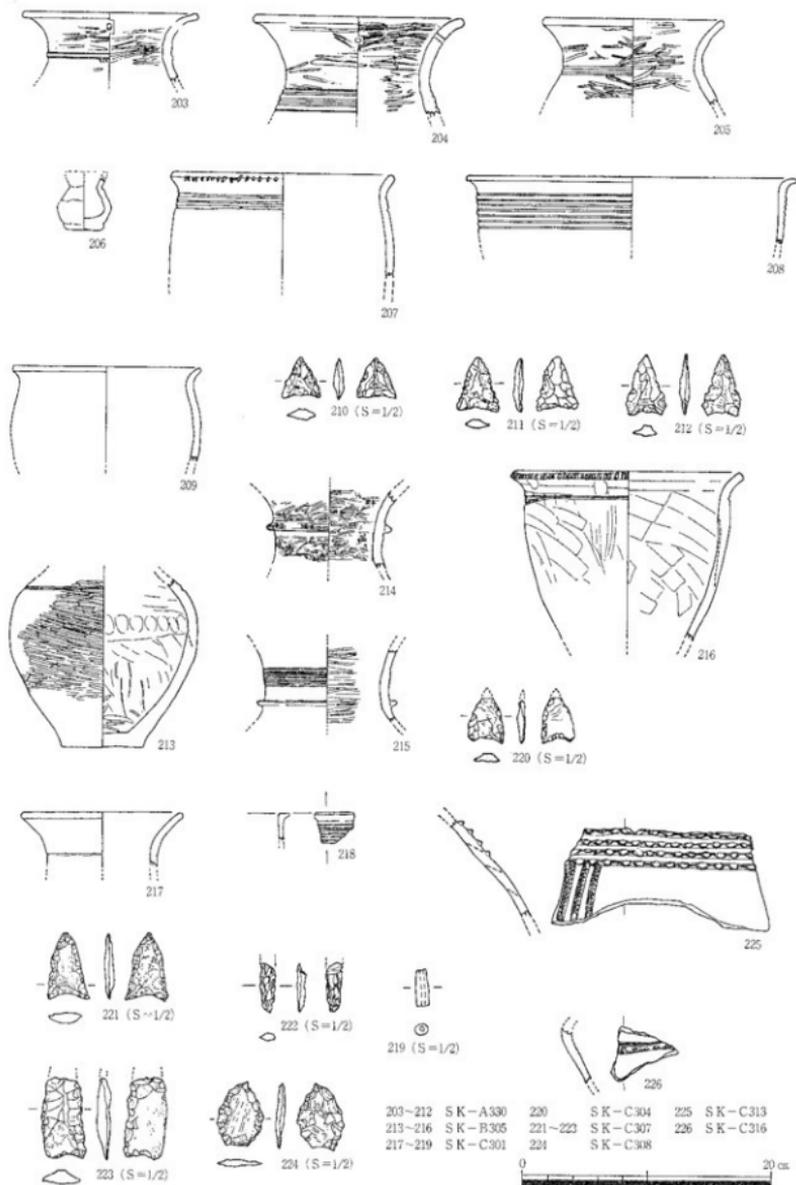
第73図 SX-A303
平・断面図



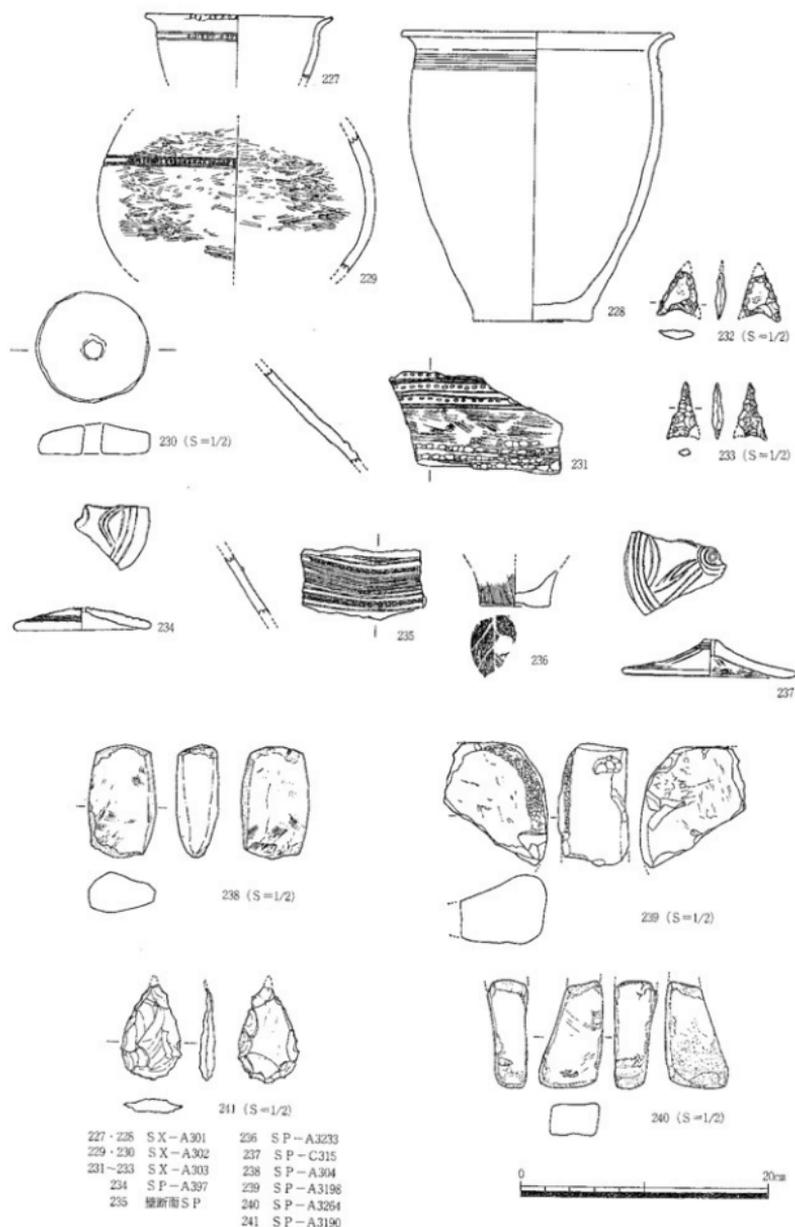
第75図 第3-a遺構面 ビット(SP)断面図



第76图 第3-a遺構面 土坑(SK)出土遺物(1)



第77図 第3-a遺構面 土坑 (SK) 出土遺物 (2)



第78図 第3-a遺構面 不明遺構(SX)・ピット(SP)出土遺物

第5節 第3-1遺構面

検出状況については前節で述べたとおりである。ここでは溝について記述する(第80図)。

1. 溝

[A地区]

SD-A301 (第79図)

A3~5、B3~4区にかけて検出した、ほぼ西南西に走る溝である。SD-B302に繋がるものと思われる。規模は幅約3.5m、深さ約0.6mを測る。断面形態は底部が約1.4mの平坦面を成して台形状を呈する。埋土は煩雑な堆積状況を呈するが、暗灰色系の砂質土~粘土、また砂の堆積も見受けられた。遺物はまとまって出土しており、弥生前期土器片、石製品、骨などが出土している。

SD-A302 (第82図)

B4、C3~4区にかけて検出した、ほぼ西南西に走る溝である。SD-A301と平行に走り、またSD-A303、A304に繋がるものと思われる。規模は幅約2.0m、深さ約0.8mを測る。断面形態はU字状を呈する。埋土は暗灰色系の砂質土~土が主体をなし、また下層にはシルト、砂の堆積も見受けられた。遺物はまとまって出土しており、弥生前期土器片、石製品、骨などが出土している。

SD-A303 (第83図)

D5~6、E5~6区にかけて検出した、ほぼ南北に走る溝である。SD-A304と平行に走り、またSD-A302、C301に繋がるものと思われる。規模は幅約2.3m、深さ約0.9mを測る。断面形態は底部が約0.7mの平坦面を成して台形状を呈する。埋土は大きく2層に大別でき、上層は灰~灰緑色砂質土が主体をなし、下層は灰色~暗灰色の粗砂、粘土が主体をなす。遺物はまとまって出土しており、弥生前期土器片、石製品、骨などが出土している。

SD-A304

D6~7、E6~7区にかけて検出した、ほぼ南北に走る溝である。SD-A303と平行に走り、またSD-A302、C302に繋がるものと思われる。規模は攪乱に切られているため明らかではないが、壁面の断面から見ておよそ幅約2.8m、深さ約0.9mを測るものである。断面形態はU字状を呈するものと思われる。埋土は灰緑色砂質土~粘土が主体をなす。また最下層にはシルトの堆積も見受けられた。遺物はまとまって出土しており、弥生前期土器片、石製品、骨などが出土している。

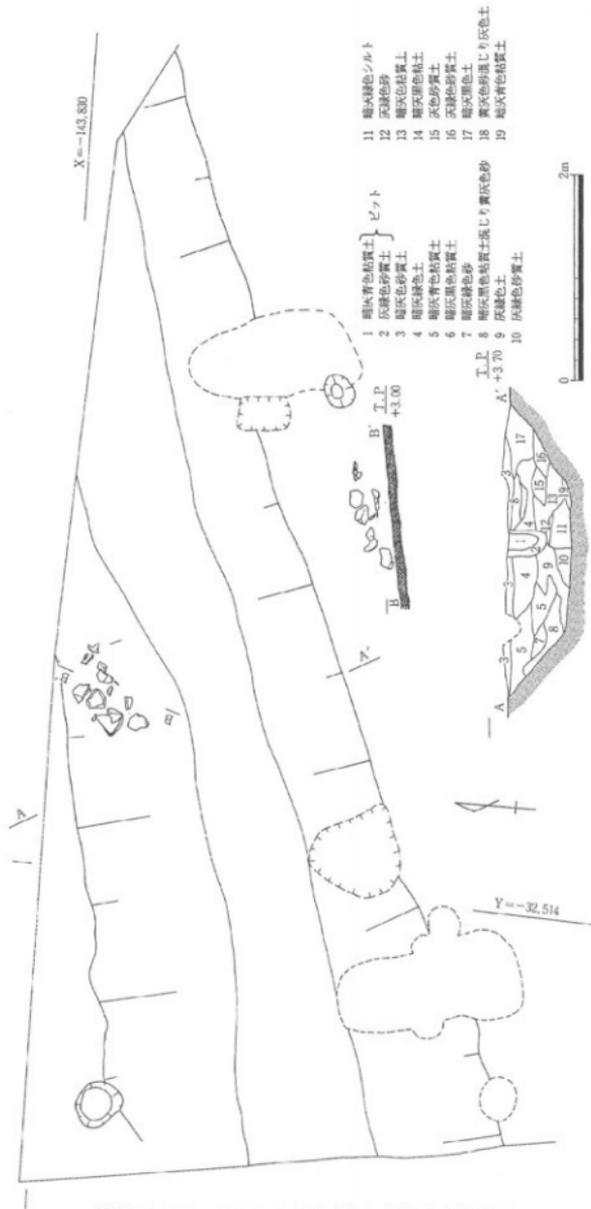
[B地区]

SD-B301

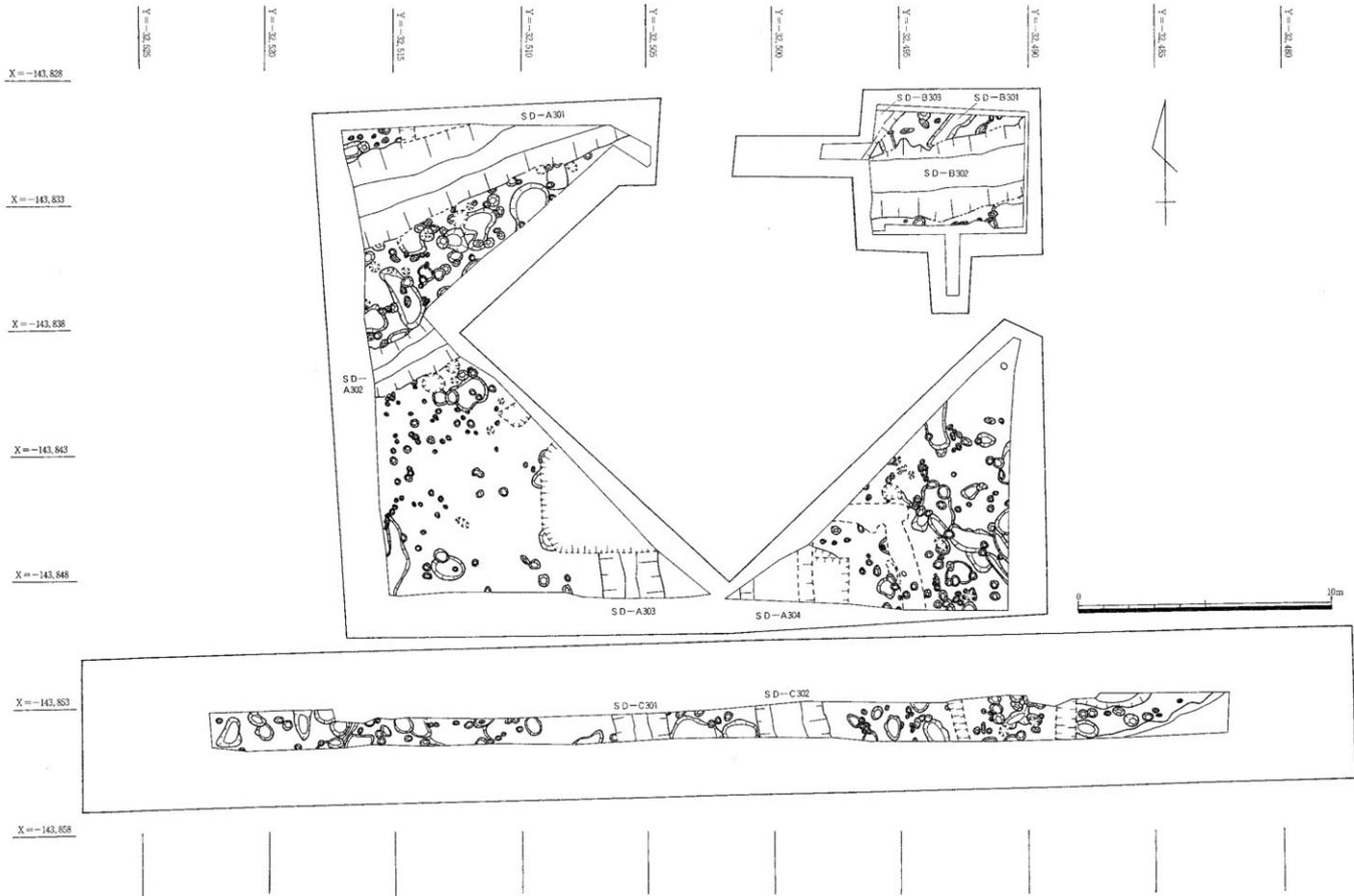
A8区で検出した南西に走る溝である。SD-B302に切られる。規模は幅約0.6m、深さ約0.04mを測る。遺物は弥生前期土器片、骨などが出土している。

SD-B302 (第86、87図)

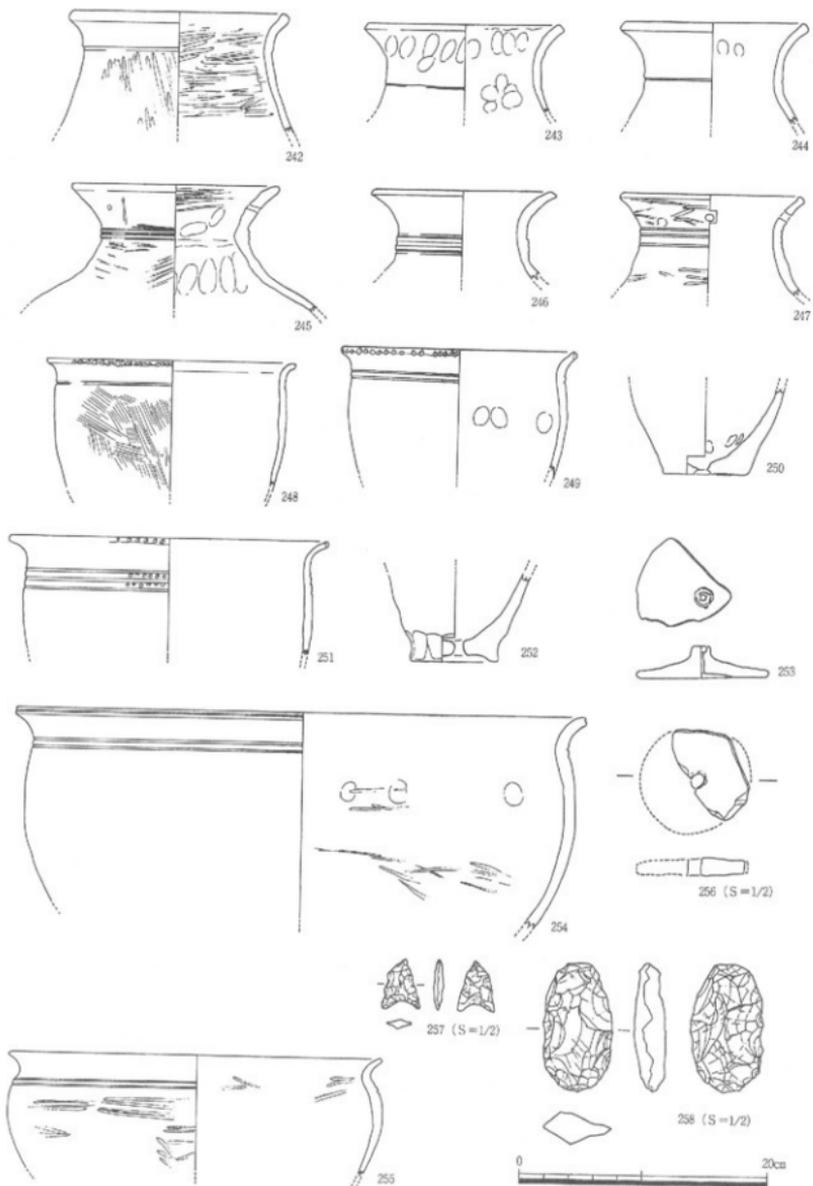
ほぼ中央を東西に走る溝である。SD-A301に繋がるものと思われる。規模は幅約2.8m前後、深さは約0.7mを測る。断面形態は底部が約1.0mの平坦面を成して台形状を呈する。埋土は大きく2層に大別でき、上層は暗灰緑色砂質土~土が主体をなし、下層は暗灰色砂質土~粘土が主体をなす。遺物はまとまって出土しており、弥生前期土器片、石製品、木製品、骨などが出土している。特に、自然木の出土が目立つ。



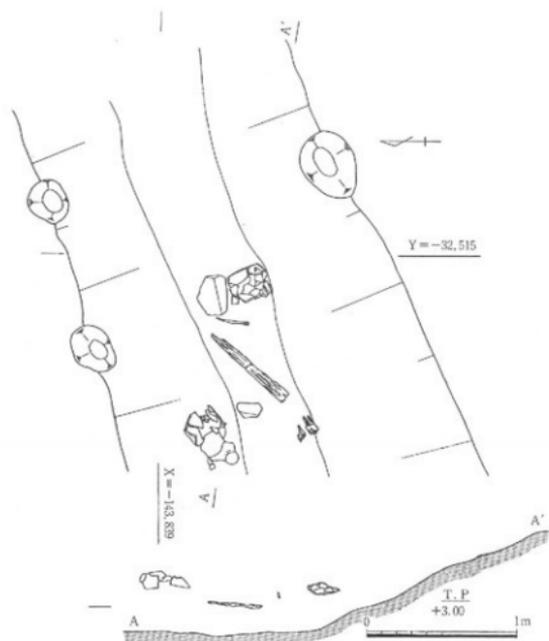
第79図 SD-A301 平・断面・遺物出土状況図



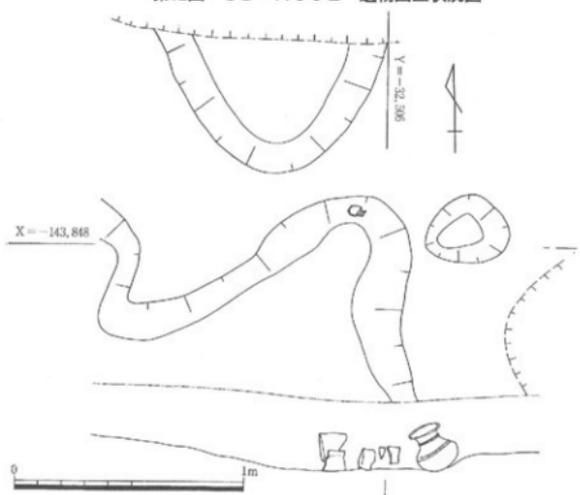
第80図 第3-b遺構面全体図



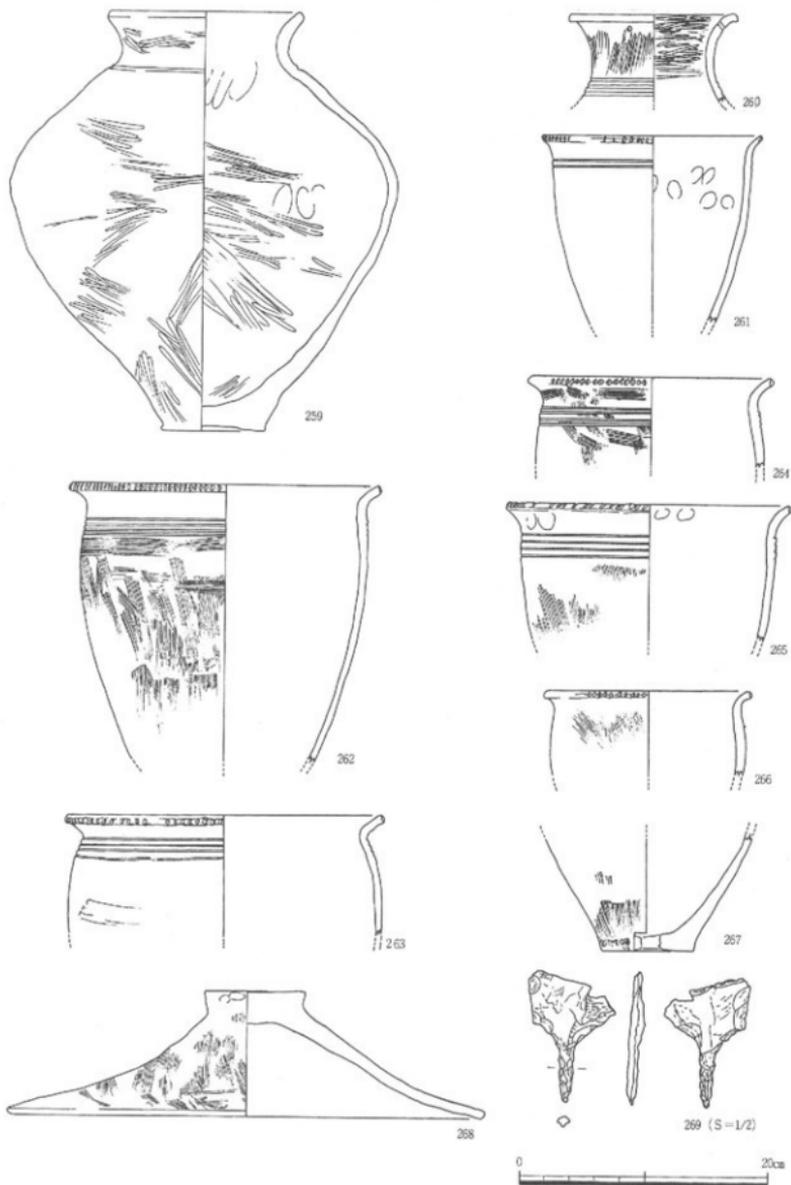
第81図 SD-A301 出土遺物



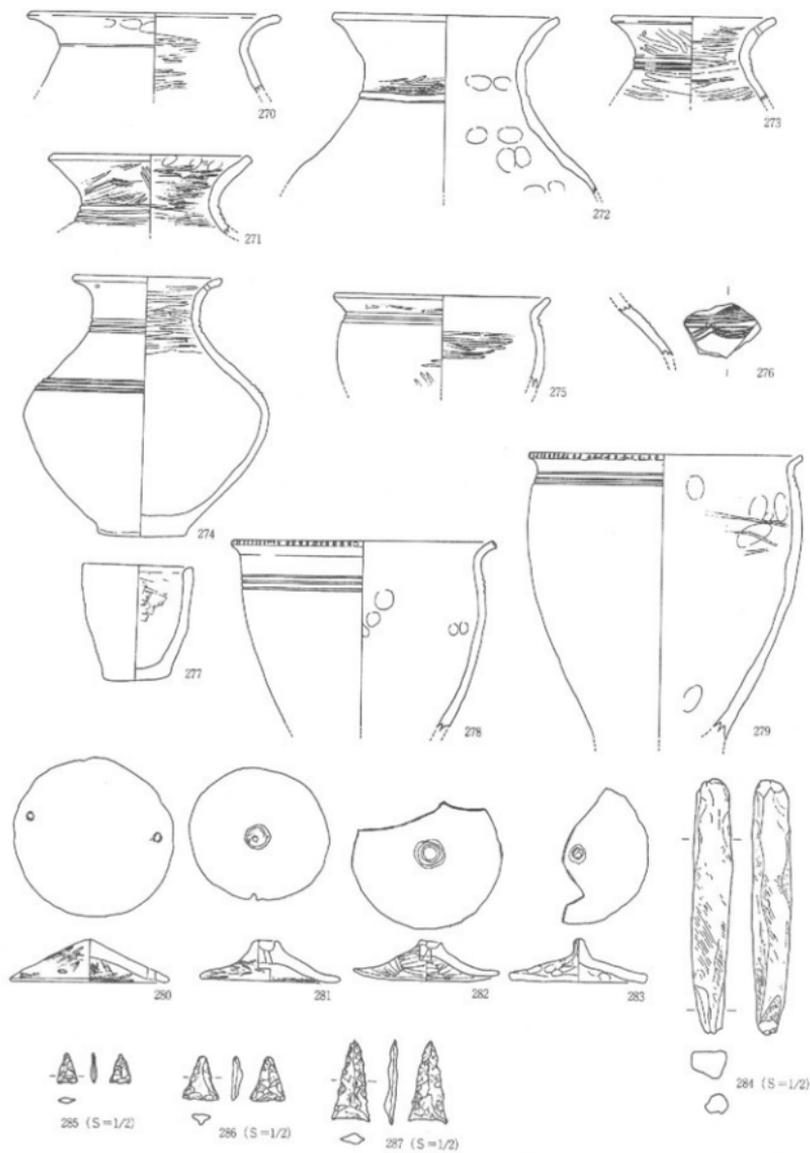
第82圖 SD-A302 遺物出土狀況圖



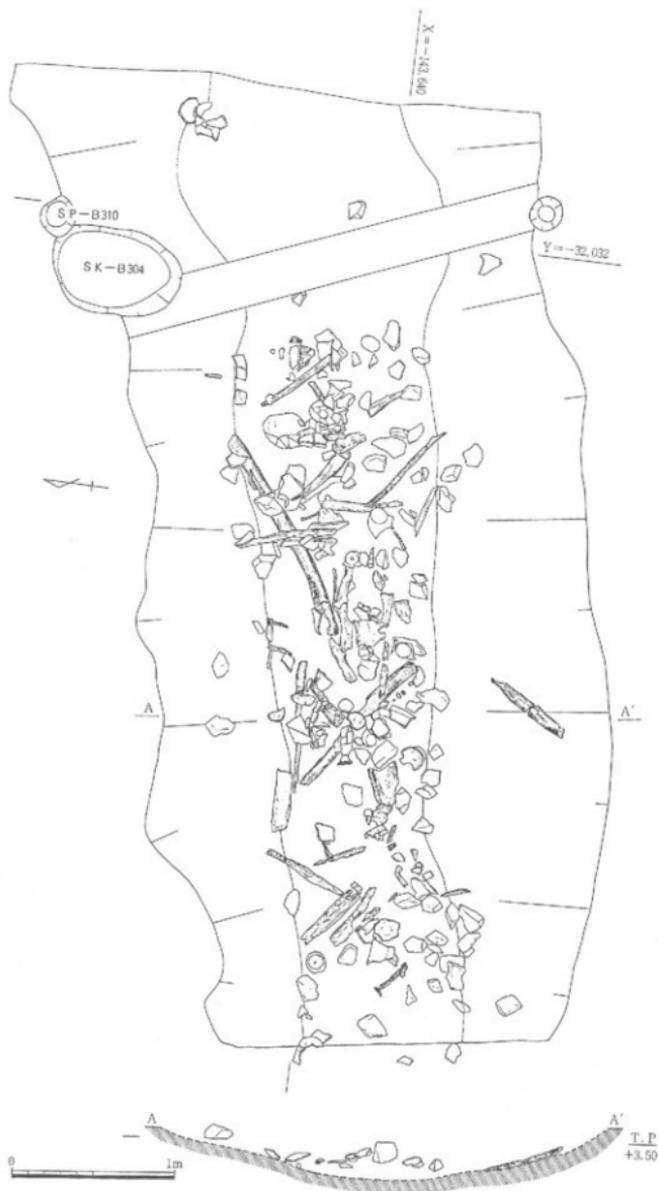
第83圖 SD-A303 (側溝掘削時) 遺物出土狀況圖



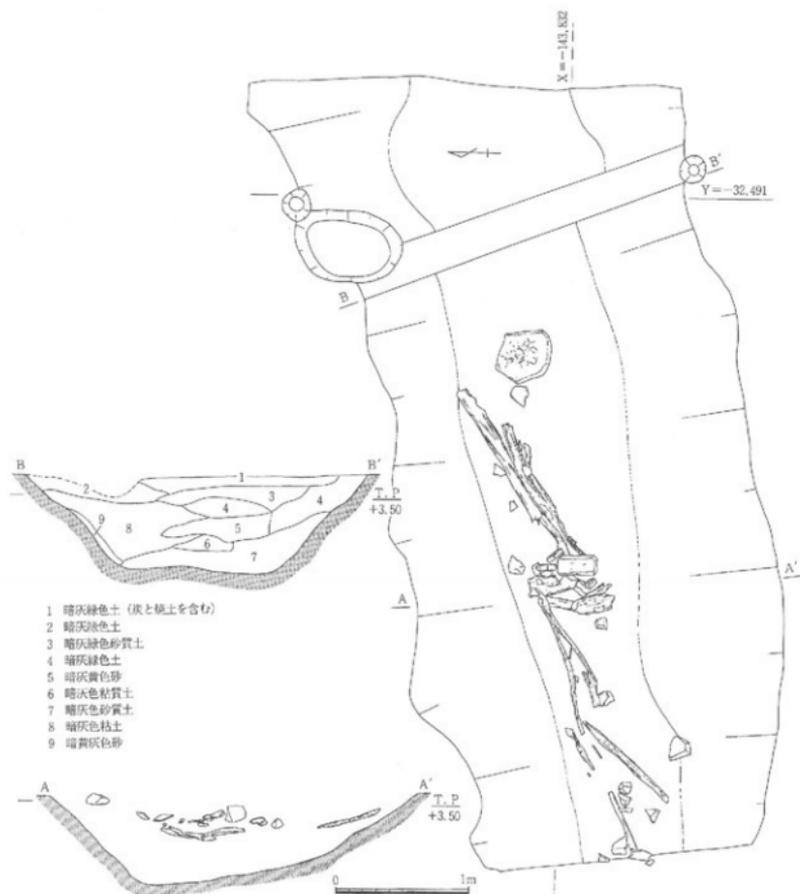
第84図 SD-A302 出土遺物



第85图 SD-A303 出土遗物



第86圖 SD-B302 遺物出土状況図(上層)



第87図 SD-B302 平・断面・遺物出土状況図(下層)

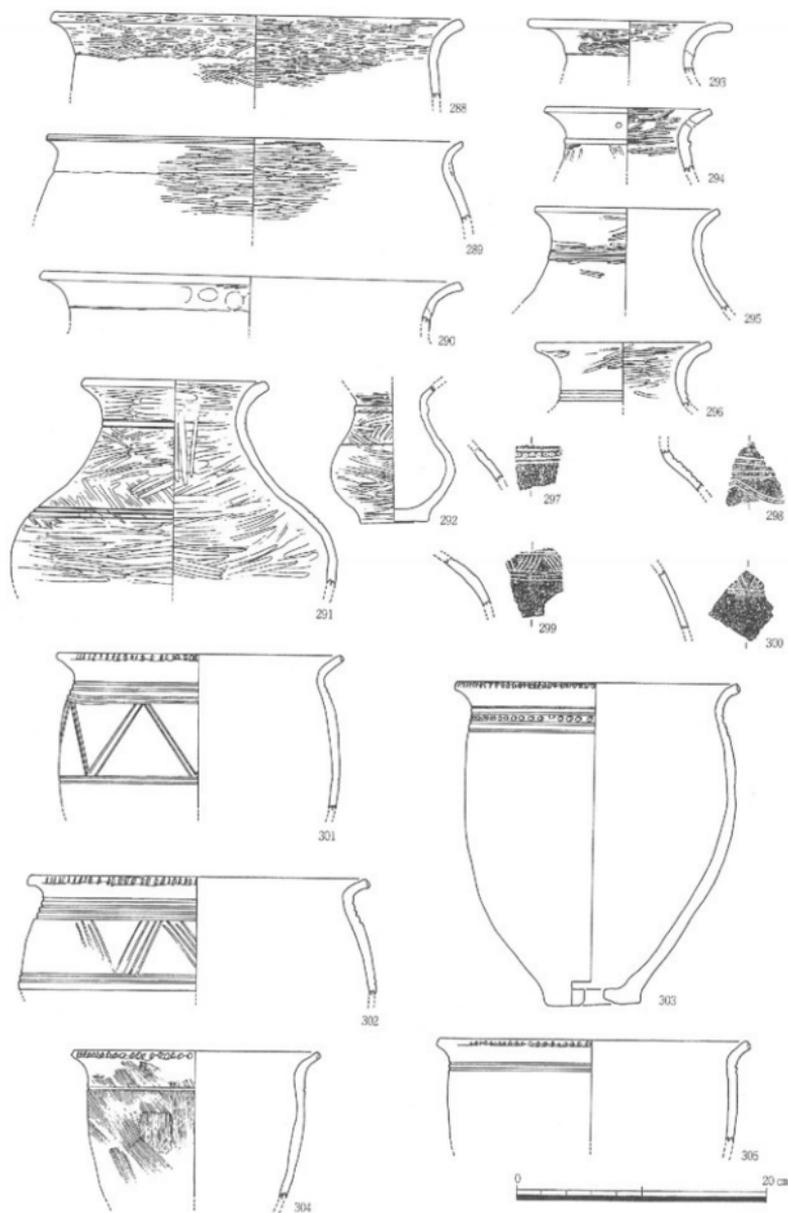
SD-B303

A7区で検出した南西にはしる溝である。SD-B201と平行する。規模は調査区に広がるため明らかでない。埋土は1層で暗灰色粘質土である。遺物は弥生前期土器片、骨、炭片などが出土している。

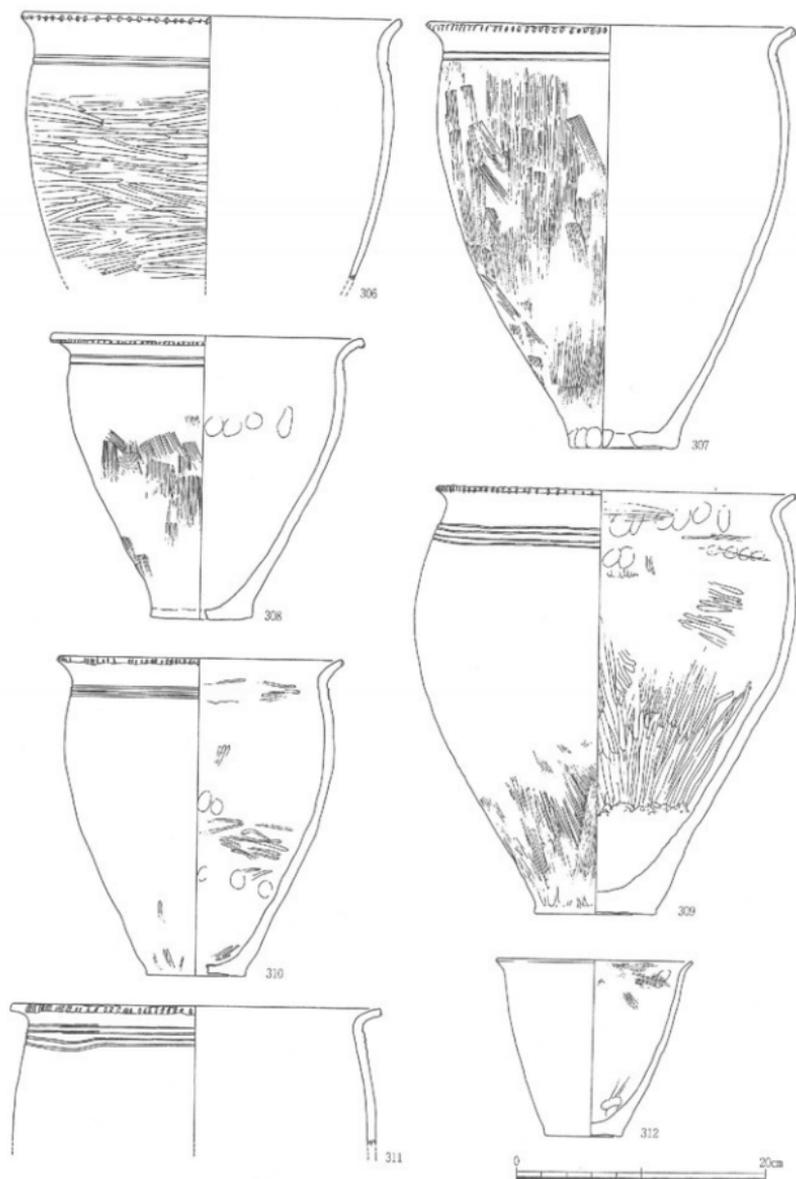
〔C地区〕

SD-C301 (第91図)

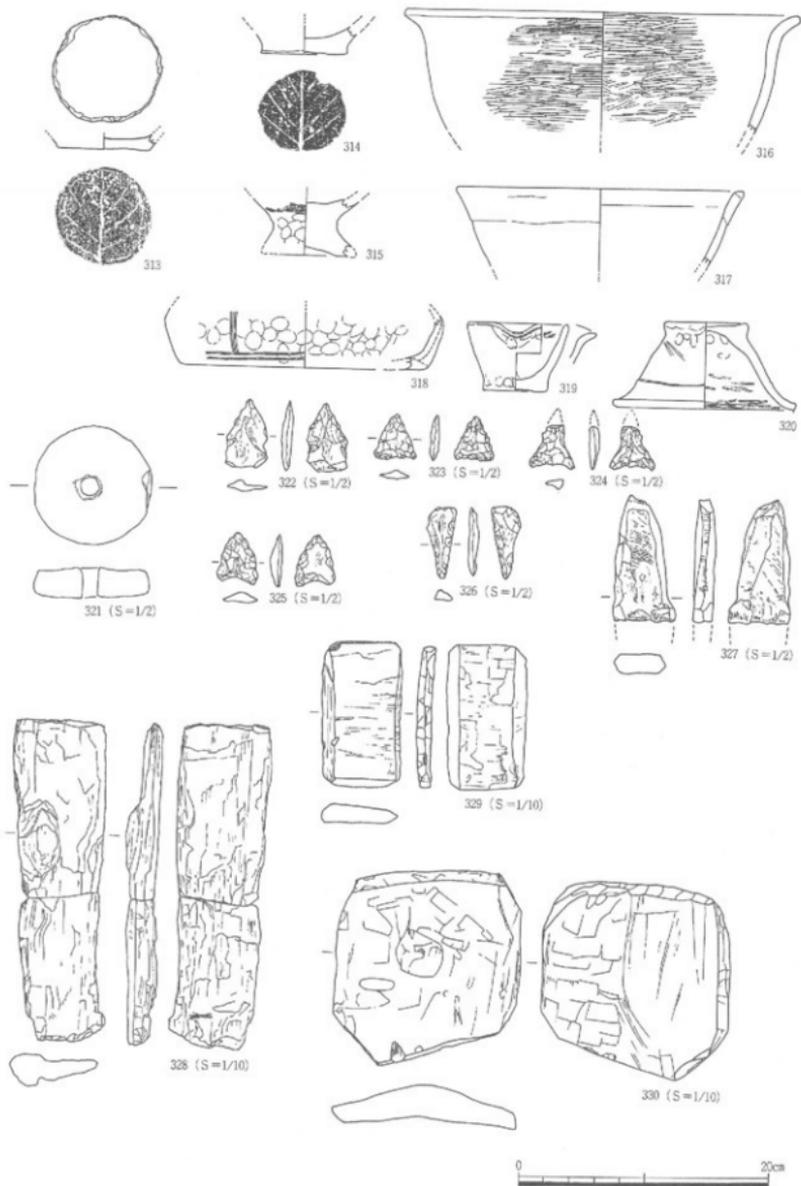
F5～6区にかけて検出した南北に走る溝である。SD-A303に繋がる。規模は幅約2.6m前後、



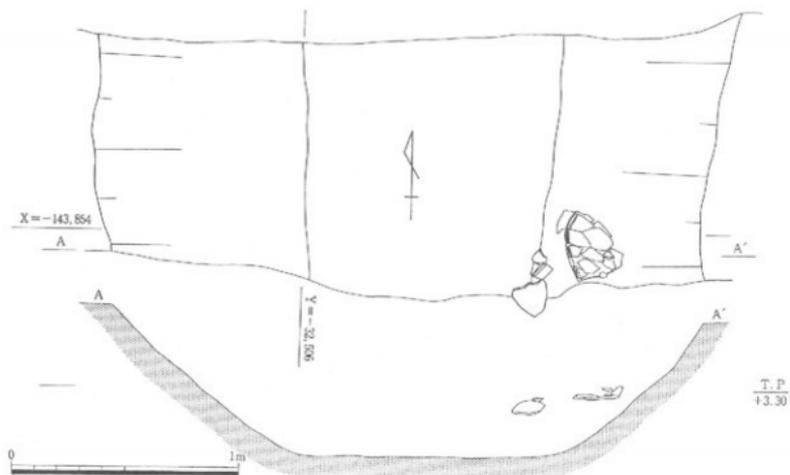
第88圖 SD-B302 出土遺物(1)



第89圖 SD-B302 出土遺物(2)



第90図 SD-B302 出土遺物(3)



第91図 SD-C301 遺物出土状況図



第92図 SD-C302 遺物出土状況図(1)

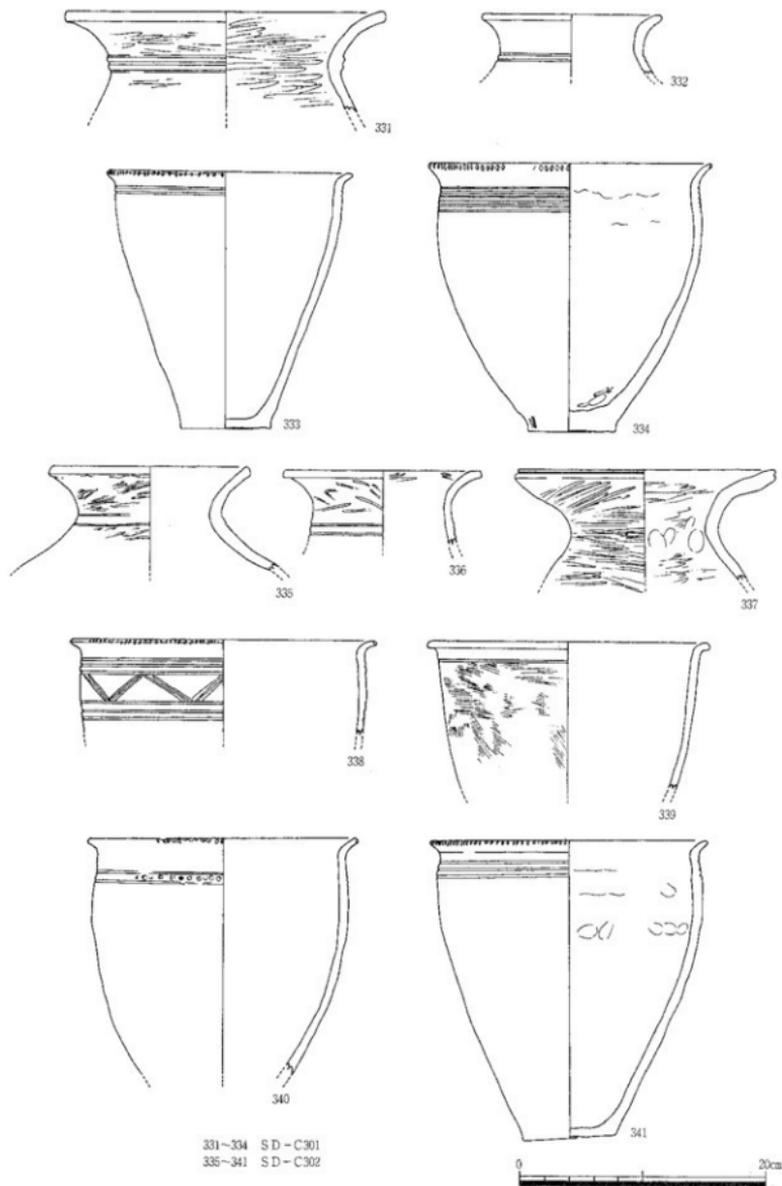


第93図 SD-C302 遺物出土状況図(2)

深さは約0.7mを測る。断面形態は底部が約1.0mの平坦面を成して台形状を呈する。埋土は暗灰色土～粘質土が主体をなし、最下層には暗灰色砂が見受けられた。遺物はまとめて出土しており、弥生前期土器片、石製品、木製品、骨などが出土している。

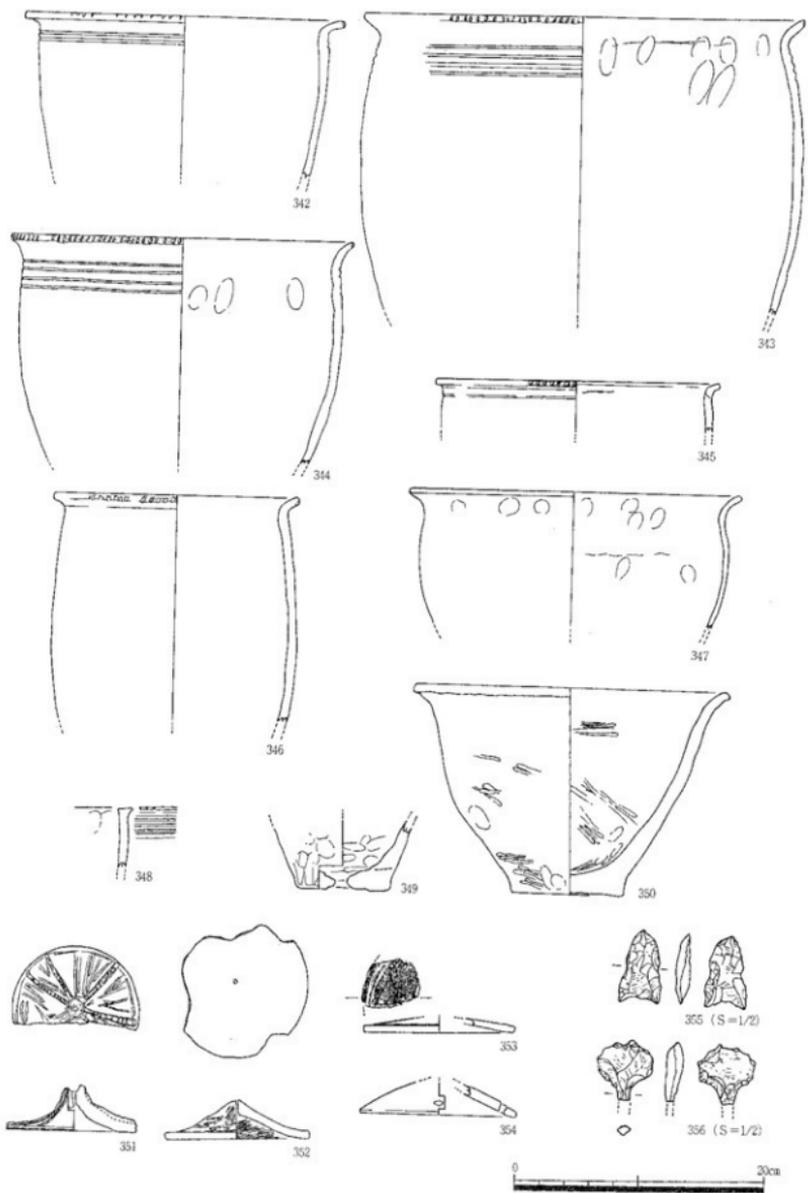
SD-C302 (第92、93図)

F6～7区にかけて検出した南北に走る溝である。SD-A304に繋がる。規模は幅約2.4m前後、深さは約0.6mを測る。断面形態は形が若干崩れてはいるものの底部が約1.0mの平坦面を成すもので、およそ台形状を呈するものである。埋土は大きく2層に大別でき、上層は暗灰色粘質土～土が主体をなし、下層は灰色砂が主体をなす。遺物はまとめて出土しており、弥生前期土器片、石製品、木製品、骨などが出土している。



331~334 S D - C301
 335~341 S D - C302

第94図 SD-C301・C302 出土遺物(1)



第95图 SD-C302 出土遗物(2)

第5章 まとめ

今回の調査では中期中～後葉の集落跡を初めて確認することができ、また前期の集落跡についてもより具体的な様相を明らかにすることができた。当遺跡の実態の解明はもちろんのこと鍋田川流域における弥生集落の様相、ひいては河内湖東岸部における弥生集落の動態を考察する上でも多大な成果を得たものであった。以下、今回の調査成果について概括し、まとめとしたい。

1. 第1遺構面について

第1遺構面では鋤溝、不定形な土坑、ピットなどを検出した。

鋤溝など各遺構からは瓦器片などが出土することから、中世においては耕作地であった状況がうかがえる。また上層の包含層からは古墳時代の須恵器片なども多分出土しており、おそらく古墳時代以降において耕作地などの土地利用状況であった可能性が推測されるものである。⁽¹⁾

2. 第2遺構面について

第2遺構面では弥生時代中期中～後葉に比定できる溝、土坑、また柱材が遺存するものや、根石を施したのものを含む多数のピットなど、多くの遺構を検出した。またC区東端部の微高地を形成すると思われる地点では既に第3遺構面に対応する第Ⅶ層が確認され、弥生前期の遺構（SX-C202、C203）を検出する状況であった。

中でも注目される遺構としてSD-A201・B201の大溝が挙げられるが、南側に向かって弧状を呈しながら東方に振れるもので、一見したところ緩やかな弧を描く溝をうかがわせる。しかし、その南側部分では先にも述べたように微高地が形成されていた状況を呈し、すでにSX-C202、203など第3遺構面に対応する弥生前期の遺構が検出されていることから、東方向に向かって大きく迂回する状況が考えられ、いわゆる通常の溝としては理解し難いものである。三好孝一氏は昭和34年の東大阪変電所建設の際に採集された中期弥生土器について、いわゆる供献土器としての様相がうかがえることから、その具体的遺構として方形周溝墓に代表される墓域、祭祀の様相をもつ何らかの遺構の存在が考えられると指摘されており、そのような指摘状況と何らかの関連性をもつ可能性も想定できる。

しかし、今回の大溝からは大量の遺物が出土しているものの土器に関しては祭祀的要素をうかがうことはできなかった。ただ獣骨の出土の多さが注目されるところでもあり、特に人骨片が2点出土していることから何らかの溝の性格を反映しているものと思われるが、墓、祭祀の様相をもつ遺構などの特殊性を指摘するには無理があると思われ、現段階では何らかの区画的要素を持った溝として捉えておきたい。

大溝の時期としては、第Ⅲ～Ⅳ様式の上器が大量に出土しており、中でも第Ⅲ様式後半から第Ⅳ様式前半の土器が主体をなすようである。一時期に一括廃棄された可能性も想定できるものであるが、現段階ではやはり中期中～後葉にかけて一定の機能を有していたものと考えておきたい。

以上、主な遺構について述べてきたが、中期集落跡については今回の調査以前における昭和34年の調査、および採集遺物⁽²⁾、また昭和62年～平成元年における調査⁽³⁾により、ある程度の存在が予測されていたものであるが、今回の調査により初めて具体的な中期集落跡を確認できたものである。

3. 第3遺構面について

第3遺構面では弥生時代前期中～後葉に比定できる多くの遺構を検出し、その内容としては第2遺構面における集落の様相とほぼ同じ状況を示すものであった。

中でも注目されるものに比較的大きな溝（以下、大溝）が挙げられる。各大溝の相関についてはSD-A301出土の土器がSD-A303、B302それぞれにおいて出土した土器と接合関係が認められ、またSD-A302出土の土器がSD-A304出土の土器と接合関係が認められる状況であることから、おそらくすべての溝がほぼ同時に機能していたことが考えられるのである。

また溝の位置関係については結合部にあたる部分が残念ながら調査区外にあたることから明確にはしづらいが、規模などから推察するにSD-A301、B302が同一の溝としてほぼ西方向に蛇行しながら走り、SD-A303・C301の溝とSD-A304・C302の溝についてはそれぞれSD-A302につながるものと思われ、大きく迂回しながら西方向に走ると考えるのが妥当なものと思われる。C区東端からほぼ南東方向一帯においては微高地を形成する状況がうかがえることから、おそらくその周辺を巡っていた溝の可能性が高いものと考えられる。

また、同一の溝と考えたSD-A301、B302については調査段階において環濠の可能性を示唆するものであったが、蛇行する状況や時期をあまり隔てない遺構が大溝の埋没直後、その上部に形成されるなど、通常の環濠としての形態、機能から考えると現状では妥当でないものと考えている。北方約130mの地点には現在の鍋田川が東西に流れており、その付近には当該期の旧河川の存在も想定されることから、おそらく河川を利用した水路的な溝であった可能性も考えられる。

各大溝の時期としては段を形成する土器や削出突帯第Ⅰ種が見られるものの、削出突帯第Ⅱ種少条が主体をなすことから前期中葉でも古い段階の時期と捉えておきたい。

また、その他に注目される遺構としてSK-A309が挙げられる。形態、規模、またその検出状況から見て土坑墓の可能性を示唆するものである。また、SK-A308、A310においても、特徴的なものは見出されなかったものの形態、規模、またSK-A309との列をなすような位置関係の状況から、やはり同様の可能性は示唆しておきたい。ただ、居住域と墓域という集落構造といった観点からすれば多々の問題点を含むものであり、今後の調査事例に期待するところでもある。

以上、主な遺構について述べてきたが、中垣内遺跡における前期の集落については、前期中葉以降に集落が形成されたという認識は持たれていたものの、以後の調査内容から前期中葉の様相はうかがえるものの前期後葉以降に集落が本格的に形成されたという認識が強まったように思われる。そのような中、今回の調査によって前期中葉の段階で本格的に集落が形成されていた様相を明確に確認することができたものである。

4. 弥生集落の変遷について

まず集落の出現については今回の調査地一帯に前期中葉の早い段階には成立したようであり、後葉の前半まで最盛期を迎え、以降、前期末にかけて徐々に衰退していく様子が遺物の出土状況からうかがえる。その後、この地域一帯での集落はいったん廃絶され、若干の空白を経て中期前葉の集落が出現するものであるが、その状況としては今回調査地から北西に約250mの地点（87-1調査）で壺棺が出土しているほか、北に約170mの地点（94-1調査）、北北東に約370mの地点（94-2調査）、また東北東に約370mの元粉遺跡内、さらに東北東に約500mの鍋田川遺跡内、それぞれにおいて遺構、遺物などがわずかながら出土しているといった状況である。このことから、中期前葉に関しては具体的な集落の様相については明らかではないものの、非常に散在する状況がうかがえるものである。87-1調査では壺棺の出土であることから墓域と居住域を考慮しなければならないが、それにしても大きく見積って東西約400mの居住域を考えるにはこれまでの調査状況において到底受け入れられないものであり、やはり小規

模な集落が数ヶ所において点在していたことを示すものであろう。

そして、中期中葉になるとまた今回の調査地一帯に再び集落が形成されるようになり、中期前葉の集落が集約された様相をうかがわせる。それは中期後葉まで存続するものであるが、規模については遺構密度、遺物の出土量、またその広がり程度からみて前期集落の規模とあまり大差のない感を受ける。

後期に至っては今回調査地において遺構、遺物はまったく見られなくなり、一気に廃絶される様相を示している。そして、東に約 500mに位置する鍋田川遺跡において後期の土器が比較的多く出土することから、集落が完全に移動する様相を示すものであった。⁽¹⁰⁾

以上、簡単ではあるが、弥生集落の変遷を辿ってきた。その内容は前期から後期にいたる弥生時代全般にわたるものであるが、地域的には鍋田川流域内において展開するものであった。東方には生駒山系が間近に迫るものであり、その地域的特異性も念頭に置くべきものではあるが、中小河川を中心に展開する弥生集落の動態について示した良好な一例をなすものと思われる。

今回の調査成果は、中垣内遺跡の弥生集落が拠点集落の一つであることをあらためて確認させるものであった。今後の課題としては集落構造に対する評価、また集落の出現や廃絶、その移動といった各事象に対する意義付けが挙げられるが、これらの点については他の代表的な弥生集落個々の実態、また周辺地域における弥生集落の動態との関連性など多岐にわたる比較、検討の中で包括的に検証していきたいと思う。

註

- (1) 北東に約 250mの地点で、古墳時代前期の水田跡を確認している。
大東市教育委員会 2004 年 『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第 21 集
 - (2) 三好孝一 1988 年 『河内潟東辺部における弥生時代集落』—中垣内遺跡採集遺物を中心として—
『考古学論集』第 2 集 考古学を学ぶ会
 - (3) 大阪市立大学大学院医学研究科、安部みき子氏よりご教示を得た。
 - (4) 昭和 34 年当時の調査については註 (2) に詳しい。また、大東市史にも若干触れられている。
大東市教育委員会 1973 年 『大東市史』
 - (5) 大東市教育委員会 1990 年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第 7 集
 - (6) 大東市教育委員会 1992 年 『中垣内遺跡現地説明会資料』
新聞報道による各紙 (平成 4 年 10 月 2 日付朝刊他)
 - (7) 現鍋田川の北方約 40mの地点で、東西に流れる弥生時代後期の自然河川が確認されていることから、前〜中期の自然河川も近隣に存在するものと思われる。
大東市教育委員会 2004 年 『中垣内遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第 21 集
 - (8) 註 (2) と同じ
 - (9) 1987 年調査 (未報告)
 - (10) 1994 年調査 (未報告)
 - (11) 大東市教育委員会 1997 年 『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第 11 集
 - (12) 大東市教育委員会 2004 年 『元粉遺跡 1』大東市埋蔵文化財調査報告第 19 集
 - (13) 鍋田川遺跡で採集されたところ。
大東市教育委員会 1987 年 『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第 1 集
 - (14) 1992・1998 年調査。(未報告)
大阪府教育委員会 1992 年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・1』
大阪府教育委員会 1994 年 『鍋田川遺跡発掘調査概要・II』
- (15) このような状況についてはすでに指摘されていることもある。
濱田延克 2001 年 「河内地域における弥生時代遺跡群の動態」『市史紀要 (第 8 号)』寝屋川市教育委員会

附章 中垣内遺跡出土動物遺体について

大阪市立大学大学院医学研究科 安部みき子
大阪市立大学大学院文学研究科 高志こころ

大東市中垣内に位置する中垣内遺跡の動物遺体は弥生時代前期から中期の層と中近世の層から出土している。出土した骨片数は1214であったが、出土表(表1)は哺乳類では種と部位が同定できたもののみ、また、鳥類ではフクロウとキジ以外はトリ、爬虫類ではスッポン以外はカメ、魚類ではタイ以外はサカナと記載した。出現頻度や最小個体数の集計は出土表(表1)に記載されているものでおこなった。イヌ、シカとイノシシは各時期の遺構ごとに部位の出現頻度表を作成し、遺構ごとの最小個体数を求めた。遺構については、土坑・不明遺構・ピットと溝は時期ごとにまとめ、考古学的に意味があるものは分けて表記した(表2)。骨計測ができたものを表3に示した。

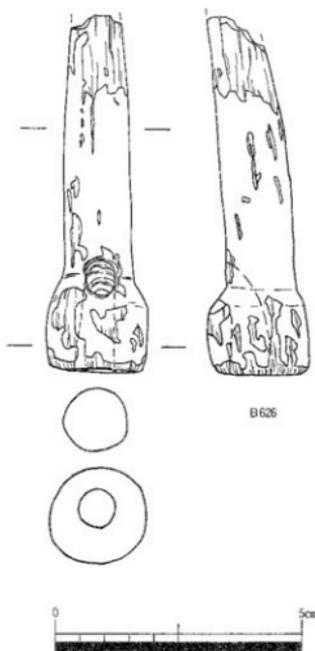
弥生時代前期(Ⅰ)

出土動物遺体はイノシシ、シカ、イヌ、テン、ウサギ、ムササビ、鳥類、スッポンとタイなどの魚類で、この時期は通して種数と出土量が最も多い。イノシシとシカはほぼ全ての遺構から出土している。

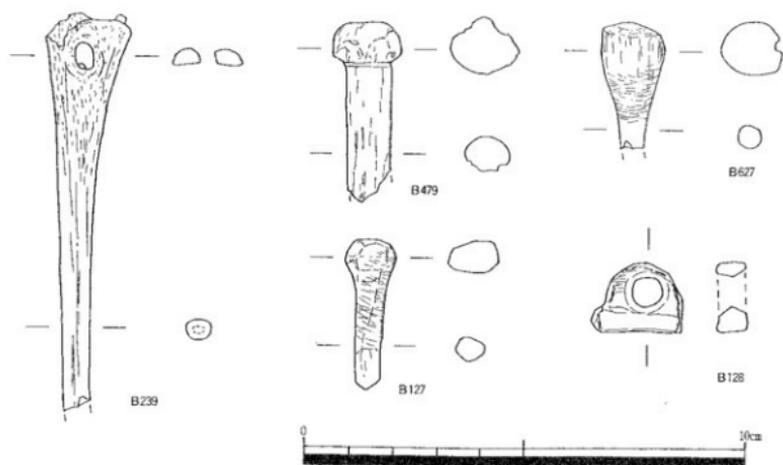
各遺構の出土状況

溝から出土した動物遺体は種数、出土量ともに最も多く、特にイノシシとシカは出土数が122と79(うち鹿角は24)で出土骨の大半を占め、最小個体数は前者が5、後者が4である。出土部位はイノシシがほぼ全身が出土しているのに対し、シカは角、上顎臼歯と四肢骨が多い。鹿角は、加工品(第97図、B127・B128)や骨角器を作成した痕跡があるものが多く、落角も混在している。野生小哺乳類は、テンの左下顎骨、ウサギの右踵骨、ムササビの左下顎骨と右下顎第1切歯が各1点出土している。イヌの出土は比較的少なく、左下顎骨と下顎第4小臼歯と犬歯が出土しているが、この犬歯は人工的に切断されたと思われる。鳥類は数点出土しているが種の特定はできなかった。それらは骨針に加工された骨片(第97図、B239)やカルガモ程度の大きさの左肩甲骨である。爬虫類の出土数は少ないがスッポンが遺存している。サカナは同定できたものがタイの顎骨の3点のみである。

第3面の土坑・不明遺構・ピットから出土したイノ



第96図 出土骨角製品(1)



第97図 出土骨角製品(2)

シシとシカは溝に次いで出土量が多く、最小個体数はイノシシで2、シカで1である。しかし、出土数はイノシシ39、シカ17(うち鹿角は6)でイノシシのほうが約2倍多く、最小個体数も2と1である。出土部位は両者ともに歯と四肢骨の出土が多い。

土坑SK-A3221からは焼かれた鹿角の破片が1点のみ出土している。

土坑SK-A3224からは小型のツル目と思われる鳥類の手の近位第3指骨が出土している。

土坑SK-A330からはイノシシがシカよりやや多い。これらのイノシシのうち下顎骨の大歯歯槽の形態がニホンイノシシと異なるものが出土し、弥生ブタの可能性が示唆される。このイノシシ(弥生ブタ?)は大歯の形態からオスと推定され、歯の磨耗状態から4歳以上の成体と推測された。また、鹿角は焼骨や切断された角先も遺存している。

SK-A308(土坑墓?)からはイノシシ、シカとイヌ科の頸椎の椎体が出土し、最小個体数はいずれも1である。出土数はシカのほうが多く、鹿角の角先も遺存している。

SK-A309(土坑墓?)からはシカの中足骨とムササビの第1切歯が出土しており、イノシシは遺存していない。

焼失家屋跡と推測されている遺構のSX-A301からはイノシシの臼歯が2本出土している。

遺構の性格が不明であるSX-C202からはイヌの左下顎大歯が出土し、歯の大きさから小型犬で、歯の咬耗が進んでいることより比較的老齢であると推測される。

弥生時代前期から中期(I~III)

第VI層として一括された層からの出土数は少なく、イノシシもシカも出土量はほぼ同数であり、最小個体数はいずれも2である。イノシシは頭骨の出土数が多いがシカは角と四肢骨が遺存している。人骨

の下顎骨の一部が出土しているが、由来は不明である。

弥生時代中期（Ⅲ～Ⅳ）

イノシシとシカの出土数が多いが、イヌ、タヌキ、モグラ、フクロウ、キジ、スッポンとカメなどが出土し、人骨も遺存している。

各遺構の出土状況

溝から出土したイノシシとシカは出土数が61と38（うち鹿角は7）で、最小個体数は前者が3、後者が2である。イノシシは全身の骨格から出土しているのに対し、シカは鹿角を除くと四肢骨が多い。鹿角で作成した釘状製品（第97図、B479）が出土している。少数ではあるがタヌキやモグラ、フクロウ、キジやスッポンが出土している。イヌは幼体の肩甲骨と咬耗が大きな小臼歯も遺存していることから、最小個体数は2である。ヒトは胸椎の椎体や手根骨の大菱形骨が出土し、大菱形骨の形状は若い個体と推測される。これらの人骨の由来は不明である。

土坑・不明遺構・ピットからはイノシシとシカのみが若干出土している。土坑SK-A220からは漆を塗布したと思われる鹿角（第96図）と釘状の鹿角製品（第97図、B627）が遺存している。

第V層では出土数は少ないが、この層ではシカがイノシシよりわずかに多い。

中世（第Ⅳ層）

シカの角片と上腕骨の骨頭のみが出土している。

中近世（第Ⅱ層）

イノシシの中手骨または中足骨の近位端とウマの右の大臼歯が出土している。

まとめ

1. 弥生時代の遺構の大半からはイノシシとシカが出土し、その出土比はイノシシの方が多い。
2. 各時期を通してイノシシの頭骨は出現頻度が高いのに対しシカは低い。その理由のひとつとして、シカの頭骨の骨質が関係していると思われる。
3. 前期の土坑墓と考えられている地点からイノシシやシカなどが見られるが埋土に混入していたと考えられる。イヌは椎骨の一部が出土しているだけであり埋葬したかどうかは分からない。
4. また、弥生ブタと思われる下顎骨が出土している土坑SK-A330はイノシシとシカのみ出土していることより、この土坑の性格を検討する必要がある。
5. 弥生時代中期は前期より動物遺体の種、量ともに少ないが、前期同様イノシシとシカが大半を占めている。
6. 中期の溝からはモグラ、キジやフクロウなどの小動物が出土し人骨も混在しているが、人骨の由来は不明である。
7. 中世と近世の層は攪乱を受けている可能性が高い。
8. 層位不明の側溝からウシの大臼歯が出土している。

表1-(1) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	左右	部位	出土部位	備考
B01	跡生1	イス	左	下顎 第4小臼歯	咬頭磨耗あり	
B02		イス	不明	犬歯	根に切断されている	加工痕あり
B03		マシ	左	下顎骨	第1小臼歯～第1犬臼歯まで遺存。第1小臼歯～第4小臼歯まで釘痕。咬頭磨耗	臼歯列長 Pn4 M歯棟 19.3
B04		ウサギ	右	踵骨		表3
B05		イシシ	一	踵骨	左側の踵骨とラムダ状結合が遺存	
B06		イシシ	一	後頭骨	左の外側部が遺存	
B07		イシシ	右	上顎骨	第2犬臼歯～第3犬臼歯釘痕。第1犬臼歯近位側の上臼歯が破壊	表3
B08		イシシ	右	上顎 第1乳切歯	欠損が大きい	表3
B09		イシシ	左	上顎 第3乳臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3
B10		イシシ	左	上顎 第3小臼歯	未萌出	表3
B11		イシシ	左	上顎 第4小臼歯	咬頭の磨耗が小さい	表3
B12		イシシ	右	上顎 第4小臼歯	磨耗のみ	表3
B13		イシシ	左	上顎 第1犬臼歯		表3
B14		イシシ	左	上顎 第1犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B15		イシシ	左	上顎 第1犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B16		イシシ	左	上顎 第2犬臼歯	咬頭磨耗あり	
B17		イシシ	左	上顎 第3犬臼歯	咬頭磨耗あり	表3
B18		イシシ	右	上顎 第3犬臼歯		表3
B19		イシシ	左	下顎骨		
B20		イシシ	左右	下顎骨	第1,2切歯の歯槽部が遺存	
B21		イシシ	左	下顎骨	下顎角が遺存	
B22		イシシ	左	下顎 第1切歯		
B23		イシシ	左	下顎 第1切歯	咬頭磨耗	表3
B24		イシシ	右	下顎 第1切歯	咬頭磨耗	表3
B25		イシシ	右	下顎 第2切歯	咬頭磨耗	
B26		イシシ	不明	下顎 第1or第2切歯		
B27		イシシ	不明	下顎 犬歯		
B28		イシシ	左	上顎 第1小臼歯		表3
B29		イシシ	左	上顎 第3小臼歯		表3
B30		イシシ	左	上顎 第4小臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3
B31		イシシ	左	上顎 第4小臼歯		表3
B32		イシシ	左	上顎 第2犬臼歯		表3
B33		イシシ	左	下顎 第2犬臼歯	磨耗のみ遺存	
B34		イシシ	左	下顎 第3犬臼歯	近位側欠損	
B35		イシシ	右	下顎 第3犬臼歯	未萌出	
B36		イシシ	不明	下顎 第3犬臼歯	未萌出	表3
B37		イシシ	不明	犬歯		
B38	SD-A301	イシシ	不明	第3犬臼歯	磨耗のみ	
B39		イシシ	不明	犬臼歯	根端のみ遺存	
B40		イシシ	不明	犬臼歯	欠損が大きい	
B41		イシシ	不明	犬臼歯	未萌出。欠損が大きい	
B42		イシシ	不明	犬臼歯		
B43		イシシ	不明	犬臼歯		
B44		イシシ	一	肩甲骨	右側の標本と構装孔周囲が遺存	
B45		イシシ	一	指骨		
B46		イシシ	一	指骨	後側面が遺存	指骨
B47		イシシ	右	肩甲骨	前側面が遺存	
B48		イシシ	左	上腕骨		
B49		イシシ	左	中手骨Ⅲ	近位側面が遺存	表3
B50		イシシ	左	大腸骨	骨幹中央～遠位側遺存。骨端欠損	
B51		イシシ	左	大腸骨	遠位端が遺存	
B52		イシシ	不明	大腸骨	骨幹近位～中央遺存	
B53		イシシ	左	趾骨	趾骨溝の外形側のみ遺存	
B54		イシシ	右	趾骨		表3
B55		イシシ	不明	中手骨or中足骨ⅢorⅣ	遠位側面が遺存	表3
B56		イシシ	不明	高脛骨		表3
B57		イシシ	不明	高脛骨or中脛骨	遠位側面が遺存	
B58		イシシ	不明	高脛骨or中脛骨	遠位側面が遺存	
B59		イシシ	不明	高脛骨or表面骨	遠位側面が遺存	
B60		シカ	右	角	角	
B61		シカ	不明	角	角	
B62		シカ	不明	角	角	
B63		シカ	不明	角	角	
B64		シカ	右	上顎 第2小臼歯	咬頭磨耗	歯槽1
B65		シカ	右	上顎 第3小臼歯	咬頭磨耗	表3
B66		シカ	左	上顎 第4小臼歯	咬頭磨耗	表3
B67		シカ	左	上顎 第1犬臼歯	遠位側のみ遺存	
B68		シカ	左	上顎 第1犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B69		シカ	右	上顎 第1犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B70		シカ	左	上顎 第2犬臼歯	近位側のみ遺存	表3
B71		シカ	右	上顎 第2犬臼歯	近位側のみ遺存	表3
B72		シカ	右	上顎 第2犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B73		シカ	右	上顎 第2犬臼歯	咬頭磨耗	表3
B74		シカ	左	上顎 第2or第3犬臼歯		
B75		シカ	左	上顎 第3or第4小臼歯	咬頭磨耗あり	
B76		シカ	左	上顎 第3or第4小臼歯	未萌出。近位側のみ遺存	
B77		シカ	不明	犬臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3

* 詳細欄の数値は骨片数

** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(2) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	左右	部位	出部位	詳細	備考
B78		シカ	左	下顎骨	下顎結合部、オトガイ孔より遠位が遺存		
B79		シカ	右	下顎 第1or第2大臼歯			
B80		シカ	右	下顎 第3大臼歯	近位側欠損		
B81		シカ	右	下顎 大臼歯	舌側のみ遺存		
B82		シカ	不明	下顎 大臼歯	咬頭の磨耗が小さい		
B83		シカ	不明	歯			
B84		シカ	不明	歯	上顎歯、欠損が著しい		
B85		シカ	—	第1胸椎			
B86		シカ	—	腰椎			表3
B87		シカ	左	中手骨Ⅲ・IV	近位端が遺存		
B88		シカ	左	脛骨	近位骨端が遺存する(踵骨破損)		
B89		シカ	右	跗骨			煨骨
B90		シカ	不明	中手骨or中足骨	近位骨端が遺存		加工痕あり
B91		シカ	不明	趾骨			表3
B92		シカ	不明	基節骨			同一固体表3
B93		シカ	不明	中跗骨			
B94		シカ	不明	基跗骨			同一固体表3
B95		シカ	不明	中跗骨			
B96		シカ	不明	中跗骨			表3
B97		シカ	右	足の舟状骨-立方骨			
B98		シカ	右	足の舟状骨-立方骨			
B99		シカウ	不明	骨			
B100		ウイ	不明	椎骨片		2	煨骨
B101		ウイ	左	上顎骨			
B102		イノシシ	左	前頭骨・頭頂骨	前頭骨頬骨突起部と融合している前頭骨の一部が遺存		
B103		イノシシ	右	下顎 第2切歯			
B104		イノシシ	右	上顎 第1大臼歯	咬頭磨耗		表3
B105		イノシシ	右	上顎 第2大臼歯	咬頭の磨耗が小さい		表3
B106		イノシシ	右	上顎 第3大臼歯	咬頭の磨耗が小さい		表3
B107		イノシシ	左	上顎 第4小臼歯	咬頭の磨耗が小さい		表3
B108		イノシシ	不明	大臼歯	咬頭の磨耗が大きい		
B109		イノシシ	左	大臼歯	近位側のみ遺存		
B110		イノシシ	左	前掌骨	腕甲骨と腕骨の一部が遺存		
B111		イノシシ	左	尺骨	滑車切痕側のみ遺存		煨骨
B112		イノシシ	右	掌骨	寛骨臼側が遺存		
B113		イノシシ	左	踵骨	踵骨隆起を欠損		加工痕あり表3
B114		シカ	不明	角		2	煨骨1
B115		シカ	不明	角			
B116		シカ	—	腰椎	椎体と右側の後関節突起部が遺存		
B117		シカ	—	腰椎	椎体と左側の後関節突起部が遺存		
B118		シカ	—	腰椎	椎体が遺存		
B119		シカ	不明	大臼歯	大臼歯部が遺存		
B120		シカ	左	踵骨	靴底突起部が遺存		煨骨
B121		イヌ	左	下顎骨	犬歯～第3大臼歯遺存、第1小臼歯が欠損、第2大臼歯は釘埋		表3
B122		イノシシ	—	胸椎	椎体と棘突起の一部が遺存、背端未磨合		
B123		イノシシ	左	尺骨	肘部～骨幹1/2遺存、肘頭の近位端が未磨合		
B124		イノシシ	不明	末跗骨			最大長 11.97
B125		イノシシ	不明	末跗骨	近位端周辺遺存		煨骨
B126		シカ	不明	角			加工痕あり(遺付)
B127		シカ	不明	角			釘状角製品、第97回
B128		シカ	不明	角			加工品、第97回
B129		シカ	左	上顎 第2小臼歯	舌側のみ遺存、咬頭の磨耗が小さい		
B130		シカ	左	踵骨	踵骨隆起と靴底突起部を破損		
B131		シカ	不明	中手骨or中足骨ⅢorⅣ	ⅢorⅣの骨頭のみ遺存、背端未磨合、遊離骨端		
B132		イノシシ	—	後頭骨・側頭骨・頭頂骨・前	右側が遺存、後頭骨に解体痕あり		加工痕あり
B133		イノシシ	右	側頭骨	椎体		
B134		イノシシ	—	線形骨	線形骨部が遺存		
B135		イノシシ	右	上顎 第1切歯	咬頭の磨耗が大きい		表3
B136		イノシシ	左	上顎 第3切歯	咬頭の磨耗が小さい		表3
B137		イノシシ	右	上顎 犬歯			メス
B138		イノシシ	右	上顎 第2小臼歯	咬頭磨耗		表3
B139		イノシシ	左	上顎 第3小臼歯	咬頭の磨耗が大きい		表3
B140		イノシシ	左	上顎 第1大臼歯	咬頭の磨耗が大きい		表3
B141		イノシシ	左	下顎骨	関節突起が遺存		
B142		イノシシ	左	下顎骨	下顎角が遺存		
B143		イノシシ	左	肋骨			
B144		イノシシ	右	上腕骨	骨幹中央～遠位が遺存、内側上顆が未磨合		
B145		イノシシ	右	上腕骨	遠位部が遺存		加工痕あり
B146		イノシシ	不明	指骨	骨端が遺存		
B147		イノシシ	右	寛骨	坐骨・恥骨と腸骨の一部が遺存、背端未磨合		指骨体に加工痕あり、表3
B148		イノシシ	左	趾骨			
B149		イノシシ	右	趾骨	背端未磨合、骨幹中央～遠位部が遺存		
B150		シカ	右	趾骨			煨骨
B151		シカ	左	上顎骨	臼歯の歯槽部が遺存		
B152		シカ	左	上顎 第2小臼歯			表3
B153		シカ	右	上顎 第2小臼歯～第3大臼歯	第2小臼歯～第3大臼歯まで釘埋		表3

* 詳細の数は骨片数

** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(3) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	左右	部位	出土部位	備考
B154		シカ	不明	大臼歯		
B155		シカ	不明	大臼歯		
B156		シカ	不明	歯		
B157		シカ	不明	第5頸椎		
B158		シカ	右	椎骨	近位頸~骨幹2/3遺存	表3
B159		シカ	不明	中半骨or中足骨Ⅲ・Ⅳ	掌側縁清or背側縁清が遺存	表3
B160		イノシシorシカ	不明	長骨片		椎骨
B161	SD-B302	サカナ	不明	鱗片		
B162		ムササビ	左	下顎骨		表3
B163		イノシシ	一	後頭骨	左側の顎突突起が遺存	
B164		イノシシ	一	後頭骨	右側の顎突突起が遺存	
B165		イノシシ	左	側頭骨	椎体部(椎体)	
B166		イノシシ	左	側頭骨	椎体	
B167		イノシシ	右	側頭骨	椎体	椎骨
B168		イノシシ	右	側頭骨	椎体	
B169		イノシシ	左	側頭骨・頭頂骨	眼窩後縁・前頭骨突起が遺存	椎骨
B170		イノシシ	左	上顎 第1切歯	咬頭磨耗	表3
B171		イノシシ	右	上顎 第1切歯	咬頭の磨耗が大きい	表3
B172		イノシシ	右	上顎 第1切歯	欠損が著しい	
B173		イノシシ	右	上顎 第1切歯	咬頭の磨耗	表3
B174		イノシシ	左	上顎 第2乳臼歯	咬頭の磨耗	表3
B175		イノシシ	左	上顎 犬歯		メス、加工痕あり、表3
B176		イノシシ	右	上顎 犬歯		
B177		イノシシ	右	上顎 犬歯	咬頭欠損	
B178		イノシシ	右	上顎 犬歯	咬頭磨耗	表3
B179		イノシシ	右	上顎骨	第1小臼歯~第4小臼歯釘種、第3小臼歯および第4小臼歯は咬頭磨耗	メス、表3
B180		イノシシ	左	上顎 第2切歯	咬頭磨耗	表3
B181		イノシシ	左	上顎 第2切歯	歯根部の大部分が欠損、咬頭の磨耗が小さい	表3
B182		イノシシ	右	上顎 第2切歯		表3
B183		イノシシ	左	上顎 第2乳切歯	咬頭の磨耗が小さい	表3
B184		イノシシ	左	上顎 第3小臼歯	頰側欠損	
B185		イノシシ	左	上顎 第4小臼歯		
B186		イノシシ	左	上顎 第1大臼歯		表3
B187		イノシシ	左	上顎 第2or第3大臼歯		
B188		イノシシ	左	下顎骨	歯冠のみ、未萌出	
B189		イノシシ	左	下顎骨	第4小臼歯~第1大臼歯まで遺存、第4小臼歯、第1大臼歯は釘種しているが、歯根部欠損	
B190		イノシシ	右	下顎骨	顎間突起部が遺存	
B191		イノシシ	左	下顎 第1切歯	下顎角が遺存	
B192		イノシシ	左	下顎 犬歯	咬頭欠損	
B193		イノシシ	左	下顎 第2乳切歯	咬頭磨耗	表3
B194		イノシシ	不明	大臼歯		
B195		イノシシ	不明	臼歯		
B196		イノシシ	不明	臼歯		
B197		イノシシ	不明	臼歯		
B198	SD-B302上層	イノシシ	不明	臼歯	未萌出	
B199		イノシシ	不明	前		
B200		イノシシ	不明	一	1	
B201		イノシシ	一	椎骨		
B202		イノシシ	右	肩甲骨	右の外側縁が遺存	
B203		イノシシ	左	上腕骨	遠位部遺存、内側上顆と外側上顆を切断	加工痕あり
B204		イノシシ	右	上腕骨	遠位部が遺存	表3
B205		イノシシ	右	上腕骨	上腕骨頭が遺存	加工痕あり
B206		イノシシ	左	尺骨	肘頭のみ遺存、近腕骨頭	
B207		イノシシ	左	尺骨	肘頭未癒合、遠位部欠損	表3
B208		イノシシ	右	尺骨	肘頭の先端を切断している	加工痕あり、表3
B209		イノシシ	右	尺骨	肘頭~骨幹1/2が遺存、肘頭に内側から楔状の利刺を打ち込んだ痕跡あり	加工痕あり、表3
B210		イノシシ	不明	尺骨	遠位骨頭のみ遺存、近腕骨頭	加工痕あり
B211		イノシシ	右	椎骨		
B212		イノシシ	左	大臼歯	小臼歯より下方、骨幹2/3が遺存	
B213		イノシシ	左	股骨		椎骨
B214		イノシシ	右	股骨	踵骨突起部が遺存、骨端未癒合	椎骨
B215		イノシシ	不明	中半骨or中足骨	骨端未癒合	新生児?
B216		イノシシ	左	第Ⅳ趾骨	近位関節面が遺存	椎骨
B217		イノシシ	不明	中趾骨		表3
B218		シカ	不明	角		加工痕あり
B219		シカ	不明	角		加工痕あり、椎骨
B220		シカ	左	上顎骨	4. 歯槽部が遺存	
B221		シカ	左	上顎 第2小臼歯	咬頭磨耗	表3
B222		シカ	左	上顎 第3小臼歯	咬頭磨耗	表3
B223		シカ	左	上顎 第4小臼歯	咬頭磨耗	表3
B224		シカ	左	上顎 第2大臼歯		表3
B225		シカ	左	上顎 第3大臼歯		表3
B226		シカ	不明	下顎骨	下顎角が遺存	加工痕あり
B227		シカ	不明	歯	欠損が著しい	
B228		シカ	一	頰骨(下位)	後関節突起が遺存	
B229		シカ	左	肩甲骨	肩峰と内側縁を欠損	表3
B230		シカ	左	上腕骨	骨幹中央から遠位部が遺存	表3

* 詳細欄の数値は骨片数

** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(4) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	部位	出土部位	備考
B231		シカ	左 上顎骨	骨幹中央から遠位部が遺存、遠位骨頭破損	
B232		シカ	左 頤骨	骨幹中央から遠位部が遺存	表3
B233		シカ	左 小変形骨+有頭骨	若年	
B234	SD-B302上層	シカ	不明	基節骨or中足骨III-IV	基節骨or中足骨III-IV
B235		シカ	不明	中手骨or中足骨III-IV	III-IV、遠位骨頭のみ遺存
B236		シカ	不明	基節骨	煨骨、表3
B237		シカ	左 上顎骨		
B238		トリ	左 踵骨		
B239		トリ	一 骨片	頭部に穿孔、骨針	第97図
B240		イノシシ	右 肋骨	遠位端部が遺存	煨骨
B241	SD-B302下層	イノシシ	不明	中足骨V	遠位端部が遺存
B242		シカ	右 第4頤骨	椎体の前関節面と右側の前関節突起を切断	加工値あり
B243		イノシシ	左 大頤骨	骨幹遠位部が遺存、遠位骨頭は欠損	解体痕あり?
B244	SD-B303	イノシシ	右 手の舟状骨		
B245		シカ	左 長骨1		解体痕あり
B246		イノシシ	右 側頭骨	頸体部が遺存	
B247		イノシシ	左 下顎 第2乳切歯	歯根部欠損	
B248		イノシシ	右 下顎 第1切歯		表3
B249	SD-C301	イノシシ	左 下顎 第2切歯		表3
B250		トリ(カモ?)	左 肩甲骨	関節部～3cm遺存	煨骨、カルカモ様の大きさ
B251		スッポン	一 後頭骨+疑形骨	結合が遺存	
B252		イノシシ	一 疑骨	疑骨曰	
P253		イノシシ	左 肩骨	肩骨曰	
B254		イノシシ	右 大頤骨	小転子まはさんで5cmほど遺存、大転子も切断	加工値あり
B255		シカ	右 疑骨		
B256		シカ	右 肩甲骨	肩甲骨面辺 肩甲骨面縁	
B257		シカ	シカ 上顎骨	上顎骨部が遺存	煨骨
B258		シカ	右 手の舟状骨	一部欠損(切断?)	煨骨
B259		シカ	右 月状骨		煨骨
B260		シカ	右 月状骨		
B261		シカ	右 小変形骨+有頭骨		
B262	SD-C302	シカ	不明	月状骨	
B263		シカ	左 鼻骨	鼻骨曰	
B264		シカ	左 膝蓋骨		
B265		シカ	左 疑骨	近位骨頭のみ遺存、骨頭未癒合、頭骨破損	
B266		シカ	左 疑骨	骨幹中央から遠位部まで遺存	表3
B267		シカ	左 疑骨	骨幹中央から遠位部まで遺存	表3
B268		シカ	左 疑骨		煨骨、表3
B269		シカ	不明	中足骨III-IV	遠位足根骨～遠位部が遺存
B270		シカ	不明	中手骨or中足骨III-IV	近位部が遺存、骨頭が破損、骨頭未癒合
B271		シカ	不明	中手骨or中足骨III-IV	近位部が遺存、III-IVが破損、骨頭未癒合
B272		シカ	不明	基節骨	近位関節面の一部が遺存
B273		イノシシ	左 下顎骨	第2小臼歯～第2大臼歯まで遺存、第4小臼歯～第2大臼歯釘補、第3大臼歯は未萌出	表3
B274	SD-C302下層	イノシシ	右 下顎 第3小臼歯		
B275		イノシシ	右 下顎 第4小臼歯		
B276		シカ	右 下顎 第2大臼歯		表3
B277		シカ	右 疑骨		表3
B278		シカ	右 距骨		表3
B279	SK-A301	イノシシ	不明	上顎骨	1、歯槽部が遺存
B280		イノシシ	右 上顎 第1切歯		
B281	SK-A302	イノシシ	不明	上顎 第3大臼歯	遠位部の一部が遺存
B282		イノシシ	不明	中前骨	
B283		シカ	左 上顎 第1or第2大臼歯	咬頭磨耗	
B284		イノシシ	左 前頭骨+側頭骨	眼窩面辺が遺存	
B285		イノシシ	左 上顎 第2大臼歯		表3
B286		イノシシ	右 上顎骨	第3切歯～大臼歯の歯根部が遺存	
B287		イノシシ	左 下顎骨	第2小臼歯～第3大臼歯遺存、第4小臼歯と第3大臼歯は釘補、咬頭磨耗	オス、表3
B288	SK-A303	イノシシ	左 下顎骨	下顎角が遺存	
B289		イノシシ	左 下顎骨	関節突起が遺存	
B290		イノシシ	左 下顎骨	犬肉の歯槽部面辺が遺存	
B291		イノシシ	不明	上顎骨or下顎骨	2、歯槽部が遺存
B292		イノシシ	右 鼻骨	鼻骨が遺存	煨骨
B293		シカ	不明	角	
B294		シカ	左 犄角	角床	
B295		イノシシ	一 側頭骨	左の眼窩面辺遺存	
B296	SK-A304	イノシシ	左 上顎 第3小臼歯	咬頭磨耗	表3
B297		イノシシ	右 上顎 第1大臼歯	咬頭磨耗	表3
B298		シカ	左 上顎 第2大臼歯	頰側に異常あり(エナメル管が変形)	表3
B299		シカ	右 下顎 第3大臼歯	遠位部のみ遺存	
B300		シカ	一 踵骨	踵骨と踵骨が遺存	
B301	SK-A304	シカ	不明	基節骨	表3
B302		イノシシ	不明	頸椎	椎体が遺存
B303	SK-A308	イノシシ	不明	高冠のみ	
B304	(土坑墓?)	イノシシ	不明	下顎 犬肉	オス、加工痕あり
B305		イノシシ	左 手の舟状骨		煨骨、加工痕あり
B306		シカ	不明	角	先端が遺存

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(5) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	出土部位			備考	
			左右	部位	詳細		
B307	SK-A308 (土坑墓?)	シカ	左	側頭骨	錐体が遺存		
B308		シカ	右	上顎 第3or第4小臼歯	咬頭の磨耗が小さい		
B309		シカ	右	上顎 第2大臼歯	遠位側の歯根側欠損	表3	
B310		シカ	左	上顎 第1~第2大臼歯	第1大臼歯は釘腫、第2大臼歯は近位側のみ遺存、咬頭の磨耗が小さい	表3	
B311		シカ	一	第7頰骨	椎体の前方を切断	表3	
B312		シカ	一	坐骨	寛骨臼の月状面が遺存	頰骨	
B313		シカ	一	踵骨	寛骨臼の月状面が遺存	表3	
B314		シカ	左	趾骨	寛骨臼の月状面が遺存	頰骨	
B315		シカorイノシシ	不明	坐骨	近位関節面のみ遺存、骨端未癒合		
B316		シカorイノシシ	不明	坐骨or中趾骨	遠位関節面が遺存		
B317		SK-A309 (土坑墓?)	ムササビ	右	下顎 第1切歯	近位関節面が遺存	
B318		シカ	左	中足骨III・IV	近位関節面が遺存		
B319		イノシシ	不明	切歯片	1		
B320		イノシシ	不明	大臼歯	歯冠のみ、欠損が著しい		
B321		シカ	一	後頭骨	左側後頭骨が遺存		
B322		シカ	一	後頭骨	外後頭隆起と左側の環結が遺存		
B323	シカ	左	側頭骨	錐体が遺存			
B324	シカ	不明	中趾骨or中趾骨III・IV	近位側の一部が遺存			
B325	SK-A321	シカ	不明	角	1		
B326	イノシシ	一	踵骨	右側が遺存、未癒合	頰骨 1才前後		
B327	SK-A324	トリ(小嘴ツル目)	不明	手の近位第3指骨			
B328	イノシシ	左	下顎 第2大臼歯		表3		
B329	イノシシ	不明	大臼歯	歯冠のみ			
B330	イノシシ	左	踵骨	遠位骨端周辺が遺存	表3		
B331	シカ	一	踵骨	前関節面周辺が遺存	頰骨		
B332	シカ	一	踵骨	右側の前関節突起が遺存			
B333	シカ	右	坐骨		頰骨		
B334	イノシシ	右	尺骨	滑車切痕~肘頭が遺存、肘頭近位端を破壊			
B335	シカ	不明	角	4			
B336	イノシシ(ブタ)	左右	下顎骨	左大前歯より後部破壊、右下顎枝破壊 第1大臼歯から第3大臼歯までは歯冠が破壊	オス、大歯歯槽の形がニホンイノシシと異なることよりヤブタの可能性が高い 4才以上、表3		
B337	イノシシ	左	頬骨	環鼻部が遺存			
B338	イノシシ	左	頬骨	歯冠のみ、咬頭磨耗			
B339	イノシシ	左	上顎 第2大臼歯	歯冠のみ、咬頭の磨耗が小さい	表3		
B340	イノシシ	左	上顎 第3大臼歯	第1大臼歯歯槽後半から第3大臼歯の歯槽突起まで			
B341	イノシシ	左	上顎骨	近位側欠損、咬頭の磨耗が小さい			
B342	イノシシ	右	下顎 第3小臼歯	1	切断歯有?		
B343	イノシシ	不明	歯	1			
B344	イノシシ	不明	歯	1			
B345	イノシシ	一	腕骨	椎体のみ遺存	頰骨		
B346	イノシシ	一	腕骨	末関節面周辺の椎弓が遺存			
B347	イノシシ	右	上腕骨	近位骨端のみ遺存、骨端未癒合			
B348	イノシシ	右	上腕骨	遠位端のみ遺存、関節面は破壊	2才のものより小さい		
B349	イノシシ	左	中趾骨V		表3		
B350	SK-A330	イノシシ	左	中足骨III	近位骨端周辺遺存		
B351	イノシシ?	不明	歯	2			
B352	シカ	右	角	切断歯 角先にもあり	切断歯あり		
B353	シカ	不明	角	2	頰骨1		
B354	シカ	右	上顎 小臼歯	咬頭の磨耗が大きい、近位側欠損			
B355	シカ	右	上顎 小臼歯	咬頭の磨耗が大きい、頰歯欠損	表3		
B356	シカ	右	上顎 第1or第2大臼歯	咬頭の磨耗が大きい、歯根のみ遺存			
B357	シカ	不明	上顎 第1or第2大臼歯	咬頭の磨耗が大きい、頰歯欠損			
B358	シカ	右	上顎 第1大臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3		
B359	シカ	右	上顎 第2大臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3		
B360	シカ	右	下顎骨	関節突起が遺存			
B361	シカ	一	舌骨	大角			
B362	シカ	一	第4頰骨				
B363	シカ	一	仙骨	左側の前関節突起と仙骨座周辺が遺存、骨端未癒合			
B364	シカ	右	指骨	指骨頭周辺遺存	頰骨		
B365	シカ	左	指骨		表3		
B366	シカ?	不明	歯	2、歯根部が遺存			
B367	シカ?	右	指骨	指骨頭周辺遺存	頰骨		
B368	シカorイノシシ	不明	末趾骨	近位関節面のみ遺存			
B369	SK-A332	イノシシ	左	肩甲骨	肩甲鎖~内側8cm遺存		
B370	SK-B301	イノシシ	不明	中趾骨IV	近位骨端周辺遺存		
B371	シカ	不明	坐骨	遠位骨端周辺が遺存			
B372	シカ	不明	下頰骨	下頰骨の一部が遺存			
B373	SK-B302	イノシシ	右	下顎 第3大臼歯	歯冠のみ	表3	
B374	イノシシ	右	下顎 第2大臼歯	咬頭の磨耗が小さい			
B375	SK-B304	シカ	右	肩甲骨	肩甲鎖~5cm種遺存		
B376	シカ	不明	中趾骨		断片痕あり		
B377	SK-B305	シカ	不明	中足骨III・IV	遠位骨端周辺遺存、骨端未癒合	頰骨	

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(6) 動物遺体の出土表

資料 番号	出土地点	種	左右	部 位	出土部位	備 考
B378		イノシシ	不明	臼歯	1	
B379	SK-C301	イノシシ	左	頬骨	遠位骨端のみ遺存、骨頭未癒合	2才前後
B380		イノシシ	右	尺骨	遠位骨端のみ遺存、骨頭未癒合	2才前後
B381		イノシシ	不明	末節骨	1	
B382		シカ	不明	不明		
B383	SK-C306	イノシシ	右	上顎骨	第4小臼歯～第1大臼歯遺存、第4小臼歯、第1大臼歯は釘差ししているが、第4小臼歯の近位部を欠損	表3
B384		イノシシ	左	上顎 第2大臼歯		表3
B385		イノシシ	右	下顎骨	関節突起周辺が遺存	表3
B386	SK-C316	シカ	一	腕骨	後関節突起周辺が遺存	
B387		シカ?	一	椎骨	椎体の一部が遺存	
B388	SP-A304	シカ	左	踵骨	踵骨突起のみ遺存、近位骨端は未癒合	
B389	SP-A307	シカorイノシシ	不明	下顎骨	歯槽の外側面のみ遺存	
B390		イノシシ	左	下顎 第2大臼歯	咬頭磨耗なし	表3
B391	SP-A3199	シカ	右	上顎 第2大臼歯	舌側の歯根跡欠損	表3
B392	SP-A3229	イノシシ	不明	下顎骨	下顎角と下縁が遺存	
B393	SP-A3253	シカorイノシシ	右	脛骨	遠位端の一部	
B394	SP-A3260	イノシシ	一	第5腰椎	右側の椎弓根周辺が遺存	
B395		イノシシ	一	腰椎	右側の前関節突起周辺が遺存、未癒合	
B396	SP-A329	イノシシ	右	上顎骨	第1大臼歯歯槽後半～第2大臼歯歯槽が遺存、第2大臼歯は釘差ししているが歯冠は破損	
B397		シカorイノシシ	不明	大臼歯	歯根のみ遺存	
B398	SP-B301	イノシシ	左	下顎 第1切歯		
B399	SP-B324	シカ	右	上腕骨	遠位端破損、遠位は骨頭未癒合	
B400	SP-C309	イノシシ	不明	大臼歯	歯冠のみ、欠損が著しい	
B401		イノシシ	不明	大臼歯	歯冠のみ、欠損が著しい	
B402	SX-A301 (模範家屋?)	イノシシ	左	下顎 第4小臼歯		表3
B403		イノシシ	左	下顎 第1大臼歯	歯冠のみ	表3
B404		イノシシ	左	歯頭骨	椎体が遺存	
B405		イノシシ	左	上顎 第2切歯		表3
B406		イノシシ	不明	前		
B407		イノシシ	不明	歯	歯冠のみ	
B408		イノシシ	不明	肋骨		解体痕あり
B409	SX-A302	イノシシ	右	上腕骨	上腕骨頭の一部が遺存	
B410		イノシシ	右	肩胛骨	肩胛骨～内側縁まで遺存	解体痕あり
B411		イノシシ	右	肩甲骨	肩甲骨～内側5cm程度遺存	加工痕あり
B412		イノシシ	左	中足骨	骨幹1/2～遠位部が遺存	
B413		イノシシ	左	中足骨	骨幹1/2～遠位部が遺存	
B414		シカ		脛骨片	1	
B415	SX-A303	イノシシ	不明	上顎 大臼歯		
B416		イノシシ	不明	上顎 犬歯		オス
B417		イノシシ	右	肩骨	肩骨臼周辺が遺存	
B418		イノシシ	左	外側突起骨		
B419		シカ	左	趾骨		後骨、表3
B420		イノシシ	左	上顎 第2小臼歯		表3
B421		イノシシ	不明	歯		表3
B422		第VI層	イノシシ	左	椎骨	
B423		シカ	不明	歯		
B424		シカ	左	尺骨	遠位部が遺存	
B425		トリア		骨片	1	
B426	C-2(SK-?)	シカ	不明	歯		後骨
産生I 新						
B427		イヌ	左	下顎 犬歯	咬頭の磨耗が大きい	小型
B428	SX-C202	イノシシ	不明	第1大臼歯	未萌出 後方1/3遺存	
B429		シカ	左	下顎 第3大臼歯	未萌出 後方2/3遺存	
B430		シカ?	不明	臼歯片	1	未萌出?
産生I 中～新						
B431	第VI層	イノシシ	左	歯頭骨	左の乳突部が遺存	
B432		イノシシ	一	後頭骨	左の額突起が遺存	
B433		イノシシ	右	中手骨Ⅱ		加工痕あり、表3
B434		シカ	左	脛骨		
産生I～Ⅲ						
B435	第VI層	イノシシ	左	後頭骨	額突起	
B436		イノシシ	右	上顎 第1大臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3
B437		イノシシ	左	上顎 第3大臼歯	咬頭の磨耗が小さい	
B438		イノシシ	右	上顎 第4乳臼歯	乳臼歯、咬頭の磨耗が小さい	表3
B439		イノシシ	左	下顎骨	第2大臼歯～第3大臼歯周辺の歯槽内側部が遺存	
B440		イノシシ	左	下顎 第2大臼歯	咬頭の磨耗が小さい	表3
B441		イノシシ	左	下顎 第3大臼歯	遠位部のみ遺存、咬頭の磨耗が小さい	
B442		イノシシ	不明	大臼歯	未萌出	
B443	イノシシ	左	上腕骨	遠位部が遺存		
B444	イノシシ	不明	第5腰椎	近位骨端周辺が遺存		
B445	イノシシ	不明	中手骨		表3	
B446	シカ	不明	角			
B447	シカ	不明	角			
B448	シカ	不明	角			
B449	シカ	不明	角			

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(7) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	左右	部位	出土部位	備考
B450	第VI層	シカ	不明	角		加工痕あり、円錐状を呈す 燧石1 表3
B451		シカ	不明	角	2	
B452		シカ	左	下顎 第2切歯	咬頭歯根	
B453		シカ	不明	大臼歯		
B454		シカ	左	有鉤骨		
B455		シカ	左	中手骨or中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位骨端面辺が遺存	
B456		シカ	左	脛骨	遠位骨端面辺が遺存	表3
B457		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位骨端面辺が遺存	加工痕あり
B458		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位骨端面辺が遺存	
B459		シカ	不明	中脛骨	遠位骨端面辺が遺存	
弥生Ⅲ～Ⅳ						
B460	SD-A201	イヌ	右	下顎 第2小臼歯	咬頭の磨耗が大きい	表3
B461		イヌ科	不明	下顎 小臼歯		
B462		イヌ科	左	脛骨	大家蓋い	
B463		イノシシ	不明	脛骨片		切断痕あり
B464		イノシシ	不明	脛骨片	1	
B465		イノシシ	一	鹿蹄骨	1	体部
B466		イノシシ	右	上顎骨	第4小臼歯 第1大臼歯 第2大臼歯の歯槽部、歯は釘様、2歳位、第4小臼歯の咬頭は磨耗甚、第1大臼歯の咬頭は磨耗あり、第2大臼歯は第1咬頭のみ磨耗未萌出	表3
B467		イノシシ	右	上顎 第1切歯		
B468		イノシシ	右	上顎 第2大臼歯		表3
B469		イノシシ	右	上顎 第3乳臼歯		表3
B470		イノシシ	右	下顎 第2切歯	乳臼歯 咬頭の磨耗が大きい	表3
B471		イノシシ	不明	臼歯片	1 咬頭の1つ	
B472		イノシシ	右	尺骨	渾身切痕から約10cm遺存	
B473		イノシシ	右	中手骨Ⅳ	遠位部	
B474		イノシシ	右	脛骨	遠位部外側面破損	
B475		イノシシ	右	脛骨	中間部断面遺存	切断痕あり
B476		イノシシ	不明	脛骨	遠位の上部外側面のみ遺存	
B477		イノシシ	不明	脛骨	遠位の上部外側面のみ遺存	燧石
B478		イノシシ	右	下顎 第2大臼歯	未萌出 歯冠のみ	
B479		シカ?	不明	角?		釘状製品、第97図
B480		シカ	左	上顎 第3大臼歯	未萌出	表3
B481		シカ	右	下顎 第2大臼歯	前方2/3破損、萌出完了したところ	
B482		シカ	不明	上顎骨	上顎骨小頭が遺存	表3
B483		シカ	右	尺骨	遠位部	表3
B484		シカ	左	尺骨	遠位部のみ	表3
B485		シカ	左	小鼻形骨～有頭骨	1	燧石
B486		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位部の1つが遺存	
B487		シカ	不明	基節骨	1	
B488		シカorイノシシ	不明	下顎骨	歯槽が一つ遺存	
B489		シカorイノシシ	一	脛骨	脛骨	
B490		シカorイノシシ	一	脛骨or脛骨	脛骨が遺存、脛骨板未発見	
B491		シカorイノシシ	不明	肋骨片	1	
B492		シカorイノシシ	不明	大頰骨	大頰骨頭が遺存	
B493		シカorイノシシ	不明	中脛骨	1	大家蓋い
B614		フクロウ	左	中足骨	遠位部のみ遺存	遠位部破損15.08
B494		トリ	一	長骨?		
B495		ワカナ?	一	脛骨?		
B496		タヌキ	一	第3頰骨		
B497		タヌキ	左	脛骨	骨幹遠位1/3より遠位遺存	外側切断痕あり、逆
B498		キツラ	右	上顎骨		
B499		イヌ	右	下顎 第1切歯	咬頭の磨耗は無し	表3
B500		イヌ	左	下顎 第3切歯		
B501		イヌ	右	肩甲骨	肩甲骨より約2cm遺存	表3、幼体
B502		イヌ科	不明	中脛骨	1	
B503		イノシシ	左	上顎骨	第2大臼歯～第3大臼歯の歯槽部と頰骨突起、第3大臼歯歯根、第1と第2咬頭が磨耗、臼歯歯槽部	4才前後、表3
B504		イノシシ	不明	上顎骨		
B505		イノシシ	右	上顎 第1切歯		
B506		イノシシ	右	上顎 犬歯		オス
B507	イノシシ	左	上顎 第1小臼歯			
B508	イノシシ	右	上顎 第3小臼歯	一部破損		
B509	イノシシ	右	上顎 第1大臼歯		表3	
B510	イノシシ	左	上顎 第2大臼歯		表3	
B511	イノシシ	右	上顎 第2大臼歯		表3	
B512	イノシシ	左	上顎 第3大臼歯	前方1/2遺存		
B513	イノシシ	左	上顎 第3乳臼歯	乳歯	表3	
B514	イノシシ	左	下顎骨	左右の切歯の歯槽部		
B515	イノシシ	左	下顎骨	第2小臼歯から下顎孔まで遺存、第3大臼歯の磨耗は大きい、第1小臼歯が萌出の痕跡は不明	5才以上、表3	
B516	イノシシ	左	下顎骨	第2大臼歯の歯槽部		
B517	イノシシ	右	下顎骨	第3小臼歯～第2大臼歯の粗率分の歯槽部と第3小臼歯、第4小臼歯の歯冠が磨耗壊滅で出土している		
B518	イノシシ	右	下顎骨	第1大臼歯歯槽後半から下顎孔まで遺存 萌出が完了していない第2大臼歯が釘様	2才ぐらい	

* 詳細欄の数字は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(8) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	部位		出土部位	備考
			左右	部位		
B519		イノシシ	右	下顎骨	第1大臼歯から下顎体まで遺存。筋突起および関節突起は破損。第1大臼歯は釘柱。第2大臼歯は歯根のみ釘柱。第3大臼歯未発見	2才前後
B520		イノシシ	右	下顎骨	大臼歯歯槽から下顎枝の一部と下顎角	
B521		イノシシ	右	下顎骨	未発見	表3
B522		イノシシ?	不明	下顎骨?	歯槽の一部	
B523		イノシシ	左	下顎 第1切歯	未発見	
B524		イノシシ	右	下顎 第1切歯	一部遺存	オス
B525		イノシシ	不明	下顎 第1切歯	一部遺存	
B526		イノシシ	不明	下顎 切歯片	小片1	
B527		イノシシ	左	下顎 第1大臼歯	近位の半分が遺存	
B528		イノシシ	左	下顎 第2大臼歯	未発見	表3
B529		イノシシ	右	下顎 第3大臼歯	第1咬頭のみ磨耗	3~4才、表3
B530		イノシシ	不明	切歯片	1	
B531		イノシシ	不明	小臼歯	歯冠の半分が破損。未発見	
B532		イノシシ	不明	臼歯	未発見。歯冠	
B533		イノシシ	不明	臼歯片	少なくとも大臼歯1、小臼歯1	
B534		イノシシ	不明	臼歯片	1	
B535		イノシシ	不明	臼歯片	2	
B536		イノシシ	一	第2胸椎	下椎体板が外れており、棘突起の先端を破損	表3
B537		イノシシ	一	第10胸椎~第13胸椎	右下関節突起が遺存	
B538		イノシシ	一	第1腰椎or第2腰椎	椎体と左関節突起が遺存	
B539		イノシシ	一	第5腰椎	椎弓の左側	
B540		イノシシ	一	腰椎	右関節突起のみ	
B541		イノシシ	一	腰椎?	椎弓の一部	
B542		イノシシ	左	上前骨	骨幹中央~遠位端	表3
B543		イノシシ	右	上前骨	遠位端	
B544		イノシシ?	右	脛骨	関節窩から脛頭(関節窩辺縁と脛頭後縁は破損)	
B545		イノシシ	右	脛骨	近位縁から骨幹1/3まで遺存	表3
B546		イノシシ	左	尺骨	滑車切痕の上端	
B547		イノシシ	左	尺骨	滑車切痕上部のみ遺存	
B548		イノシシ	右	尺骨	滑車切痕直下	
B549		イノシシ	右	大腸骨	骨幹のみ	
B550		イノシシ	右	脛骨	近位遠位端	
B551		イノシシ	左	脛骨	脛骨突起のみ遺存	
B552		イノシシ	左	脛骨	脛骨突起破損	表3
B553		イノシシ	左	脛骨	1	表3
B554		イノシシ	右	脛骨	近位の半分を破損	
B555		イノシシ	右	中足骨III	近位~骨幹1/2まで遺存	
B556		イノシシ	左	中足骨IV	1	表3
B557	SD-B201	イノシシ	不明	中趾骨	1	
B558		イノシシ	不明	基節骨	1	
B559		イノシシ	不明	基節骨	1	
B560		イノシシ	不明	基節骨	骨頭と骨幹1/2が遺存	
B561		イノシシ	不明	基節骨	遠位端遺存	
B562		イノシシ?	不明	末節骨	1	
B563		シカ	不明	角	分岐部、表面磨痕	加工痕あり
B564		シカ	不明	角	先端	
B565		シカ	不明	角	主軸の一部	加工痕あり
B566		シカ	不明	角	分岐部	
B567		シカ	不明	角	2	
B568		シカ	不明	角	落角、角座の部分	
B569		シカ	不明	落角	角座から主軸約10cm遺存	
B570		シカ	一	脛頭骨	左の角突起	
B571		シカ	左	上顎 第1切歯	1	
B572		シカ	右	上顎 第3or第4小臼歯	1	
B573		シカ	右	上顎 第1大臼歯?	1	
B574		シカ	左	下顎骨	第2大臼歯と第3大臼歯の歯槽が遺存。第2大臼歯歯根の一部と第3大臼歯が釘柱。第3大臼歯は未発見	表3
B575		シカ?	不明	下顎骨	歯槽の一部	3歳未満
B576		シカ	右	下顎 第4小臼歯	近位歯根欠損。咬頭の磨耗が大きい	
B577		シカ	一	髌骨	1	老齢?
B578		シカ	左	上脛骨	骨幹遠位1/2から遠位端まで遺存	表3
B579		シカ	左	上脛骨	上脛骨筋	
B580		シカ	左	上脛骨	遠位部	表3
B581		シカ	右	上脛骨	遠位部のみ遺存。外面部破損	
B582		シカ	右	上脛骨	遠位部のみ遺存	表3
B583		シカ	右	上脛骨	脛骨突起とその周辺	
B584		シカ	左	前甲骨	前甲窩から前甲棘の1/3まで遺存	
B585		シカ	左	前甲骨	関節窩から約8cm遺存	表3
B586		シカ	右	指骨	遠位部	
B587		シカ	右	尺骨	肘頭未癒合(遊離)。鈎状突起より約2cmまで遺存	
B588		シカ	左	月状骨	1	
B589		シカ	右	掌骨	全骨の骨骨臼の一部	
B590		シカ	左	掌骨	真骨臼が遺存	
B591		シカ	右	大趾骨	遠位部遺存	
B592		シカ	右	趾骨	近位端のみ遺存	表3
B593		シカ	右	趾骨	遠位部遺存	表3
B594		シカ	左	趾骨	遠位部破損	表3
B595		シカ	左	趾骨	遠位部破損	表3

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(9) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	左右	部 位	出土部位	備 考
B596		シカ	左	踵骨	近位した踵骨隆起, 下半分破損	
B597		シカ	左	舟状骨~立方骨		
B598		シカ	左	舟状骨~立方骨		表3
B599		シカ	左	中足骨Ⅲ+IV	遠位端	加工痕あり, 表3
B600		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ+IV	遠位端の一部	
B601		シカ	不明	中手骨or中足骨ⅢorIV	遠位関節の1つ	
B602		シカ	不明	基礎骨	1	
B603		シカ	不明	基礎骨	1	
B604		シカ	不明	基礎骨		焼骨
B605		シカorイノシシ	不明	内耳骨	1	
B606		シカorイノシシ	不明	腕骨		
B607		シカorイノシシ	不明	腕骨片	種弓の一部	
B608		シカorイノシシ	不明	腕骨片	1	
B609	SD-B201	シカorイノシシ	不明	腕骨片	1	
B610		シカorイノシシ	右	上腕骨	遠位の外側縁	
B611		シカorイノシシ	不明	肩骨	肩骨臼の一部	焼骨
B612		シカorイノシシ	不明	指骨	近位端のみ遺存	
B613		キジ	右	中手骨Ⅲ・Ⅳ		表3
B615		トリ	右	上腕骨	遠位の外側縁	
B616		トリ	右	長骨片	1, 中小型	
B617		スッポン	左	中趾骨板		
B618		スッポン	右	下趾骨板		
B619		スッポン	不明	棘甲板	棘甲板の一部	
B620		スッポン	不明	背甲板	一部遺存	
B621		スッポン	不明	骨片	6	
B622		サカナ	不明	骨		
B623	SK-A203	シカ	左	橈骨	遠位端外側半分遺存	切断痕あり
B624	SK-A209	イノシシ	右	上顎 第3大臼歯	未萌出	表3
B625	SK-A218	イノシシ	不明	基礎骨	大変若い	
B626		シカ		角		産産り, 鹿角製品, 第98図
B627	SK-A220	シカ		角		釘状鹿角製品, 第97図
B628	SK-A221	シカ	不明	角		骨角器
B629	SK-A224	イノシシ	右	尺骨	肘関節部	
B630	SK-A227	シカ	不明	中手骨or中足骨ⅢorIV	遠位端の骨頭のみ2個	
B631	SP-A239	シカ	左	上腕骨	上腕骨頭のみ遺存	
B632	SP-A250	イノシシ	右	踵骨	滑車関節面は削り取られている	加工痕あり
B633	SP-A293	シカ	不明	著角	基部	
B634	SX-A204	シカ		角片		
B635		イノシシ	左	腕骨	外耳孔周辺と基部の一部が遺存	加工痕あり
B636		イノシシ	左	掌骨	肩骨臼のみ遺存	解体痕あり
B637		シカ	不明	角		加工痕あり
B638		シカ	不明	角		加工痕あり
B639		シカ	不明	角		加工痕あり
B640		シカ	不明	角	落角, 角基部を加工	
B641		シカ	不明	角	1	焼骨
B642		シカ	不明	角		
B643		シカ	不明	角	9	
B644		シカ	不明	角	1	焼骨
B645		シカ	不明	角		加工痕あり
B646		シカ	不明	角		加工痕あり(2本の皮紐がめぐる)
B647	第V層	シカ	不明	大臼歯	大部分を欠損	
B648		シカ	左	上腕骨	遠位端のみ遺存	表3
B649		シカ	右	上腕骨	遠位端のみ遺存	
B650		シカ	右	踵骨	外側骨頭, 外側趾遺存	
B651		シカ	右	踵骨	外側の一部が遺存	
B652		シカ	右	踵骨	趾骨頭が遺存, 後踵骨関節面に遠位から楔状に切断痕	焼骨
B653		シカ	不明	中足骨Ⅲ+IV	遠位骨頭が遺存	焼骨
B654		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ+IV	近位端周辺遺存	解体痕あり, 加工痕あり?
B655		シカ	不明	中手骨or中足骨Ⅲ+IV	遠位骨頭周辺が遺存	焼骨
B656		シカ	不明	基礎骨		焼骨, 表3
B657		シカ	不明	基礎骨		焼骨, 表3
B658		シカ	不明	中趾骨		表3
B659		カメ	不明	棘甲板	一部が遺存	
B660		イノシシ	左	上顎 第2大臼歯	舌側の前縁が小さい	焼骨
B661		イノシシ	不明	下顎骨	第2大臼歯~第3大臼歯周辺が遺存, 第2大臼歯が釘様	焼骨
B662		イノシシ	不明	下顎 第3大臼歯	未萌出	
B663		イノシシ?	不明	歯		
B664	第VI層	イノシシ	不明	環椎	左側前関節窩から前片の一部までが遺存	
B665		イノシシ	左	大趾骨	大趾骨頭のみ遺存	
B666		イノシシ	左	大趾骨	骨幹1/3~近位部が遺存, 大趾子未癒合	大趾子下に解体痕あり, 骨頭を大趾骨頭部で切断
B667		イノシシ	右	踵骨	遠位端が遺存	
B668		シカ	不明	角		

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表1-(10) 動物遺体の出土表

資料番号	出土地点	種	出土部位			備考
			左右	部位	詳細	
B669	第VI層	シカ	不明	歯		焼骨
B670		シカ	右	踵骨		表3
B671		シカ	左	趾骨		焼骨、表3
B672		シカ	右	趾骨	趾骨頭が遺存	
B673		シカ	右	趾骨		表3
B674		シカ	左	中手骨or中足骨	遠位部遺存	焼骨
B675		シカ	不明	中手骨or中足骨III・IV	遠位部遺存	
B676		シカ	不明	中手骨or中足骨III・IV	近位部遺存	
中世						
B677	第IV層	シカ	不明	角		
B678		シカ	左	上顎骨	上顎骨頭遺存	
中近世						
B679	第II層	イノシシ	不明	中手骨or中足骨II or V	近位部遺存	
B680		ウマ	右	下顎 第1or第2大臼歯		焼骨
B681		ウマ	右	下顎 第3大臼歯		焼骨、表3
時期不明						
B692	横乱	イノシシ	右	下顎骨	第2大臼歯～第3大臼歯釘植、咬頭磨耗	表3
B693		イノシシ	左	下顎 大歯	中央に半円孔を穿つ	加工痕あり
B694		イノシシ	不明	第3大臼歯	歯冠のみ、欠損が著しい	
B695		イノシシ	不明	大臼歯		
B696		シカ	不明	踵骨	踵骨滑車の内側を欠損	切断痕あり、表3
B697		シカ	不明	中手骨or中足骨III or IV	遠位部のみ遺存、骨頭未融合	若い
B698		シカ	右	中趾骨	遠位関節面が遺存	
B699		ウシ	不明	大臼歯		
B690	側溝	ウシ	不明	大臼歯		
B691		イノシシ	一	側頭骨+後頭骨	左面が遺存	
B692		イノシシ	左	上顎骨	第1小臼歯～第3小臼歯が遺存、第2小臼歯は釘植、咬頭磨耗	焼骨
B693		イノシシ	右	下顎骨	第1大臼歯～第3大臼歯釘植	オス、表3
B694		イノシシ	不明	下顎 乳大歯	歯根部のみ遺存	
B695		イノシシ	不明	大臼歯	歯冠のみ、大部分を欠損	
B696		イノシシ	不明	臼歯	1. 咬頭磨耗	焼骨
B697		イノシシ	左	肩甲骨	肩甲骨部周辺が遺存	
B698	イノシシ	右	肩甲骨			
B699	イノシシ	右	尺骨	滑車の部分		
B700	イノシシ	左	大趾骨	遠位部が遺存	加工痕あり(歯面部分に小穴?)	
B701	シカ	不明	角		リング状に加工	
B702	シカ	不明	角		加工痕あり	
B703	シカ	不明	角			
B704	シカ	左	踵骨	滑車遠位端	表3	
B705	シカ	左	踵骨	踵骨隆起のみ遺存 骨頭は未融合	軽体痕あり	
B706	シカ	不明	中手骨or中足骨III・IV	遠位関節面が遺存		
B707	イノシシ	右	側頭骨	右の趾骨突起周辺が遺存		
B708	イノシシ	右	上顎骨	第3小臼歯～第2大臼歯釘植、咬頭磨耗	表3	
B709	イノシシ	左	下顎骨	第4小臼歯～第1大臼歯が遺存、第4小臼歯と第1大臼歯が釘植	表3	
B710	壁面	イノシシ	不明	下顎 大歯		オス
B711		イノシシ	不明	臼歯		
B712		イノシシ	不明	大臼歯		
B713		イノシシ	不明	歯	歯冠のみ、未萌出	
B714		イノシシ	左	肩甲骨	関節面～8cm埋遺存	
B715		イノシシ	右	踵骨	踵骨隆起が遺存	
B716		イノシシ	不明	趾骨骨面orIV	遠位関節面が遺存	
B717		シカ	不明	角	先端部が遺存	
B718		シカ	不明	角		
B719		シカ	左	踵骨	踵骨滑車の内側が遺存	
B720		シカ	右	踵骨		表3
B721		イヌ	左	下顎骨	下顎頭が遺存	
B722		イノシシ	一	頸椎(下位)	左側の椎弓脚周辺が遺存、前後関節面が遺存	
B723		イノシシ	一	胸椎(中位)	後関節面と棘突起周辺が遺存	
B724		イノシシ	左	上顎 第3大臼歯	遠位部の一部のみ遺存	
B725		イノシシ	左	下顎 第3大臼歯	頰部の一部を欠損	表3
B726	イノシシ	不明	小臼歯	咬頭磨耗		
B727	イノシシ	不明	大臼歯	大部分を欠損		
B728	イノシシ	不明	大臼歯	2. 咬頭磨耗		
B729	イノシシ?	不明	歯	5/2点に咬頭の磨耗が認められる		
B730	不明	シカ	不明	角		
B731		シカ	左	上顎 第1大臼歯	咬頭磨耗	表3
B732		シカ	右	上顎 第1or第2大臼歯	咬頭の磨耗が大きい	
B733		シカ	右	大趾骨	遠位部が遺存	
B734		シカ	右	踵骨	踵骨隆起周辺が遺存	軽体痕あり
B735		シカ	左	踵骨	趾骨突起が遺存	焼骨
B736		シカ	右	踵骨		表3
B737		シカ	不明	基節骨		表3
B738		シカ	不明	中手骨		表3
B739		シカorイノシシ	右	踵骨?	踵骨体遠位部遺存	焼骨

* 詳細欄の数値は骨片数 ** 備考欄の計測値の単位はmm

表3-(3) 四肢骨の計測値

イノシシの上肢

出土地点	SD-A301				SD-B302上層				SK-A330	第Ⅶ層			SD-B201	
資料番号	B49	B207	B208	B204	B209	B349	B422	B433	B545	B542				
種	左右	左	右	右	右	左	左	右	右	左				
上腕骨	遠位端横径			50.72										45.47
	遠位端前後径			42.43										41.16
桡骨	近位端横径						31.63						36.10	
	近位端前後径						21.42						24.57	
尺骨	肘頭一切痕上端	38.93	36.62		43.77									
中手骨Ⅱ	最大長								64.15					
中手骨Ⅲ	近位端矢状径	16.35												
	近位端横径	15.33												
中手骨Ⅴ	最大長					56.82								

イノシシの下肢

出土地点	SD-A301	SD-A302		SK-A328	SD-B201				攪乱
資料番号	B54	B113	B147	B330	B556	B552	B553	B6686	
種	左右	右	左	右	左	左	左	右	
寛骨	閉鎖孔内径			41.47					
	寛骨臼径			34.07					
脛骨	遠位端横径				34.15				
	遠位端前後径				24.37				
踵骨	最大幅		25.57						
	矢状径		32.99				21.60		
距骨	外側最大長	41.76					30.82		
	内側最大長	38.12							35.84
	最大幅	25.43						26.40	
	前後径	23.70							
中足骨Ⅳ	最大長					98.47			
	全長					92.07			

指骨

出土地点	SD-A301				SD-B302上層	SK-A304	SD-A301			不明
資料番号	B56	B91	B92	B94	B236	B301	B656	B657	B737	
種	イノシシ	シカ	シカ	シカ	シカ	シカ	シカ	シカ	シカ	シカ
左右	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
基節骨	最大長	38.10	46.19	45.85	45.71	39.36	44.24	40.98		13.67
	近位端矢状径	19.60	19.65	19.64	17.72	12.51	19.61			
	近位端横径	19.76	15.70	14.92	15.10	8.61	14.98			
	近位關節面幅	18.46	13.81	12.90	13.39	6.38	13.86			
	中央矢状径	16.76	13.51	13.95	15.18	6.40	14.38			
	中央横径	15.86	12.90	12.02	12.94	3.41	11.94	11.32		11.75
	遠位端矢状径	11.78	12.75	11.83	12.15	4.57	12.58	11.25	11.79	10.89
	遠位端横径	17.54	13.97	12.98	12.61	5.77	13.43	12.58	12.18	12.18

出土地点	SD-A301		SK-A302	第Ⅶ層	第Ⅴ層	SD-A301	SD-B302上層	不明	
資料番号	B93	B95	B282	B445	B658	B96	B217	B738	
種	シカ	シカ	イノシシ	イノシシ	シカ	シカ	イノシシ	シカ	
左右	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
中節骨	最大長	34.50	33.79	23.54	22.90	36.91	36.14	14.73	42.79
	近位端矢状径	17.88	18.21	15.90	15.45	21.36	18.64	9.29	
	近位端横径	13.54	13.80	15.49	16.30	15.48	14.09	9.77	
	近位關節面幅	12.53	12.60	15.11	15.92	14.64	13.48	9.36	
	中央矢状径	12.96	12.80	10.52	10.42	16.18	13.71	9.53	12.51
	中央横径	11.66	11.46	12.77	13.39	12.29	12.85	7.97	11.80
	遠位端矢状径	14.96	15.21	13.36	14.72	17.60	15.62	7.29	12.00
遠位端横径	10.74	10.51	12.25	14.69	12.18	11.58	6.94	12.87	

*単位はmm

表3-(4) 四肢と体幹の計測値

シカの上肢

出土地点		SD-B302				SD-B302上層		SD-A201		SD-B201				第V層
資料番号		B158	B230	B229	B232	B484	B483	B582	B585	B578	B580	B648		
左右		右	右	左	左	右	右	右	左	左	左	左	左	
肩甲骨	肩胛骨最大長			40.12										
	肩胛骨長			29.98										
	肩胛骨幅			27.30						28.27				
	肩胛骨小径			23.69										
上腕骨	遠位端横径		38.67					41.11		38.33	38.14	43.99		
	遠位端前後径		36.77					36.38		35.26	39.13	36.91		
桡骨	近位端横径	41.27												
	近位端前後径	21.82												
	遠位端横径				33.41		36.29							
尺骨	遠位端前後径				23.90									
	肘膵線小深						38.98							
	肘突起矢状径						21.17							

シカの下肢

出土地点		SD-C302					SD-C302下層		SK-A308	SK-A330	SK-A303	第VI層	SD-B201
資料番号		B268	B269	B266	B267	B277	B278	B313	B365	B419	B456	B594	
左右		左	不明	左	右	右	右	左	左	左	左	左	
脛骨	遠位端横径			31.98	35.34	35.77						26.30	
	遠位端前後径			25.55	28.20	30.07						36.37	
踵骨	最大長							86.72				31.40	
	最大幅							24.77					
	矢状径												
	關節部横径							30.66				24.90	
距骨	外側最大長	38.30					42.98		41.43	41.12		32.25	
	内側最大長	36.47					40.40		39.47				
	最大幅	23.44					27.08		26.53				
	前後径	20.92					24.26		22.69				
	中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位端横径		27.02									
出土地点		SD-B201					第VI層			側溝	不明	壁溝	
資料番号		B592	B595	B593	B596	B599	B670	B671	B673	B704	B736	B720	
左右		右	左	右	左	左	右	左	右	左	右	右	
脛骨	遠位端横径	53.34											
	近位端前後径	50.05											
	遠位端横径			30.88						33.79			
	遠位端前後径			26.05						27.25			
踵骨	最大長						84.60					82.47	
	最大幅						28.44					17.40	
	關節部横径		37.48										
	矢状径		27.45				29.82					32.81	
距骨	外側最大長							39.58	36.45			38.18	
	内側最大長							37.28	33.09			35.94	
	最大幅							24.57	22.46			24.38	
舟状骨+立方骨	横径				30.56			21.42	20.48			21.25	
	高さ				28.94								
中足骨Ⅲ・Ⅳ	遠位端矢状径					21.79							
	遠位端横径					33.71							

イヌの上肢

出土地点		SD-B201
資料番号		B501
左右		右
肩甲骨	關節部最大長	13.36
	關節部幅	9.65

ウサギの下肢

出土地点		SD-A301
資料番号		B04
左右		右
踵骨	最大長	25.14
	最大幅	9.70
	矢状径	9.54

体幹

出土地点		SD-A301	SD-B302	SD-B201
資料番号		B86	B157	B536
種		シカ	シカ	イノシシ
頸椎	椎体長			79.63*
	椎弓長			79.27
第5頸椎	前関節突起間幅		47.16	
	後関節突起間幅		44.90	
	関節突起前後径		57.64	
第2胸椎	最大長			201.25*
	全長			177.22*
腰椎	椎体長	42.16		

*単位はmm

出土遺物一覽表

標記番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	産成	胎土	技法の特徴	備考
1	石 器	A区 第II層	長 8.6 幅厚 5.0 1.75 66.9g					サヌカイト
2	土 製 品	B区 第III層	長 6.9 最大径 4.0 孔径 0.85		良好	密		
3	石 器	A区 第III層	長 5.4 幅厚 1.6 0.4 2.58g					サヌカイト
4	土 製 品	A区 第V層	幅厚 2.4 1.3		やや不良	やや粗		
5	弥生土器 ミニチュア器	A区 第V層	口径(復) 6.4 底径 3.6 器高 4.2	外に白い裏粉 内に白い裏粉	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	外面に黒斑
6	弥生土器 ミニチュア器	A区 第V層	底径 3.0 器高 2.0	外に白い裏粉 内に白い裏粉	やや不良	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
7	弥生土器 ミニチュア器	A区 第V層	口径(復) 5.0 底径 3.0 器高 3.8	外に白い裏粉 内に白い裏粉	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	
8	弥生土器	A区 第V層	口径(復) 13.1 器高(復) 3.3	外に白い裏粉 内に白い裏粉	良好	密	外面：ナデ、頸部の沈線文 内面：ナデ、ヘタミダキ	頸部に孔
9	石 器	B区 第V層	長(復) 32.5 幅厚 1.0 0.35 1.65g					結核岩 磨製
10	石 器	A区 第V層	長 2.3 幅厚 1.7 0.35 1.5g					サヌカイト
11	石 器	A区 第V層	長 3.3 幅厚 1.8 0.4 2.4g					サヌカイト
12	石 器	A区 第V層	長 2.8 幅厚 2.2 0.6 2.05g					サヌカイト
13	石 器	B区 第V層	長(復) 7.3 幅厚 2.0 1.15 27.3g					サヌカイト
14	石 器	B区 第V層	長 1.6 幅厚 0.6 33.0g					サヌカイト
15	石 器	A区 第V層	長(復) 3.35 幅厚 2.3 0.55 4.3g					サヌカイト
16	石 器	A区 第V層	長 3.1 幅厚 1.8 0.35 2.99g					サヌカイト
17	石 器	B区 第V層	長 3.0 幅厚 0.6 2.45g					サヌカイト
18	石 器	A区 第V層	長 3.53 幅厚 1.6 0.41 2.3g					サヌカイト
19	石 器	B区 第V層	長(復) 5.65 幅(復) 3.7 器高 2.25g					結核岩 磨製
20	石 器	A区 第V層	長 4.45 幅厚 1.7 0.65 7.2g					サヌカイト
21	石 器	B区 第V層	長 6.9 幅厚 3.2 1.8 39.45g					サヌカイト
22	石 器	A区 第V層	長 8.4 幅厚 5.2 0.9 70.3g					サヌカイト
23	石 器	A区 第V層	長 4.65 幅厚 6.3 1.38 30.7g					サヌカイト
24	石 器	A区 第V層	長 3.7 幅厚 6.3 0.8 29.65g					結核岩 結晶間隙1.7cm
25	石 器	A区 第V層	長 4.4 幅厚 8.1 0.8 96.7g					緑色片岩
26	石 器	A区 第V層	長 7.7 幅厚 4.6 4.3					砂岩 磨打痕
27	石 器	B区 第V層	長(復) 4.25 幅厚(復) 0.8 器高 10.7g					緑色片岩
28	石 器	A区 第V層	長(復) 10.65 幅厚 5.2 5.2					
29	弥生土器	A区 第VI層	口径(復) 15.0 器高(復) 5.8	外に白い裏粉 内に白い裏粉	良好	密	外面：ヘタミダキ、頸部に段 内面：ヘタミダキ	
30	弥生土器	B区 第VI層	最大径(復) 17.7 器高(復) 5.0	外に白い裏粉 内に白い裏粉	良好	密	外面：磨縁のため調整不明、頸部に磨 内面：ナデ	

母体番号	器種	出土地点	法線 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
31	弥生土器 土器	AEC 第VI層	胴径(復) 45.4 器高(復) 19.2	外)黒褐色 内)灰青 胴)灰青	良好	密	外面:ヘラミガキ、流木文、凹形浮文 内面:ナデ	
32	弥生土器 土器	AEC 第VI層	口径(復) 17.6 器高(復) 5.6	外)に白い黄褐色 内)に白い黄褐色 胴)灰青	良好	密	外面:ナデ、口縁部に凸状の孔縁文 内面:磨滅のため調査不明	
33	弥生土器 土器	CK 第VI層	器高(復) 5.0	外)に白い黄褐色 内)に白い黄褐色 胴)に白い黄褐色	良好	密	外面:磨滅のため調査不明 内面:ナデ、指痕痕	瀬戸内系
34	弥生土器 鉢	AK 第VI層	口径(復) 11.1 器高 6.4	外)灰青 内)に白い黄褐色 胴)に白い黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	
35	弥生土器 ミニチュア器	AEC 第VI層	口径(復) 2.0 底径(復) 4.6 器高 8.4	外)に白い黄褐色 内)灰青 胴)に白い黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ、指痕痕	外面に黒斑
36	弥生土器 ミニチュア器	AEC 第VI層	口径(復) 3.4 底径(復) 3.75 器高 3.65	外)に白い黄褐色 内)灰青 胴)灰青	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ、指痕痕	外面に黒斑 底部に2ヶ所の孔
37	弥生土器 土器	CK 第VI層	口径(復) 12.8 器高 2.9	外)に白い黄褐色 内)に白い黄褐色 胴)に白い黄褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ、指痕痕	底部に孔
38	土器 製品	品庫 第VI層	長 幅 厚 3.2 0.7 0.6		良好	密		
39	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 2.6 1.4 0.3					サヌカイト
40	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 3.1 1.6 0.6					サヌカイト
41	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 (復) 2.1 1.65 0.6					サヌカイト
42	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 5.66 1.25 1.0					サヌカイト
43	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 3.4 1.6 0.55					サヌカイト
44	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 2.2 1.5 0.75					サヌカイト
45	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 2.85 1.1 0.54					サヌカイト
46	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 3.89 1.69 0.35					サヌカイト
47	石 器	AEC 第VI層	長 幅 厚 7.4 1.0 46.9g					痕紋器? 凹刀 縁孔要編2.8cm
48	石 器	CK 第VI層	長 幅 厚 3.8 8.0 0.8					粘板器 五月
49	弥生土器 土器	AK 複丸	器高(復) 4.3	外)黒褐色 内)黒色 胴)灰青	良好	密	外面:ヘラ柄比喩文、刻目夾書 内面:ナデ	内面に灰付書
50	弥生土器 土器	割溝	底径(復) 7.8 器高(復) 1.8	外)に白い黄褐色 内)に白い黄褐色 胴)黒褐色	良好	密	外面:板ナデ 内面:ナデ	底部外側に木の葉圧痕
51	弥生土器 鉢	AEC 複丸	口径 12.5 底径 6.1 器高 3.2	外)緑灰黄 内)黒褐色 胴)黒褐色	やや不良	密	外面:ナデ、指痕痕 内面:ナデ、接合痕	
52	弥生土器 ミニチュア器	CK 割溝	底径 3.5 器高(復) 2.7	外)灰黄 内)灰青 胴)に白い黄褐色	良好	密	外面:ナデ、指痕痕 内面:ナデ、絞り痕	対で凹形の孔
53	石 器	AEC 割溝	長 幅 厚 5.6 3.3 0.55					サヌカイト
54	石 器	割溝	長 幅 厚 10.7 3.1 1.5					サヌカイト
55	石 器	割溝	長 幅 厚 (復) 2.65 1.15 0.41					サヌカイト
56	石 器	AEC 割溝	長 幅 厚 6.4 2.7 0.65					粘板器 磨製
57	石 器	割溝	長 幅 厚 5.4 3.4 1.35					サヌカイト
58	石 柱状片刃石	AEC 割溝	長 幅 厚 5.5 1.1 1.5					粘板器?
59	石 器	AEC 割溝	長 幅 厚 3.7 2.25 1.7					
60	石 器	割溝	長 幅 厚 5.9 8.5 0.5					粘板器

探検番号	器種	出土地点	寸法 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
61	石 器 器丁	不明	長径 6.3 幅 7.4 厚 1.0 16.9%					緑色片岩 片刃、縁孔間隔2.1cm、内面 ともに未貫通の穿孔痕
62	石 器 器丁	A区 覆土	長径 8.3 幅(残) 9.3 厚(残) 4.4 厚 32.55%					縁孔間隔2.6cm、B面割線のた め両刃片刃不明
63	石 器 器丁	C区 銅溝	長径(残) 4.85 幅(残) 6.1 厚 0.53 1.9%					断面
64	石 器 器 土人型船片石	A区 銅溝	長径 16.4 幅 7.3 厚 5.2					
65	弥生土器	AIK SD-A201	口径 24.0 腹部径 10.7 器高(残) 26.0 器高(残) 41.15	外)灰青褐色 内)灰青褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:ナデ、ヘラミガキ、9条の直線文、 彫刻文 内面:ナデ、指頭痕、横線文、 彫刻文	口縁端部、体部に黒斑
66	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 22.6 腹部径(腹) 14.3 器高(残) 27.4	外)灰青褐色 内)灰青褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、横線文、列点文、 彫刻文 内面:ハケメ、ナデ、指頭痕	
67	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 20.4 腹部径(腹) 11.6 器高(残) 21.5	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)にぶい黄褐色	良好	密	外面:横線文 内面:ハケメ	
68	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 19.8 腹部径(腹) 8.8	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)にぶい黄褐色	良好	密	外面:彫刻文、横線文 内面:ハケメ	
69	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 23.4 腹部径(腹) 14.3 器高(残) 45.6	外)灰青褐色 内)灰青褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:横線文、口縁部に刻目文 内面:ハケメ	腹部に黒斑
70	弥生土器	AIK SD-A201	口径 10.0 腹部径 8.4 器高(残) 32.8 器高(残) 39.0	外)緑灰褐色 内)緑灰褐色 胎)緑灰褐色	良好	密	外面:横線文、円形打文、ヘラミガキ 内面:ハケメ	体部下半に黒斑
71	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 21.0 腹部径(腹) 26.2 器高(残) 45.8 器高(残) 32.9	外)にぶい黄褐色 内)暗褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:ハケメ、ヘラミガキ、直線文、 口縁部に列点文 内面:ハケメ	体部下半に黒斑 口縁外面に黒斑付着
72	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 19.0 腹部径(腹) 8.9 器高(残) 37.0	外)灰 内)暗褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:タタキメ、ナデ、刻目文、半截 竹管文、列点文 内面:ハケメ、指頭痕	
73	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 15.0 腹部径(腹) 13.1 器高(残) 14.5 器高(残) 20.6	外) 内)暗褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ	外面全体に黒斑付着
74	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 13.6 腹部径(腹) 12.2 器高(残) 16.9 器高(残) 21.7	外)褐色 内)灰青褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ、 指頭痕 内面:ナデ、ハケメ	
75	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 12.4 器高(残) 11.3	外)緑灰黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)暗褐色	やや不良	密	外面:ハケメ 内面:板ナデ、指頭痕、接合痕	
76	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 14.0 腹部径(腹) 3.8	外)にぶい黄褐色 内)灰青褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:ナデ、ハケメ、口縁端部に1本の ヘラミガキ 内面:ナデ	
77	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 12.8 器高(残) 7.8	外)暗褐色 内)暗褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:板ナデ、口縁端部に刻目文 内面:ハケメ、ナデ、指頭痕	
78	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 14.6 腹部径(腹) 12.2 器高(残) 13.6 器高(残) 8.9	外)褐色 内)にぶい黄褐色 胎)暗褐色	良好	密	外面:板ナデ 内面:ナデ	
79	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 17.5 腹部径(腹) 18.8 器高(残) 10.1	外)にぶい黄褐色 内)明黄褐色 胎)灰白	やや不良	密	外面:ヘラミガキ、口縁端部に刻目文 内面:ナデ	外面に黒斑付着
80	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 29.2 腹部径(腹) 27.7 器高(残) 34.0 器高(残) 5.3 器高(残) 44.0	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:ハケメ、ヘラミガキ 内面:ハケメ、ヘラミガキ、ナデ	外面に黒斑付着
81	弥生土器	AIK SD-A201	底径 6.3 器高(残) 3.3	外)黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)黄褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	底部付近に穿孔
82	弥生土器	AIK SD-A201	底径 6.4 器高(残) 6.0	外)黄褐色 内)灰青褐色 胎)黄褐色	良好	密	外面:ハケメ 内面:板ナデ	底部に穿孔
83	弥生土器	AIK SD-A201	底径 5.9 器高(残) 4.0	外)黄褐色 内)暗灰褐色 胎)暗灰褐色	良好	密	外面:ハケメ 内面:ハケメ	底部未貫通の穿孔痕
84	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 16.8 器高(残) 6.2	外)黄褐色 内)暗灰褐色 胎)暗灰褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、列点文 内面:ヘラミガキ	
85	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 16.6 器高(残) 4.1	外)にぶい黄褐色 内)暗灰褐色 胎)灰	やや不良	密	外面:列点文、口縁端部に刻目文 内面:ハケメ	
86	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 23.2 器高(残) 7.2	外)にぶい黄褐色 内)暗灰褐色 胎)灰青褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、6-7条の横線文 内面:ヘラミガキ	
87	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 17.8 腹部径(腹) 19.8 器高(残) 6.7	外)黄褐色 内)黄褐色 胎)黄褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、横線文 内面:ヘラミガキ	
88	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 30.0 器高(残) 9.4	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)にぶい黄褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、粗雑な横線文 内面:ヘラミガキ	
89	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 26.8 器高(残) 9.0	外)黄褐色 内)明黄褐色 胎)黄褐色	良好	密	外面:8条の直線文、ヘラミガキ、口縁 端部に刻目文 内面:ヘラミガキ	
90	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 27.7 器高(残) 13.7	外)黄褐色 内)黄褐色 胎)黄褐色	良好	密	外面:ナデ、彫刻文 内面:ナデ、ヘラケズリ	体部外面に黒斑
91	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 21.0 器高(残) 7.5	外)にぶい黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)にぶい黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部外面に黒斑
92	弥生土器	AIK SD-A201	口径(腹) 28.0 器高(残) 7.5	外)黄褐色 内)にぶい黄褐色 胎)にぶい黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	

調査番号	器種	出土地点	法線 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
93	弥生土器 弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高(復) 11.2 7.2	外)灰黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:ヘラミガキ、3本のヘラ指沈線文 内面:ヘラケズリ	胴部外面に黒斑
94	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高(復) 9.0 8.3	外)に黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:條状文 内面:ナデ、指痕直	
95	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 11.6 2.4	外)に黄褐色 内)に黄褐色 に黄褐色	良好	やや粗	外面:ナデ、ヘラ指沈線 内面:ナデ	胴部に黒斑
96	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 6.9 3.5	外)灰オリーブ 内)灰オリーブ 色	良好	密	外面:ナデ 内面:	
97	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 3.3 2.15 1.4 0.5				指痕を打ち欠いて成形	
98	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 3.3 1.5 0.55 2.4g					サヌカイト
99	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 1.5 0.55 2.4g					サヌカイト
100	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 1.5 0.45 1.7g					サヌカイト
101	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 3.3 1.5 4.0 2.95g					サヌカイト
102	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 5.3 1.4 0.5 3.35g					サヌカイト
103	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 3.9 1.8 0.5 2.5g					サヌカイト
104	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 4.5 1.7 0.4 2.15g					サヌカイト
105	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 6.0 2.8 0.8 11.5g					サヌカイト
106	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 5.1 0.7 19.1g					片刃
107	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 3.7 3.0 89.65g					中央断面やや円形
108	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 4.2 4.0 3.2 55.7g					
109	弥生土器 弥生土器	区SD-A201	口径(復) 器高 8.1 1.2 2.2 9.9g					
110	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 18.0 5.5	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	やや不良	密	外面:ハケメ、直線文 内面:ハケメ、口縁部に刻点文	
111	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 24.5 16.0	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:條状文 内面:ナデ	
112	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 23.0 16.5	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ハケメ、條状文、直線文 内面:ナデ	
113	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 23.6 6.9	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	やや不良	密	外面:ヘラミガキ、口縁部に斜格子の 直線文 内面:ハケメ	
114	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 22.4 6.6	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ナデ、直線文 内面:ナデ、口縁部に扇形文	
115	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 13.5 20.0	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:條状文、扇形文 内面:ナデ、指痕直	
116	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 14.2 10.9	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ナデ、指痕直 内面:ナデ	
117	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 11.1 5.6 14.9	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:ナデ 内面:ヘラミガキ	口縁部に紐孔
118	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 13.3 18.1 12.0	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:粗いハケメ、口縁部に刻点文 内面:粗いハケメ	内外面に黒斑
119	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 27.6 25.5	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:ヘラミガキ、指痕直 内面:ナデ、指痕直、複合痕	底部外面に黒斑
120	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 23.2 41.5	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	底部外面に黒斑 全体につくりは粗雑
121	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 18.2 12.0 16.9 5.2 21.1	外)灰黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	
122	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 15.0 4.5 20.1	外)に黄褐色 内)に黄褐色 斑	良好	密	外面:ハケメ、ヘラミガキ 内面:ナデ	
123	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 14.0 9.0	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ハケメ 内面:ハケメ、指痕直	口縁部内外面に鉄分着 内面に黒斑
124	弥生土器 弥生土器	区SD-B201	口径(復) 器高(復) 16.2 8.7	外)灰黄褐色 内)灰黄褐色 に黄褐色	良好	密	外面:ハケメ 内面:ハケメ、指痕直	

調査番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考	
125	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 器高(横)	12.4 4.7	外)黒灰 内)にぶい黄 褐色	やや不良	密	外面:ナデ 内面:ナデ、指痕痕	
126	弥生土器 内蓋	BK SB-B201	口径(横) 器高(横)	35.6 12.6	外)灰黄 内)にぶい黄 褐色	不良	密	外面:板ナデ、指痕痕 内面:板ナデ	
127	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 器高(横)	5.6 6.9	外)灰黄 内)灰黄	不良	密	外面:ヘラミガキ 内面:板ナデ	底部に凹孔
128	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 器高(横)	9.2 4.7	外)灰黄 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:不明	
129	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 器高(横)	24.9 8.2	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、口縁部に沈線? 内面:ヘラタズリ、ヘラミガキ	
130	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	25.3 7.4 15.9	外)灰黄 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ	
131	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	16.6 5.0 7.7	外)にぶい黄 褐色 内)灰黄	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:板ナデ	外面に黒斑
132	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	13.0 6.0 11.5	外)灰黄 内)灰黄 器)灰黄	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	
133	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	32.0 12.2	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ハケム、ヘラミガキ、粗線文 内面:直線文、扇形文、口縁部に刻 目文	内外面に鉄分付着
134	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	25.6 8.4	外)灰黄 内)灰黄 器)灰黄	良好	密	外面:ハケム、ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	
135	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	21.0 8.8	外)灰黄 内)灰黄 器)灰黄	良好	密	外面:ヘラミガキ、凹線文 内面:ヘラミガキ	
136	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	11.1 3.95	外)灰黄 内)灰黄 器)灰黄	やや不良	密	外面:ヘラミガキ、7条のヘラ指沈線文 内面:ヘラミガキ	
137	弥生土器 水差形土器	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	11.8 8.0	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ハケム、簾状文 内面:ナデ、ハケム	内外面に鉄分付着
138	弥生土器 水差形土器	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	3.0 7.7 9.8	外)黒灰 内)灰黄 器)灰黄	良好	密	外面:列点文、簾状文、ヘラミガキ 内面:ハケム、扇合	口縁部内面に鉄分付着
139	弥生土器 鉢	BK SB-B201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	25.3 7.4 15.0	外)灰黄 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ハケム、指痕痕	2時の結孔
140	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	2.0 1.6 0.2 0.65g					サスカイト
141	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	1.8 0.5 0.27g					サスカイト
142	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	1.6 0.6 3.95g					サスカイト
143	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	2.15 0.6 3.65g					サスカイト
144	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	2.0 1.1 0.5 1.5g					サスカイト
145	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	6.3 3.05 0.9 14.75g					サスカイト
146	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	6.4 3.3 1.2 9.85g					サスカイト
147	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	3.8 1.6 0.55 2.1g					サスカイト
148	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	6.0 3.4 1.1 30.4g					サスカイト
149	石石 器	BK SB-B201	長 幅 厚 重	8.5 3.75 0.7 29.25g					鉄板蓋 片刀、柱孔間隔2.0cm
150	弥生土器 盆	AK SK-A203	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	9.7 6.3	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	やや粗	外面:口縁部に表状文、体部に直線 文	内面:ナデ
151	弥生土器 盆	AK SK-A203	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	14.2 11.2	外)灰黄 内)灰黄 器)灰黄	良好	密	外面:ハケム、指痕痕 内面:ハケム、指痕痕	
152	弥生土器 鉢	AK SK-A203	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	20.8 8.0 14.1	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ	外面に黒斑
153	弥生土器 水台付鉢	AK SK-A203	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	16.0 3.6 18.0	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ、胴内面ハケム	
154	弥生土器 鉢	AK SK-A203	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	20.6 6.6	外)にぶい黄 褐色 内)にぶい黄 褐色	良好	密	外面:ハケム、口縁部に刻目文 内面:ハケム	
155	石石 器	AK SK-A217	長 幅 厚 重	3.5 1.05 0.75 3.25g					
156	弥生土器 甕	AK SK-A201	口径(横) 口径(縦) 器高(横)	16.0 16.0 16.0	外)にぶい黄 褐色 内)灰黄	不良	粗	外面:ナデ、ハケム 内面:ナデ、指痕痕	体部内面と口縁部に鉄分付着

管理番号	図種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
137	石石器	A区 SK-A201	長幅厚車 3.8 1.4 0.45					サヌカイト
158	石石器	A区 SK-A202	長幅厚車 4.5 0.8 0.6					
150	弥生土器	A区 SK-A204	口径(横) 14.3	外)に深い黄褐色内)に深い黄褐色	良好	密	外面:ナデ、ヘラナデ 内面:ナデ、板ナデ	
160	弥生土器	C区 SK-C204	口径(横) 26.0	外)に深い赤褐色内)に深い赤褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ	
161	弥生土器	C区 SK-C201	口径(横) 12.5	外)灰黄褐色内)灰黄褐色	良好	密	外面:垂伏文、直線文、円形浮文 内面:ナデ	
162	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 18.1	外)灰黄褐色内)灰黄褐色	良好	密	外面:ハケメ、7~10条のヘラ指沈線文 内面:ヘラミガキ	
163	弥生土器	C区 SK-C202	底径(横) 12.8	外)に深い黄褐色内)黄褐色	やや不良	やや粗	外面:ハケメ、3条の刻目突帯 内面:ナデ、指頭痕	外面に灰付着
164	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 38.2	外)黄褐色内)黄褐色	良好	密	外面:ナデ、2条のヘラ指沈線文、平行斜線文、口縁部に刻目文 内面:ナデ	
165	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 36.4	外)黄褐色内)黄褐色	良好	密	外面:5条のヘラ指沈線文、平行斜線文、口縁部に刻目文 内面:ナデ	
166	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 20.5	外)黄褐色内)黄褐色	やや不良	密	外面:ハケメ、5条のヘラ指沈線文、口縁部に刻目文 内面:ナデ	底部に染込
167	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 12.1	外)に深い黄褐色内)黄褐色	良好	密	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラオサエ板	体部内外面上部から口縁にかけて灰付着
168	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 15.6	外)黄褐色内)黄褐色	良好	密	外面:ハケメ、3条のヘラ指沈線文 内面:ナデ、指頭痕	口縁部から顔部外面平下にかけて灰付着、体部内面に鉄片付着
169	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 48.0	外)に深い灰黄褐色内)灰黄褐色	良好	密	外面:ハケメ、刻目突帯 内面:ハケメ	
170	弥生土器	C区 SK-C202	口径(横) 34.4	外)黄褐色内)黄褐色	良好	密	外面:ハケメ 内面:板ナデ	内外面に灰付着
171	石石器	C区 SK-C202	長幅厚車 2.8 2.0 0.25					サヌカイト
172	石石器	C区 SK-C202	長幅厚車 2.9 0.2					サヌカイト
173	石石器	C区 SK-C202	長幅厚車 2.88 2.0 0.3					サヌカイト
174	石石器	C区 SK-C202	長幅厚車 3.3 1.5 0.9					サヌカイト
175	弥生土器	C区 SK-C203	口径(横) 19.6	外)灰褐色内)灰褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、口縁部に1条の指沈線文、頸部は削出突帯に2条のヘラ指沈線文、口縁部は5条のヘラ指沈線文 内面:ナデ、ヘラミガキ、指頭痕	体部下平に黒染
176	弥生土器	C区 SK-C203	胴部径(横) 37.4	外)黄褐色内)黄褐色	やや不良	密	外面:ナデ、ヘラ指沈線文 内面:ナデ、指頭痕	胴手状の浮文
177	弥生土器	C区 SK-C203	口径(横) 22.4	外)に深い黄褐色内)灰白	良好	やや粗	外面:ナデ、頸部に1条のヘラ指沈線文、口縁部に刻目文 内面:ナデ	
178	弥生土器	C区 SK-C203	口径(横) 20.4	外)黄褐色内)黄褐色	良好	やや粗	外面:ナデ 内面:ナデ	
179	弥生土器	A区 SP-A2143	口径(横) 5.0					
180	石石器	A区 SP-A249	長幅厚車 3.8 1.4 0.6					サヌカイト
181	石石器	A区 SP-A270	長幅厚車 8.9 1.55 0.85					サヌカイト
182	石石器	A区 SP-A290	長幅厚車 6.6 2.85 1.6					サヌカイト
183	弥生土器	A区 SK-A302	口径(横) 19.0	外)黄褐色内)黄褐色	やや不良	密	外面:ハケメ 内面:板ナデ、指頭痕	
184	弥生土器	A区 SK-A302	器高(横) 3.3	外)に深い黄褐色内)に深い赤褐色	良好	密	外面:ヘラ指沈線文 内面:ナデ	
185	石石器	A区 SK-A302	長幅厚車 3.0 1.9 0.4					サヌカイト
186	弥生土器	A区 SK-A304	口径(横) 器高(横) 2.2 15.5	外)灰褐色内)灰褐色	良好	密	外面:ナデ、指頭痕 内面:ナデ、指頭痕	
187	石石器	A区 SK-A304	長幅厚車 4.1 2.25					サヌカイト
188	弥生土器	A区 SK-A308	口径(横) 器高(横) 12.8 3.8	外)に深い赤褐色内)に深い赤褐色	良好	密	外面:ヘラミガキ、ヘラ指沈線文 内面:ヘラミガキ	
189	弥生土器	A区 SK-A308	器高(横) 3.2	外)灰白内)に深い黄褐色	やや不良	密	外面:ナデ、刺突文 内面:ナデ	外面に灰付着

調査番号	器種	出土地点	寸法 (cm)	色調	施成	加工	技法の特徴	備考		
190	弥生土器 蓋	AK SK-A308	口径(復) 器高 (枚)	13.2 3.65	外)にふい粉 内)灰白 断面灰黄	良好	密	外面：ナダ、腰部付近に4本のヘラ指沈 内面：ナダ、指痕	頸部に孔	
191	弥生土器 蓋	AK SK-A308	口径(復) 器高 (枚)	17.2 1.5	外)にふい粉 内)灰白 断面灰黄	良好	やや粗	外面：ナダ、腰部付近に4本のヘラ指沈 内面：ナダ	頸部に孔	
192	弥生土器 甕	AK SK-A308	口径(復) 器高 (枚)	27.2 6.5	外)灰黄 内)にふい粉 断面灰黄	良好	密	外面：ナダ、3本のヘラ指沈線文 内面：ナダ	外面に埋付着	
193	石 石	AK SK-A308	長 幅 厚	3.7 2.1 0.8	灰 黄					サヌカイト
194	弥生土器 甕	AK SK-A309	口径(復) 器高 (枚)	24.3 2.3	外)にふい粉 内)灰白 断面灰白	やや不良	密	外面：ナダ、ヘラ指沈線文、刺突文、 口縁部に刻目文 内面：ナダ		
195	弥生土器 甕	AK SK-A316	口径(復) 器高 (枚)	4.8	外)にふい粉 内)にふい粉 断面灰黄	良好	密	外面：ナダ、ヘラ指沈線文、平行刺沈 文、内面：ナダ		
196	弥生土器 甕	AK SK-A319	口径(復) 器高 (枚)	5.5	外)にふい粉 内)灰黄 断面灰黄	やや不良	密	外面：ナダ、2本のヘラ指沈線文、刺突 文、内面：ナダ		
197	弥生土器 甕	AK SK-A319	口径(復) 器高 (枚)	3.9	外)にふい粉 内)灰 断面灰	やや不良	密	外面：ヘラミガキ、ヘラ指沈線文、刺 突文、内面：ヘラミガキ		
198	弥生土器 鉢	AK SK-A319	口径(復) 口径 器高 (枚)	20.2 6.4 14.45	外)灰白 内)灰白 断面灰白	良好	密	外面：ハケミ、指痕 内面：ナダ、指痕	体部下部から底部にかけて 埋付着	
199	石 石	AK SK-A319	長 幅 厚	2.35 2.2 0.5	灰 黄					サヌカイト
200	土 製 鏝 品 串	AK SK-A320	径(復) 長(復) 厚(復)	4.0 0.7 0.55	灰 黄					
201	石 石	AK SK-A320	長 幅 厚	3.1 1.7 0.4	灰 黄					サヌカイト
202	石 石	AK SK-A320	長 幅 厚	10.6 3.4 2.4	灰 黄					緑色片岩
203	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 器高 (枚)	13.9 5.55	外)に 内)にふい粉 断面にふい粉	やや不良	密	外面：ヘラミガキ、削出突角 内面：ヘラミガキ	口縁部に粗孔	
204	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 器高 (枚)	16.8 7.8	外)にふい粉 内)にふい粉 断面にふい粉	良好	密	外面：ヘラミガキ、頂部突角に3条以上の ヘラ指沈線文 内面：ヘラミガキ	口縁部に粗孔	
205	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 器高 (枚)	16.6 8.7	外)にふい粉 内)オリーブ 断面オリーブ 黄	良好	密	外面：ヘラミガキ、2本のヘラ指沈線文 内面：ヘラミガキ		
206	弥生土器 コノハ土器	AK SK-A330	口径 器高 (枚)	3.4 4.1	外)にふい粉 内)灰黄 断面灰黄	良好	密	外面：ナダ 内面：ナダ		
207	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 口径 器高 (枚)	16.6 8.4	外)灰オリーブ 内)灰黄 断面灰黄	やや不良	密	外面：ナダ、口縁部に刻目文、頸部に 3本のヘラ指沈線文 内面：ナダ		
208	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 口径 器高 (枚)	24.4 7.0	外)にふい粉 内)にふい粉 断面にふい粉	やや不良	密	外面：ナダ、頸部に7本のヘラ指沈線文 内面：ナダ		
209	弥生土器 甕	AK SK-A330	口径(復) 口径 器高 (枚)	14.6 7.7	外)にふい粉 内)にふい粉 断面灰	良好	密	外面：ナダ 内面：ナダ		
210	石 石	AK SK-A330	長 幅 厚	1.7 1.5 0.4	灰 黄					サヌカイト
211	石 石	AK SK-A330	長 幅 厚	2.2 1.65 0.85	灰 黄					サヌカイト
212	石 石	AK SK-A330	長 幅 厚	2.5 1.6 0.4	灰 黄					サヌカイト
213	弥生土器 甕	BK SK-B305	口径(復) 口径 器高 (枚)	15.2 6.4 13.7	外)にふい粉 内)にふい粉 断面灰黄	良好	密	外面：ヘラミガキ、肩部に1本のヘラ指 沈線文 内面：板ナダ、指痕		
214	弥生土器 甕	BK SK-B305	口径(復) 器高 (枚)	6.35	外)灰 内)黄 断面灰	良好	密	外面：縁からヘラミガキ、頸部に刻目 突角内面：縁からヘラミガキ		
215	弥生土器 甕	BK SK-B305	口径(復) 器高 (枚)	6.0	外)にふい粉 内)灰白 断面にふい粉	良好	密	外面：ナダ、頸部に5本のヘラ指沈線文 と突角 内面：ヘラミガキ		
216	弥生土器 甕	BK SK-B305	口径(復) 口径 器高 (枚)	18.6 13.7	外)灰 内)黄 断面灰	良好	密	外面：板ナダ、頸部に1本のヘラ指沈線 文、口縁部に刻目文 内面：板ナダ		
217	弥生土器 甕	CK SK-C301	口径(復) 口径 器高 (枚)	13.0 4.4	外)にふい粉 内)にふい粉 断面にふい粉	良好	やや粗	外面：ナダ、腰部に線 内面：指痕のため調査不明		
218	弥生土器 甕	CK SK-C301	口径(復) 器高 (枚)	2.45	外)にふい粉 内)黄 断面灰	やや不良	密	外面：ナダ、6条以上のヘラ指沈線文 内面：ナダ		
219	石 製 品 水 石 石	CK SK-C301	長 径 幅 厚	1.4 0.55 0.55 0.45	灰 黄					サヌカイト
220	石 石	CK SK-C304	長 幅 厚	1.3 1.3 0.35	灰 黄					サヌカイト
221	石 石	CK SK-C307	長 幅 厚	2.6 1.65 0.4	灰 黄					サヌカイト
222	石 石	CK SK-C307	長 幅 厚	3.35 1.69 0.35	灰 黄					サヌカイト

確認番号	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
223	石製 器	CK-SK-C207	長径(横) 3.3 幅厚(縦) 1.4 厚さ 0.5 重さ 3.1g					サヌカイト
224	石製 器	CK-SK-C208	長径(横) 2.6 幅厚(縦) 1.9 厚さ 0.3 重さ 1.9g					サヌカイト
225	弥生土器 壺	CK-SK-C313	器高(横) 7.7	外) 土に近い黄褐色内) 土に近い黄褐色	良好	やや粗	外面: ナデ、ヨコとタテ方向の刻目突出 内面: ナデ	
226	弥生土器 壺	CK-SK-C316	器高(横) 4.7	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、2条のヘラ指洗線文、刺突文 内面: ナデ	
227	弥生土器 壺	AK-SX-A301	口径(横) 15.0 器高(横) 5.2	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、口縁部に刻目文、頸部に2条のヘラ指洗線文、刺突文 内面: ナデ	
228	弥生土器 壺	AK-SX-A301	口径(横) 21.2 器高(横) 9.5 器高(縦) 24.9	外) 灰青内) 灰青胎土黄褐色	やや不良	粗	外面: ナデ、頸部に2条のヘラ指洗線文 内面: ナデ	底部に煤付着
229	弥生土器 壺	AK-SX-A302	器高(横) 11.7	外) 土に近い黄褐色内) 土に近い黄褐色胎土灰	やや不良	密	外面: 細かいヘラミガキ、2条のヘラ指洗線文、刺突文 内面: 細かいヘラミガキ	
230	土製 磚	AK-SX-A302	径 4.5 孔径 0.85 厚さ 1.2					丁寧に焼いている
231	弥生土器 壺	AK-SX-A303	器高(横) 7.9	外) 土に近い黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ハケメ、ヘラ指洗線文、刺突文、刻目を施す刻付突帯 内面: ナデ	
232	石製 器	AK-SX-A303	長径(横) 1.9 幅厚(縦) 1.5 厚さ 0.4 重さ 0.95g					サヌカイト
233	石製 器	AK-SX-A303	口径(横) 2.3 幅厚(縦) 1.0 厚さ 0.4 重さ 0.55g					サヌカイト
234	弥生土器 壺	AK-SP-A397	口径(横) 13.4 器高(横) 3.0	外) 土に近い黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	やや粗	外面: ナデ、線刻文 内面: ナデ	底部に孔
235	弥生土器 壺	CK-観音山SP	器高(横) 5.0	外) 土に近い黄褐色内) 土に近い黄褐色胎土灰、土に近い黄褐色	良好	密	外面: ナデ、ヘラ指洗線文、刻目を施す刻付突帯 内面: ナデ	
236	弥生土器 壺	AK-SP-A323	口径(横) 5.5 器高(横) 2.9	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	やや不良	密	外面: ハケメ 内面: ナデ	底部外面に木の黒染痕
237	弥生土器 壺	CK-SP-C315	口径(横) 11.0 器高(横) 4.1	外) 灰青内) 灰青胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、線刻文 内面: ヘラミガキ	底部に孔
238	石製 大型 磨石	AK-SP-A304	長径(横) 9.2 幅厚(縦) 5.4 厚さ 3.4					磨石のワ 両刃
239	石製 品	AK-SP-A3198	長径(横) 9.9 幅厚(縦) 8.4 厚さ 5.5 重さ 548.9g					砂岩
240	石製 品	AK-SP-A3264	長径(横) 17.4 幅厚(縦) 6.6 厚さ 6.7 重さ 1168.1g					砂岩
241	石製 品	AK-SP-A3190	長径(横) 3.8 幅厚(縦) 2.4 厚さ 0.55 重さ 0.45g					サヌカイト
242	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 17.7 器高(横) 9.4	外) 土に近い黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、頸部に段 内面: ヘラミガキ	
243	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 16.2 器高(横) 12.8 器高(縦) 7.0	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、指痕、頸部に段 内面: ナデ、指痕	
244	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 15.0 器高(横) 7.0	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、頸部に段 内面: ナデ、指痕	
245	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 15.4 器高(横) 10.3	外) 土に近い黄褐色内) 土に近い黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、2条のヘラ指洗線文、口縁部に刻目文 内面: ナデ	口縁部に煤孔、外面に煤付着、内外面に鉄分付着
246	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 14.4 器高(横) 7.1	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	やや不良	やや粗	外面: ナデ、頸部突帯に1条のヘラ指洗線文 内面: ナデ	
247	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 14.1 器高(横) 8.1	外) 土に近い黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	不良	やや粗	外面: ヘラミガキ、3条のヘラ指洗線文 内面: ナデ	口縁部に煤孔
248	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 19.6 器高(横) 10.65	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	不良	密	外面: ハケメ、1条のヘラ指洗線文、口縁部部に刻目文 内面: ナデ	底部に煤付着
249	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 19.2 器高(横) 17.4 器高(縦) 10.4	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ、2条のヘラ指洗線文、口縁部部に刻目文 内面: ナデ、指痕	
250	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 6.5 器高(横) 7.0	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ 内面: ナデ、指痕	底部に穿孔
251	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 25.4 器高(横) 9.2	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	やや粗	外面: ナデ、3条のヘラ指洗線文と刺突文、口縁部部に刻目文 内面: ナデ	
252	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 10.7 器高(横) 2.6	外) 土に近い黄褐色内) 土に近い黄褐色胎土黄褐色	やや不良	密	外面: ナデ、指痕 内面: ナデ	外周一部に煤付着 底部に穿孔
253	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 46.6 器高(横) 17.3	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	良好	密	外面: ナデ 内面: ナデ	底部に孔
254	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 46.6 器高(横) 17.3	外) 黄褐色内) 黄褐色胎土黄褐色	やや不良	密	外面: ナデ、2条のヘラ指洗線文 内面: ヘラミガキ、指痕	
255	弥生土器 壺	AK-SD-A301	口径(横) 28.0 器高(横) 9.3	外) 灰青内) 灰青胎土黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、2条のヘラ指洗線文 内面: ヘラミガキ(磨滅著しい)	
256	土製 磚	AK-SD-A301	径(横) 4.5 径(縦) 0.6 厚さ 0.75					

採石番号	器種	出土地点	法身 (cm)	色調	焼成	胎土	技法の特徴	備考
257	石 器	AEK SD-A304	長 幅 厚 重 2.0 1.5 0.35 0.75g					サヌカイト
258	石 器	AEK SD-A304	長 幅 厚 重 5.2 2.9 0.13 15.8g					サヌカイト
259	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 16.3 8.4 24.5	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、1条のヘラ楕円文 内面：ヘラミガキ	外周下半に黒底
260	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 13.4 7.2	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、3条のヘラ楕円文 内面：ヘラミガキ	口縁部に細孔
261	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 18.0 16.2 25.6	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ナゲ、2条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ、指頭痕	口縁部外面から体部外面上にかけて黒底
262	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 15.4 14.6 22.5	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、4条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ	体部外面に黒底、口縁部内面から体部内面に黒付着
263	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 26.0 23.0 39.9	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：板子ナ、1条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ	口縁部から体部下半にかけて黒付着
264	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 19.3 7.2	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ハケテ、4条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ	口縁部と体部内面上半に黒付着
265	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 23.2 20.8 31.1	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ハケテ、1条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ	口縁部と体部内面上半に黒付着
266	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 14.4 6.7	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ハケテ、口縁部に刻目文 内面：ナゲ	
267	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 9.4 5.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ハケテ 内面：ナゲ	底部に穿孔
268	弥生土器	AEK SD-A302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 39.0 10.0	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ハケテ 内面：ナゲ	
269	石 器	AEK SD-A302	長 幅 厚 重 5.4 3.5 0.6 5.4g					サヌカイト
270	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 器高(復) 19.3 6.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	不良	やや粗	外面：ナゲ、指頭痕、頸部に段 内面：ヘラミガキ	
271	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 14.5 5.3	外周欠損 内周欠損 断面欠損	やや不良	密	外面：ヘラミガキ、肩田突部に2条のヘラ楕円文 内面：ナゲ、指頭痕	
272	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 18.0 13.2 24.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ナゲ、ヘラミガキ、肩田突部 内面：ナゲ、指頭痕	口縁外面 部に黒分付着
273	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 13.1 9.5 7.0	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、肩田突部に1条のヘラ楕円文 内面：ヘラミガキ	口縁部に細孔
274	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 21.5 21.5	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ナゲ、頸部に3条・肩部に4条のヘラ楕円文 内面：ヘラミガキ	口縁に1ヶ所細孔、体部中央へト平にかけて黒底
275	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 器高(復) 17.1 7.5	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、2条のヘラ楕円文 内面：ヘラミガキ	
276	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 器高(復) 4.5	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	やや粗	外面：ナゲ、4条のヘラ楕円文、逆筋文 内面：ナゲ	
277	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 器高(復) 8.7 9.3	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	やや粗	外面：逆筋文しく調痕不明 内面：板子ナ	
278	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 器高(復) 20.9 15.0	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	やや粗	外面：ナゲ、3条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ナゲ、指頭痕	体部外面全体に黒付着
279	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 21.8 23.6	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ナゲ、3条のヘラ楕円文、口縁部に刻目文 内面：ヘラミガキ、指頭痕	
280	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 12.5 3.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	細孔2ヶ所
281	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 11.2 3.2	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	頸部に孔
282	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 11.8 3.2	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	内外面に黒分付着
283	弥生土器	AEK SD-A303	口径(復) 底径(復) 器高(復) 11.4 3.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ナゲ、ヘラミガキ、指頭痕 内面：ナゲ、指頭痕	
284	石 器	AEK SD-A303	長(復) 幅(復) 厚(復) 重(復) 14.0 1.5 1.1 28.7g					粘土質 磨製
285	石 器	AEK SD-A303	長 幅 厚 重 1.2 0.8 0.23 0.15g					サヌカイト
286	石 器	AEK SD-A303	長 幅 厚 重 1.8 1.45 0.4 0.75g					サヌカイト
287	石 器	AEK SD-A303	長 幅 厚 重 3.3 1.5 0.45 1.85g					サヌカイト
288	弥生土器	AEK SD-B302	口径(復) 器高(復) 32.5 6.4	外周欠損 内周欠損 断面欠損	やや不良	密	外面：ヘラミガキ、頸部に段 内面：ヘラミガキ	
289	弥生土器	AEK SD-B302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 33.5 6.7	外周欠損 内周欠損 断面欠損	良好	密	外面：ヘラミガキ、頸部に段、口縁部に刻目文 内面：ヘラミガキ	
290	弥生土器	AEK SD-B302	口径(復) 底径(復) 器高(復) 33.6 4.0	外周欠損 内周欠損 断面欠損	やや不良	やや粗	外面：ナゲ、頸部に段 内面：ナゲ	

調査番号	図 録	出土地点	法 様 (cm)	色 調	施 成	胎 土	技法の特徴	備 考
291	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 14.8 頸部径(径) 11.0 器高(径) 16.6	外に白い黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、2、3条のヘラ横洗線文 内面：ヘラミガキ	外面に黒斑、内外面に鉄分付着
292	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 15.0 器高(径) 11.3	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、指押痕、胴部に鉄分付着 内面：ナデ	底部に腐食、外面に黒斑
293	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 15.6 器高(径) 4.39	外に黄褐色内灰白	やや不良	やや粗	外面：ヘラミガキ、胴部に鉄分付着 内面：ヘラミガキ	
294	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 13.1 器高(径) 5.2	外に白い黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、削出突帯 内面：ヘラミガキ	口縁部に鉄孔
295	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 14.5 器高(径) 8.2	外に黄褐色内灰白	良好	やや粗	外面：ヘラミガキ、削出突帯に1本のヘラ横洗線文 内面：ナデ	
296	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 13.7 器高(径) 8.1	外に黄褐色内灰白	やや不良	密	外面：ヘラミガキ、2条のヘラ横洗線文 内面：ヘラミガキ	
297	弥生土器	B区 SD-B302	器高(径) 2.7	外に白い黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、3条のヘラ横洗線文、竹筭文 内面：ナデ	
298	弥生土器	B区 SD-B302	器高(径) 3.7	外に白い黄褐色内灰白	良好	密	外面：ハケメ、ヘラ横洗線文 内面：ナデ	
299	弥生土器	B区 SD-B302	器高(径) 4.0	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、ヘラ横洗線文、平行線文 内面：ナデ	
300	弥生土器	B区 SD-B302	器高(径) 2.8	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、ヘラ横洗線文、平行線文 内面：ナデ	
301	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 23.0 器高(径) 12.5	外に黄褐色内灰白	やや不良	やや粗	外面：ナデ、1条のヘラ横洗線文、平行線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	
302	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 27.2 器高(径) 9.3	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、1条のヘラ横洗線文、平行線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	
303	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 22.7 器高(径) 26.2	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、4条のヘラ横洗線文、刺突文、口縁部に削目文 内面：ナデ	
304	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 20.0 器高(径) 11.7	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ハケメ、1条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	全体に鉄分付着
305	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 25.0 器高(径) 8.2	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、2条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	
306	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 30.6 器高(径) 21.4	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、2条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	内面に鉄分付着
307	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 29.0 器高(径) 34.9	外に黄褐色内灰白	やや不良	密	外面：ハケメ、2条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	底部に穿孔、鉄痕
308	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 24.2 器高(径) 34.4	外に黄褐色内灰白	良好	やや粗	外面：ハケメ、2条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	底部に穿孔、鉄付着
309	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 29.2 器高(径) 34.4	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ハケメ、4条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	底部内面に炭化物付着
310	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 22.6 頸部径(径) 20.7 器高(径) 7.7 器高(径) 25.9	外に灰白内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ、3条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ヘラミガキ、指押痕	底部に鉄分付着
311	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 30.0 器高(径) 11.0	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、4条のヘラ横洗線文、口縁部に削目文 内面：ナデ	外面全体に鉄分付着
312	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 15.6 器高(径) 6.1 器高(径) 14.4	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：ハケメ、指押痕	外面に鉄分付着
313	土製円筒小	B区 SD-B302	最大径(径) 8.8 厚(径) 1.3	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	弥生土器が多数の転用(打ち交して)の跡、底部に木の炭化痕
314	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 4.7 器高(径) 2.3	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ 内面：ナデ	底部外面に木の炭化痕
315	弥生土器高杯	B区 SD-B302	口径(径) 7.6 器高(径) 4.7	外に黄褐色内灰白	やや不良	やや粗	外面：ヘラミガキ、指押痕 内面：ナデ、指押痕	検査?
316	弥生土器鉢	B区 SD-B302	口径(径) 31.7 器高(径) 9.7	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	外面に黒斑
317	弥生土器鉢	B区 SD-B302	口径(径) 22.8 器高(径) 6.5	外に黄褐色内灰白	やや不良	密	外面：ナデ、口縁部に鉄分付着 内面：神籠のため測定不明	外面に黒斑
318	弥生土器小	B区 SD-B302	口径(径) 19.3 器高(径) 4.6	外に黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、指押痕、タテヒヨコ方向の2本のヘラ横洗線文 内面：ナデ、指押痕	
319	弥生土器鉢	B区 SD-B302	口径(径) 8.0 口径(径) 5.2 口径(径) 3.6 口径(径) 6.4	外に白い黄褐色内灰白	良好	密	外面：ナデ、指押痕 内面：ナデ、指押痕、ヘラミガキ	片口、外面に黒斑
320	弥生土器	B区 SD-B302	口径(径) 14.4 器高(径) 7.1	外に黄褐色内灰白	良好	やや粗	外面：ヘラミガキ、指押痕、1条のヘラ横洗線文 内面：ヘラミガキ、指押痕	
321	土製円筒小	B区 SD-B302	口径(径) 0.8 口径(径) 1.3	外に黄褐色内灰白				丁寧に磨いている
322	石 石	B区 SD-B302	口径(径) 2.1 口径(径) 1.6 口径(径) 0.4 口径(径) 1.8					サマカイト
323	石 石	B区 SD-B302	口径(径) 1.3 口径(径) 1.6 口径(径) 0.4 口径(径) 0.7					サマカイト
324	石 石	B区 SD-B302	口径(径) 1.1 口径(径) 1.8 口径(径) 0.4 口径(径) 1.8					サマカイト
325	石 石	B区 SD-B302	口径(径) 2.8 口径(径) 1.7 口径(径) 0.5 口径(径) 1.6					サマカイト

作 業 種 別	器 種	出土地点	仕様 (mm)	色 調	機 成	胎 土	技法の特徴	備 考
326	石 石	器 種 B区 SP-B302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 2.8 1.2 6.4 1.06g 5.03					サヌカイト
327	石 不	器 種 B区 SP-B302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 2.5 0.8 16.5g					粘板岩 磨板
328	木 製 品	器 種 B区 SP-B302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 66.0 19.0 6.5					銅木製品
329	木 製 品	器 種 B区 SP-B302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 29.6 15.0 10.0					板材
330	木 製 品	器 種 B区 SP-B302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 36.4 6.15					最近し未製品?
331	弥生土器 壺	C区 SD-C301	口径(横) 26.2 器高(縦) 8.0	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、胡田突帯に1条のへら指沈線文 内面: ヘラミガキ	
332	弥生土器 甕	C区 SD-C301	口径(横) 14.5 器高(縦) 4.8	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、2条のへら指沈線文 内面: ナダ	
333	弥生土器 甕	C区 SD-C301	口径(横) 19.4 器高(縦) 7.4 器底(底) 2.1	外) 黒褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	不良	やや粗	外面: ナダ、2条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ	体部内面下半に黒斑、内外面とも体部上半に煤片付
334	弥生土器 甕	C区 SD-C301	口径(横) 22.8 器高(縦) 21.2 器底(底) 7.0 器底(底) 22.2	外) 灰黄褐色 内) 黄褐色 断面) 黄褐色	良好	密	外面: ナダ、6条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ、指頭痕、接合痕	
335	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 18.0 器高(縦) 11.8 器底(底) 8.9	外) 黄褐色 内) 黄褐色 断面) 黄褐色	良好	密	外面: 細かいヘラミガキ、2条のへら指沈線文 内面: ナダ	
336	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 16.2 器高(縦) 9.0	外) 灰黄褐色 内) オリーブ青 断面) オリーブ青	良好	密	外面: ヘラミガキ、2条のへら指沈線文 内面: ヘラミガキ	
337	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 21.0 器高(縦) 12.0 器底(底) 8.8	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、口縁部に1条の沈線 内面: ヘラミガキ、指頭痕	
338	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 24.6 器高(縦) 7.5	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	不良	密	外面: ナダ、3条のへら指沈線文2部、平行筋線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ	
339	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 22.6 器高(縦) 11.9	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	やや粗	外面: ハケミ、1条のへら指沈線文 内面: ナダ	
340	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 21.9 器高(縦) 18.9	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	やや粗	外面: ナダ、2条のへら指沈線文、竹管文、口縁部に刻目文 内面: ナダ	
341	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 22.3 器高(縦) 7.4 器底(底) 24.3	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	やや粗	外面: ナダ、3条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ、指頭痕	
342	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 25.8 器高(縦) 12.8	外) 灰黄褐色 内) 黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、2条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ	
343	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 35.4 器高(縦) 24.1	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、4条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ、指頭痕	
344	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 27.8 器高(縦) 26.0 器底(底) 18.0	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、指頭痕 内面: ナダ、指頭痕	体部外面全体に煤片付
345	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 22.6 器高(縦) 4.05	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	やや不良	やや粗	外面: ナダ、1条のへら指沈線文、口縁部に刻目文 内面: ナダ	
346	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 25.0 器高(縦) 8.2	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、口縁部に刻目文 内面: ナダ	外面に黒斑
347	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 27.0 器高(縦) 24.4 器底(底) 10.8	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ナダ、指頭痕 内面: ナダ、指頭痕	口縁から体部下半に煤片付
348	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 4.9	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	やや不良	密	外面: ナダ、8条のへら指沈線文 内面: ナダ、指頭痕	
349	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 7.2 器高(縦) 5.6	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	やや不良	密	外面: ナダ、指頭痕 内面: ナダ、指頭痕	底部に穿孔
350	弥生土器 鉢	C区 SD-C302	口径(横) 25.0 器高(縦) 9.1 器底(底) 16.65	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、指頭痕 内面: ヘラミガキ、指頭痕	底部に黒斑、口縁から底部にかけて煤片付
351	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 10.5 器高(縦) 3.8	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ、6条の黄褐色突帯 内面: ナダ	底部に孔
352	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 11.9 器高(縦) 3.05	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	良好	密	外面: ヘラミガキ 内面: ヘラミガキ	底部に孔、内面に黒斑
353	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 12.0 器高(縦) 1.15	外) 青灰 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	やや不良	密	外面: ナダ、肩部に2条の沈線 内面: ナダ	
354	弥生土器 甕	C区 SD-C302	口径(横) 12.0 器高(縦) 2.6	外) 灰黄褐色 内) 灰黄褐色 断面) 灰黄褐色	やや不良	やや粗	外面: ナダ 内面: ナダ	底部に線孔
355	石 石	器 種 C区 SP-C302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 2.9 1.65 0.6 1.96g 2.4 2.3 0.65 2.85g					サヌカイト
356	石 石	器 種 C区 SP-C302	長 幅 厚 寸 法 (mm) 2.4 2.3 0.65 2.85g					サヌカイト

写 真 图 版



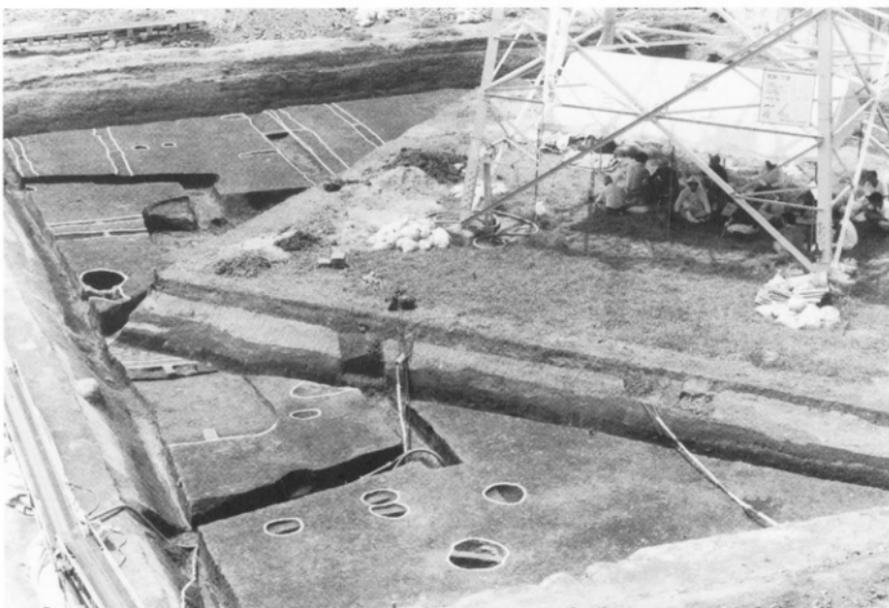
1. 第1遺構面全景(南より)



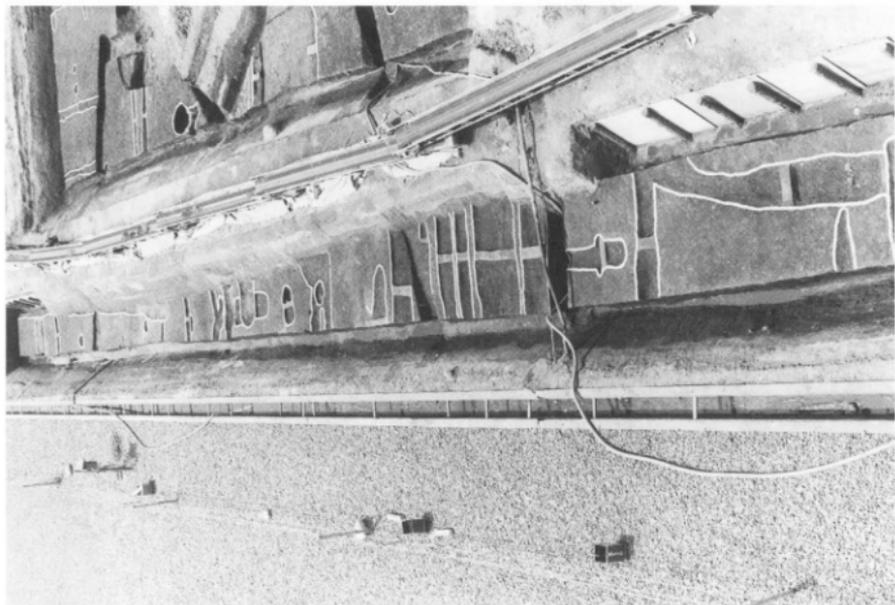
2. 第1遺構面全景(西より)



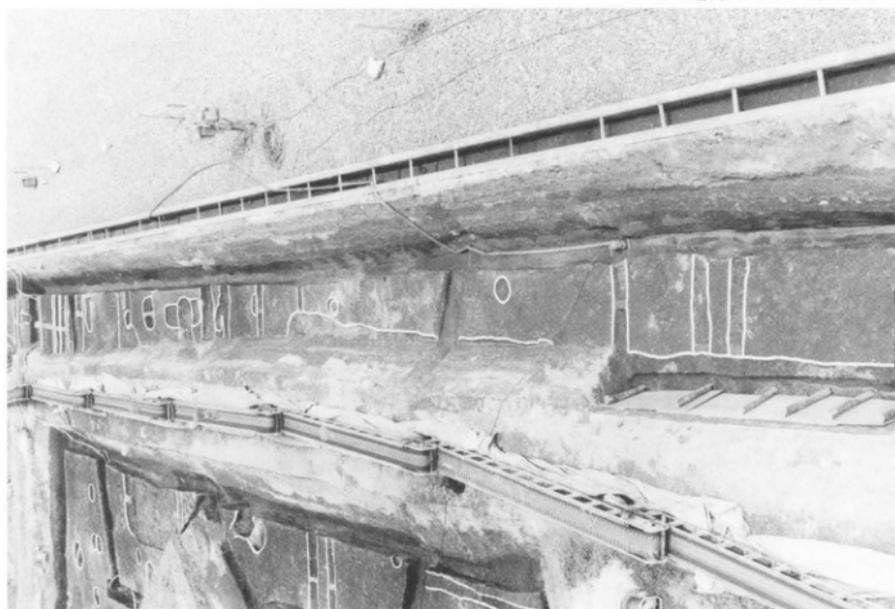
1. 第1遺構面全景(東より)



2. 第1遺構面・A区(東より)



1. 第1遺構面・C区(東より)



2. 第1遺構面・C区(西より)



1. 第2遺構面全景(南より)



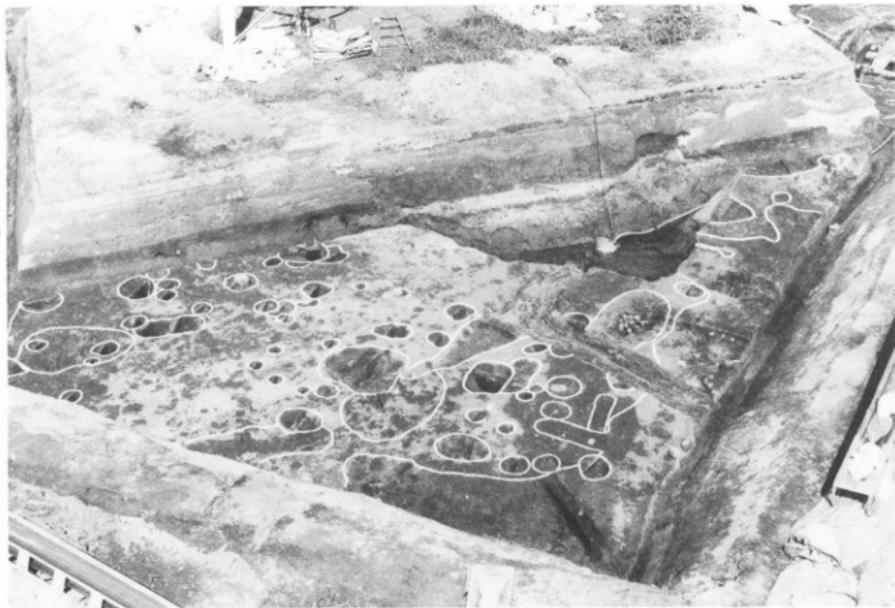
2. 第2遺構面全景(西より)



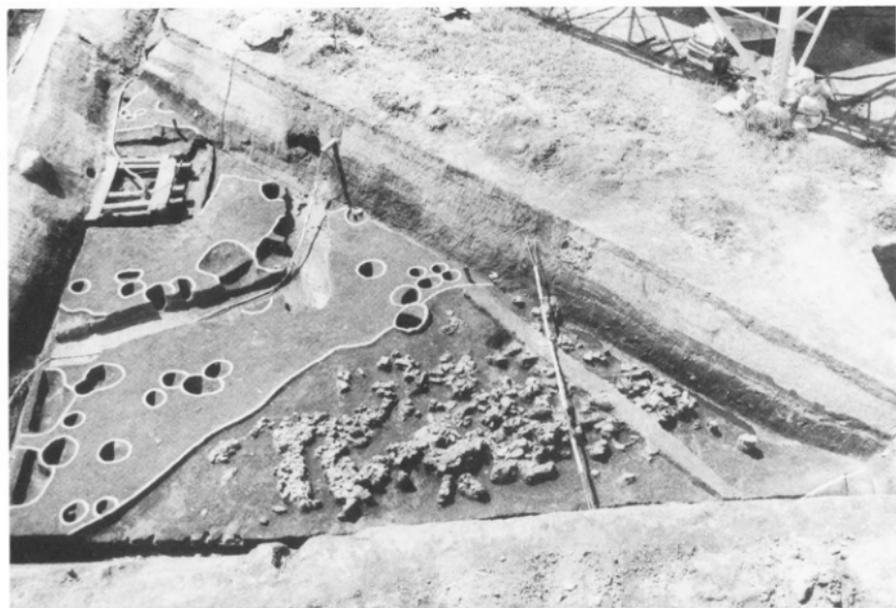
1. 第2遺構面全景（東より）



2. 第2遺構面・A区北西部（南西より）



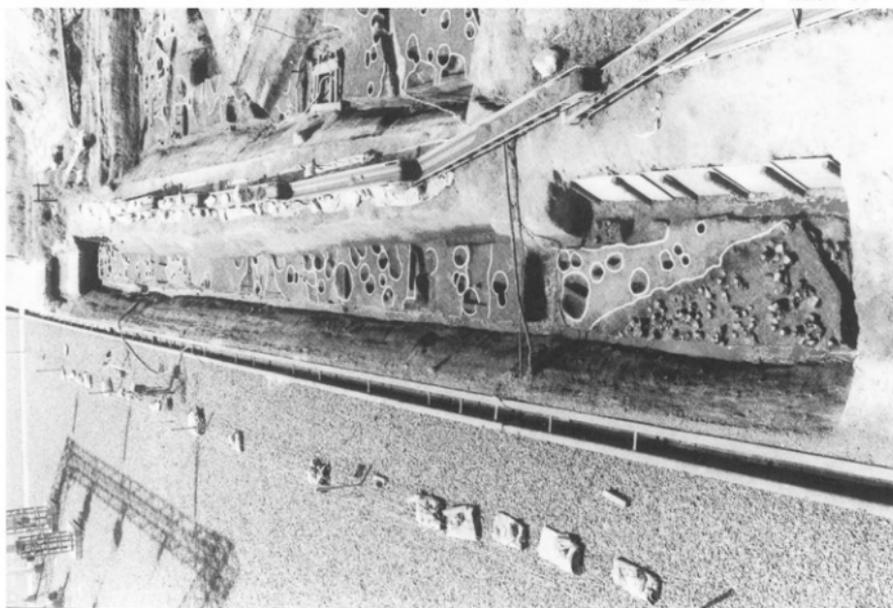
1. 第2遺構面・A区南西部(西より)



2. 第2遺構面・A区南東部(東より)



1. 第2遺構面・B区 (南東より)



2. 第2遺構面・C区 (東より)



1. SD-A201 (北より)



2. SD-A201遺物出土状況①



1. SD-A201遺物出土状況②



2. SD-B201 (北東より)



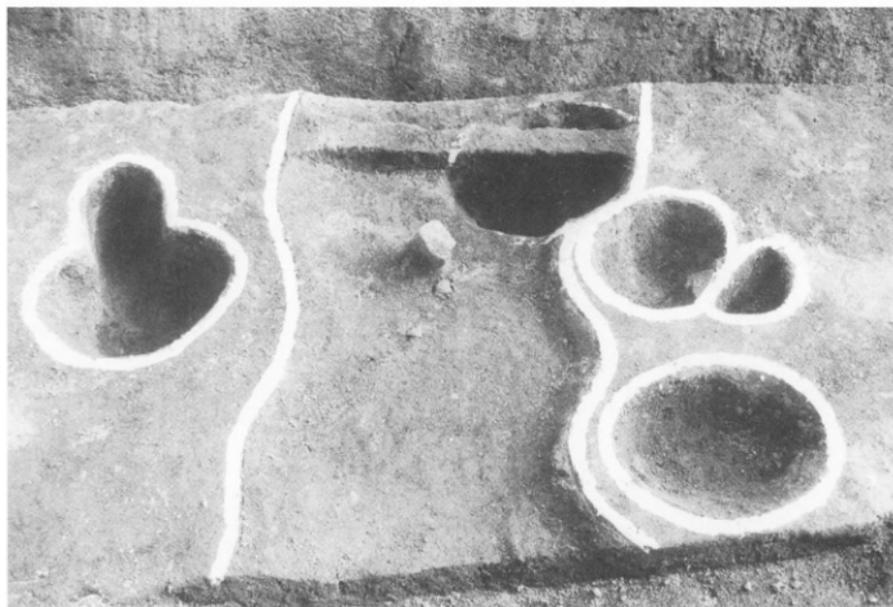
1. SD-B201遺物出土状況①



2. SD-B201遺物出土状況②



1. SD-A201・B201 (南東より)



2. SD-C201 (南より)



1. SK-A203 (北西より)



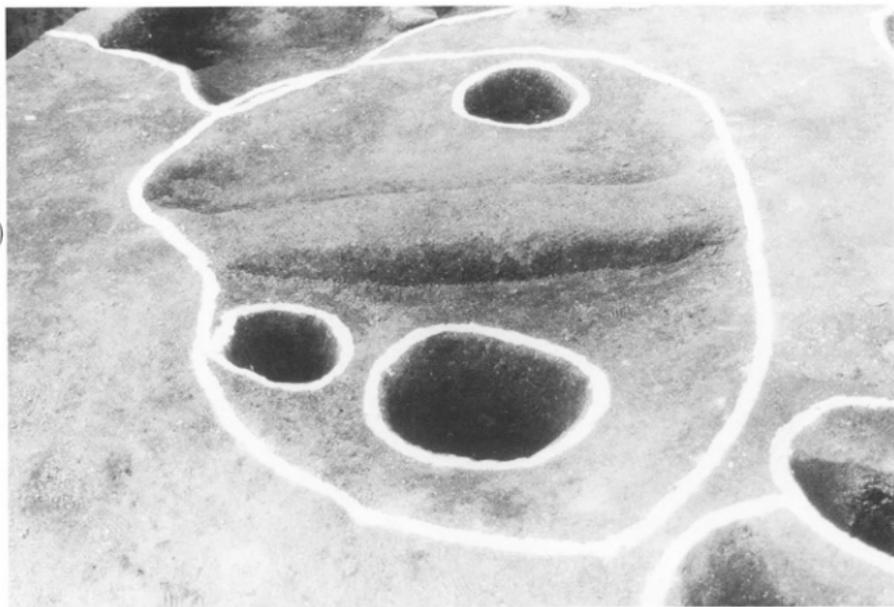
2. SK-A203遺物出土状況 (北西より)



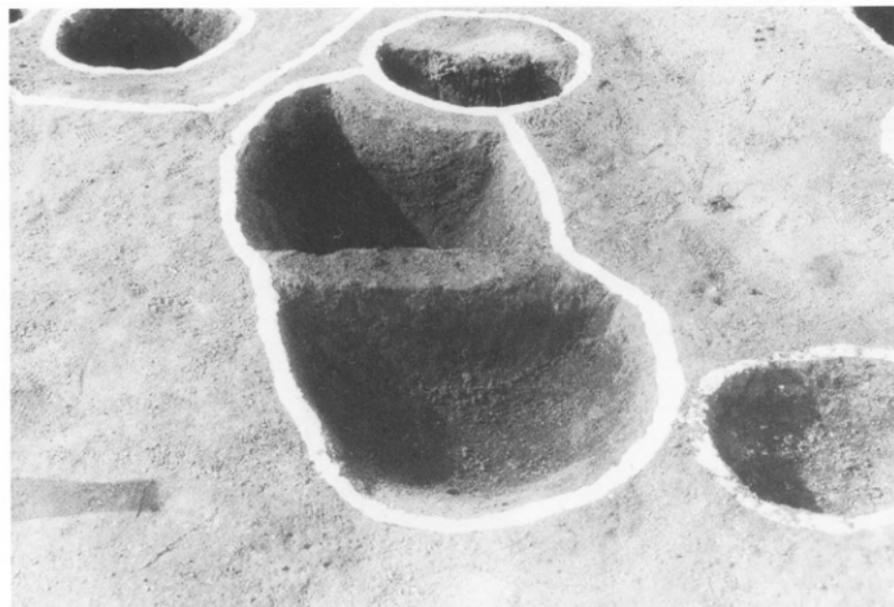
1. SK-A204 (南より)



2. SK-A220 (南西より)



1. SK-A229 (南より)



2. SK-A230 (南より)



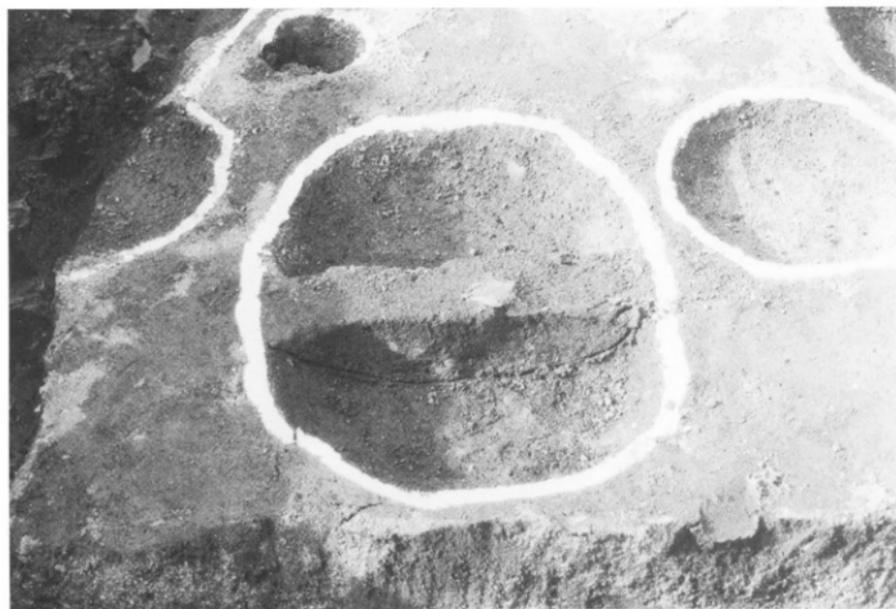
1. SK-A232 (西より)



2. SK-A233 (東より)



1. SK-C202 (西より)



2. SK-C211 (南より)



1. SX-A201 (西より)



2. SX-A204 (南より)



1. SX-C202 (南西より)



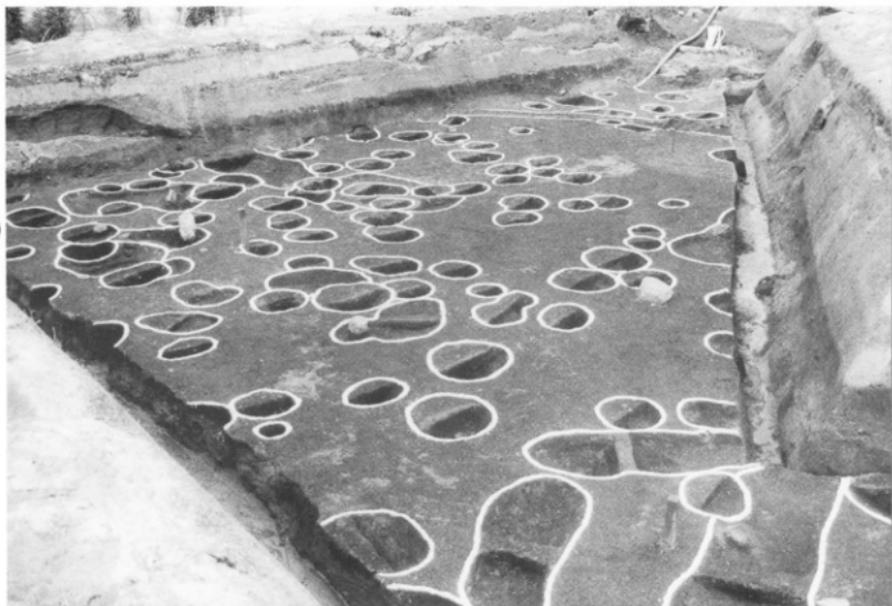
2. SX-C202遺物出土状況 (北東より)



1. SX-C203 (東より)



2. SX-C203遺物出土状況 (東より)



1. A区北西部 ピット群 (南西より)



2. A区南西部 ピット群 (北西より)



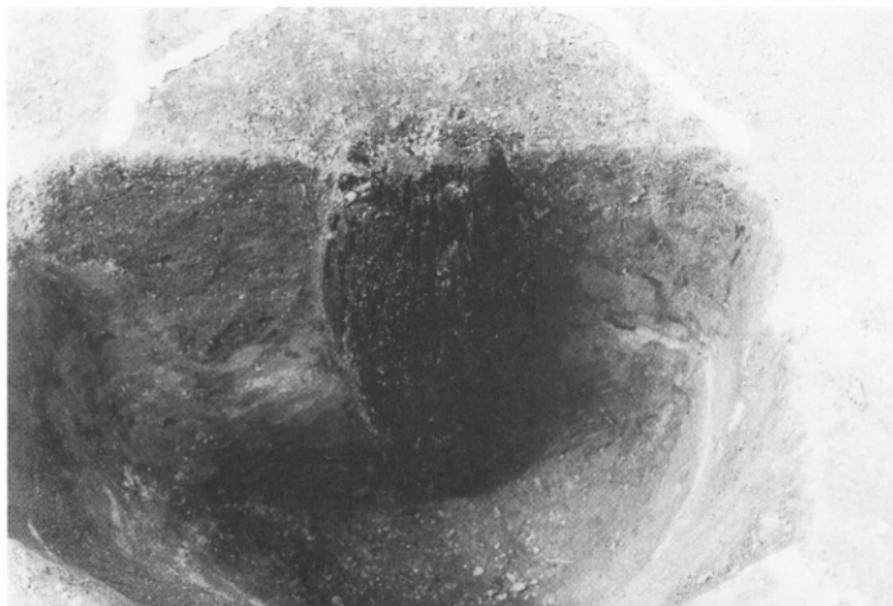
1. SP-A242 (西より)



2. SP-A275 (東より)



1. SP-A227 (南より)



2. SP-A2136 (北西より)



1. 第3-a遺構面全景 (南より)



2. 第3-a遺構面全景 (西より)



1. 第3-a遺構面全景（東より）



1. 第3-a遺構面・A区北西部（南西より）



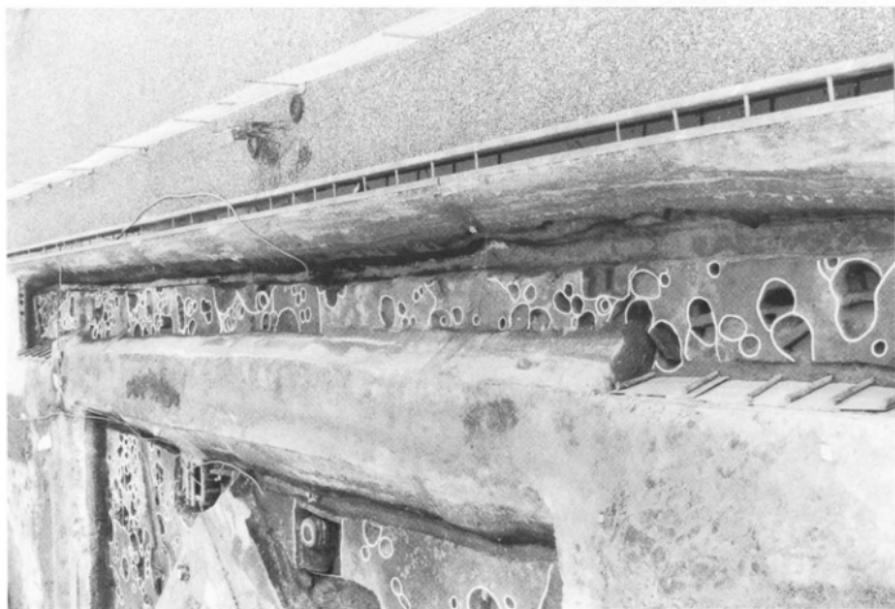
1. 第3-a遺構面・A区南西部(南東より)



2. 第3-a遺構面・A区南東部(東より)



1. 第3-a遺構面・B区(北東より)



2. 第3-a遺構面・C区(西より)



1. SK-A302 (南より)



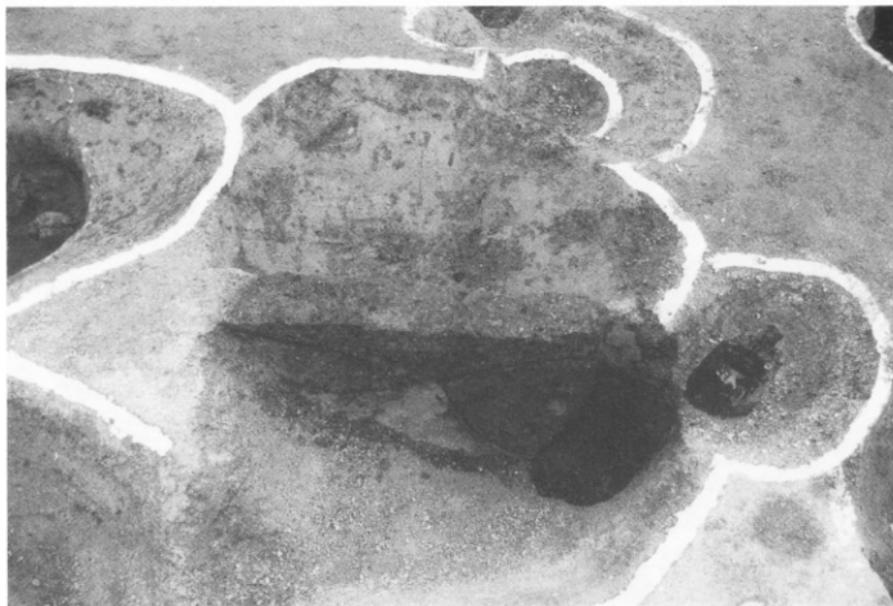
2. SK-A303 (北西より)



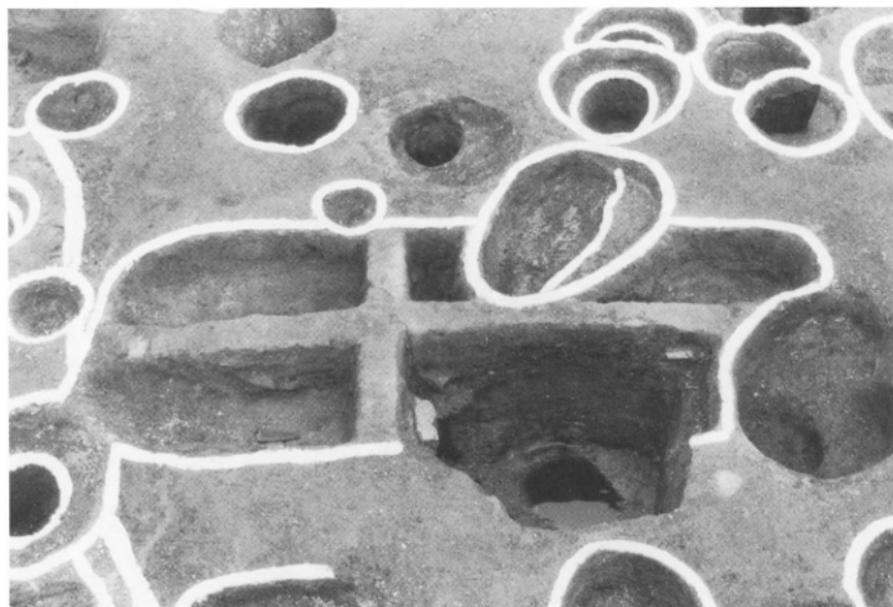
1. SK-A303遺物出土状況（北東より）



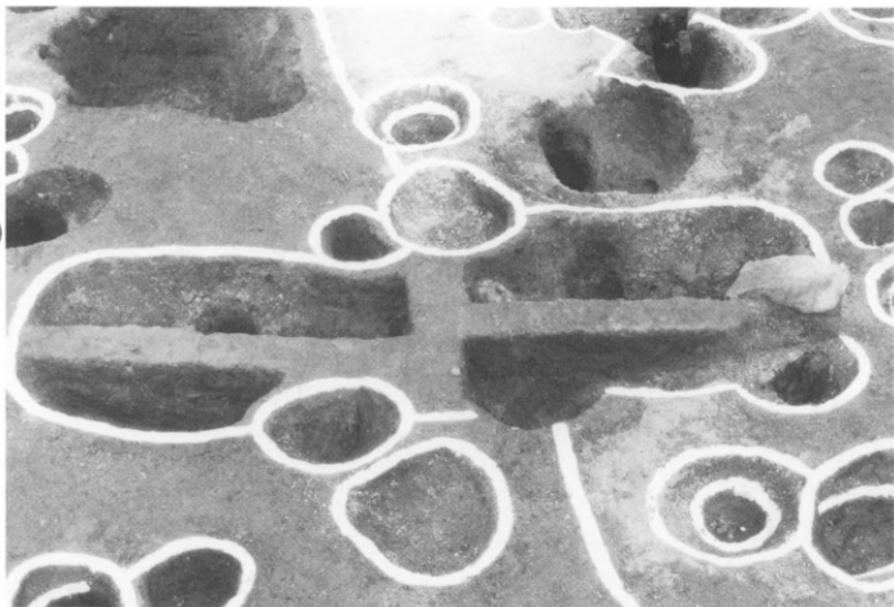
2. SK-A304（西より）



1. SK-A306 (北より)



2. SK-A308 (西より)



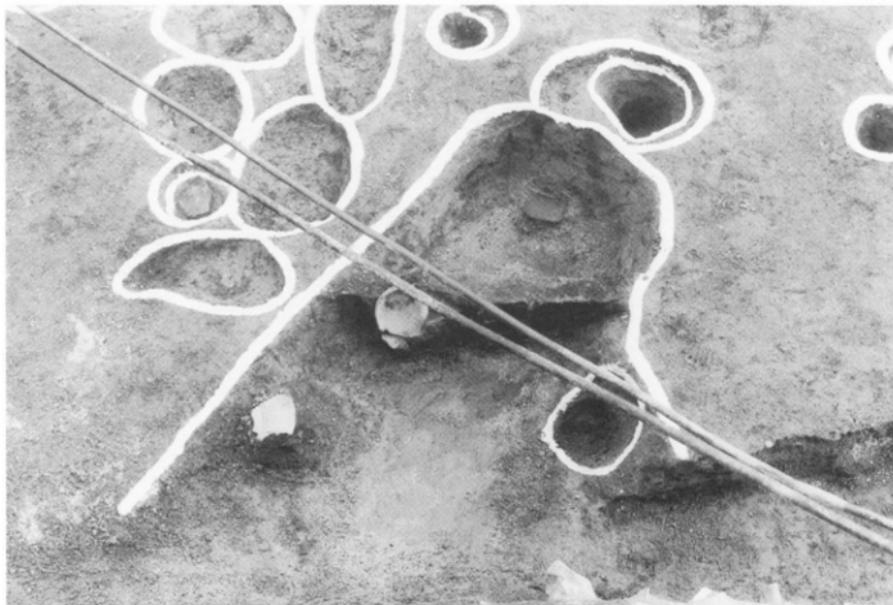
1. SK-A309 (西より)



2. SK-A310 (南西より)



1. SK-A330 (南より)



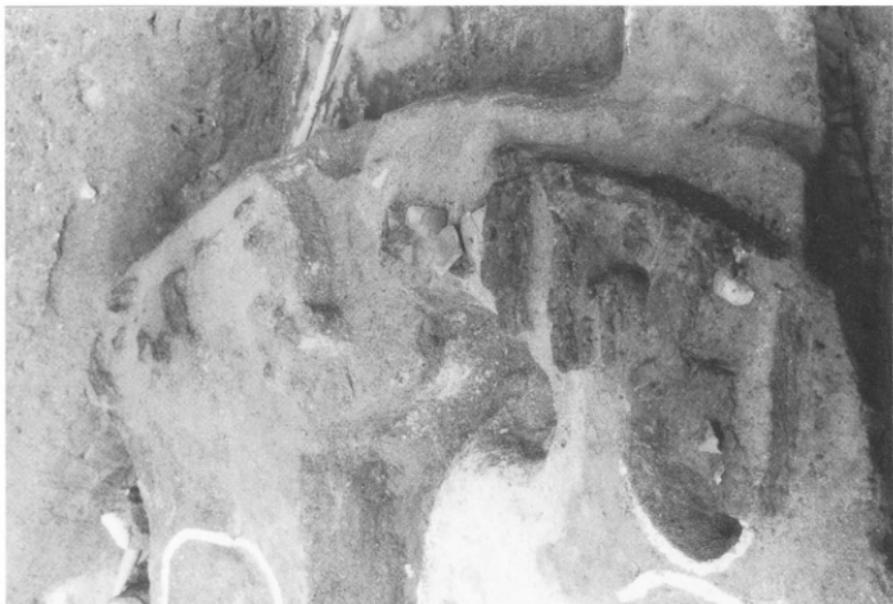
2. SK-A333 (北西より)



1. SK-B305 (西より)



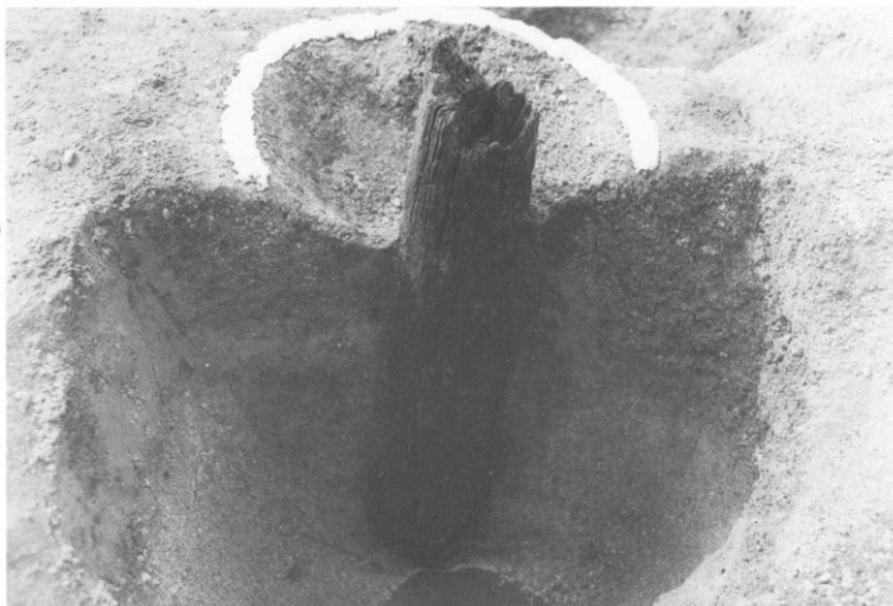
1. SK-C314 (南西より)



1. SX-A301 (南東より)



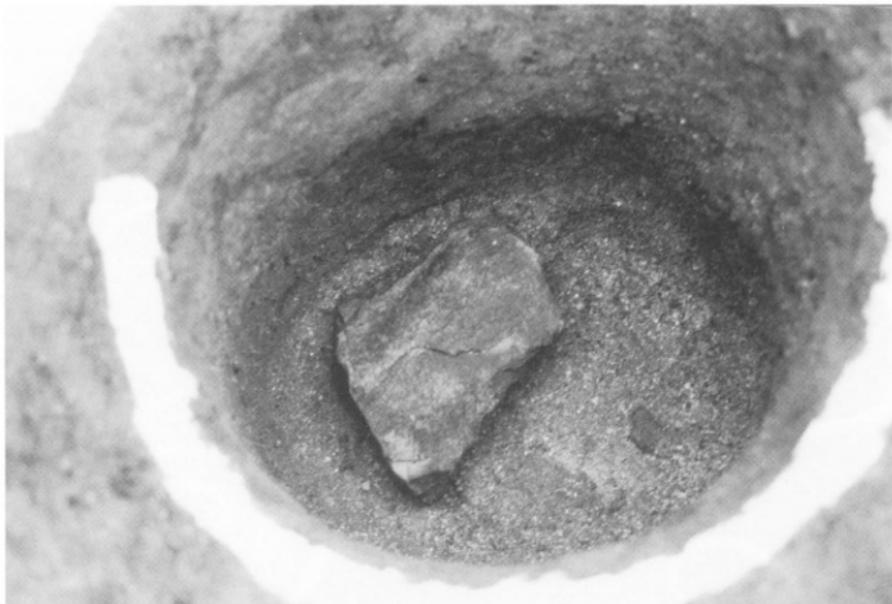
2. SX-A302 (東より)



1. SP-A321柱根



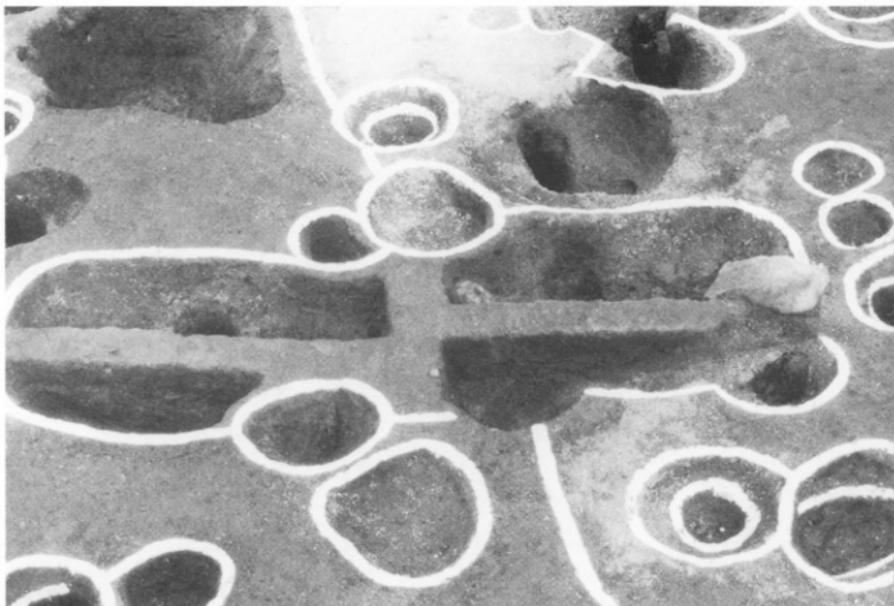
2. SP-A391柱根



1. SP-A375根石



2. SP-B324根石



1. 第3-b遺構面全景 (南より)



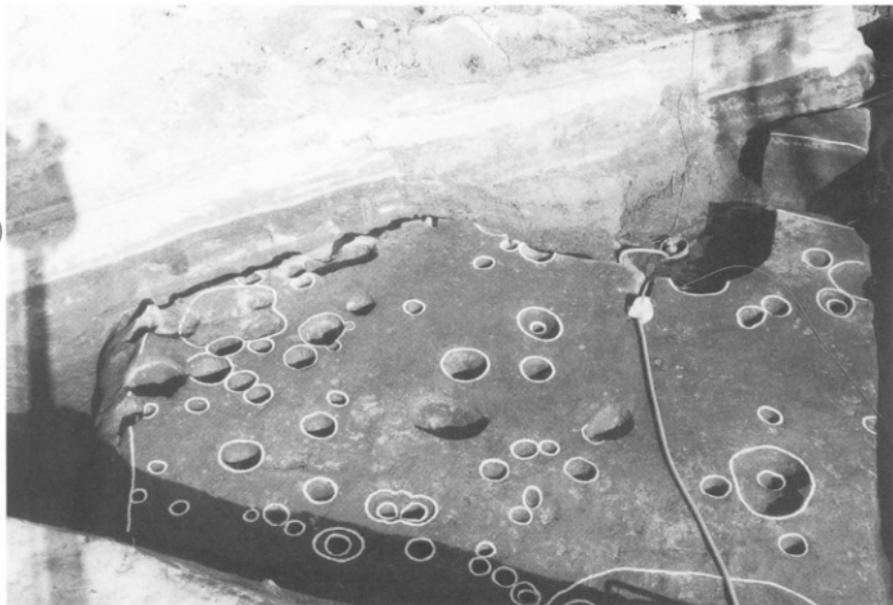
2. 第3-b遺構面全景 (西より)



1. 第3-b遺構面全景(東より)



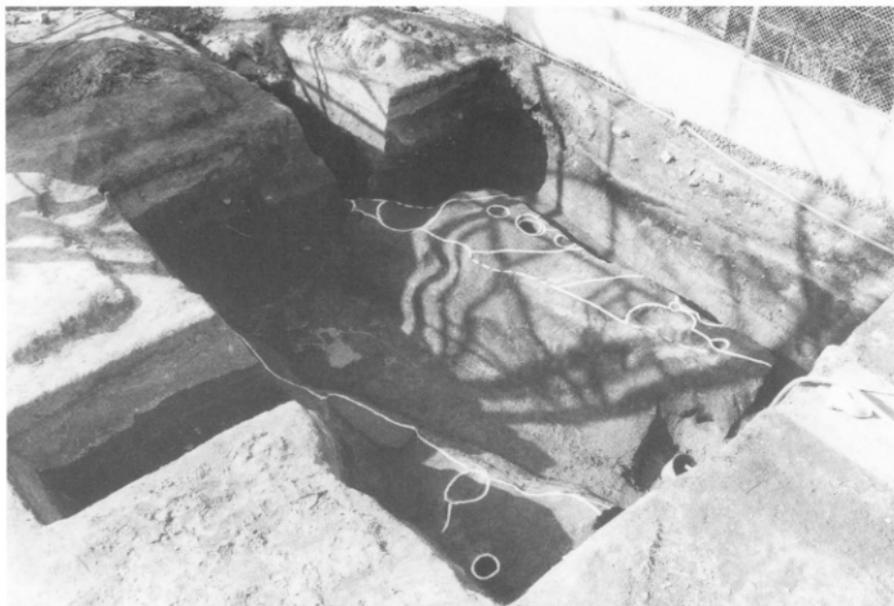
2. 第3-b遺構面・A区北西部(南西より)



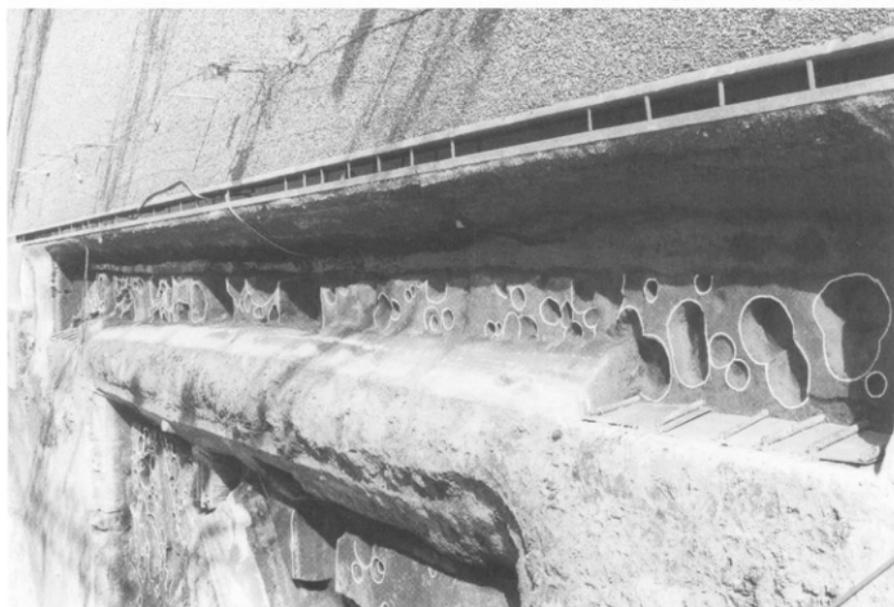
1. 第3-b遺構面・A区南西部(西より)



2. 第3-b遺構面・A区・C区(西より)



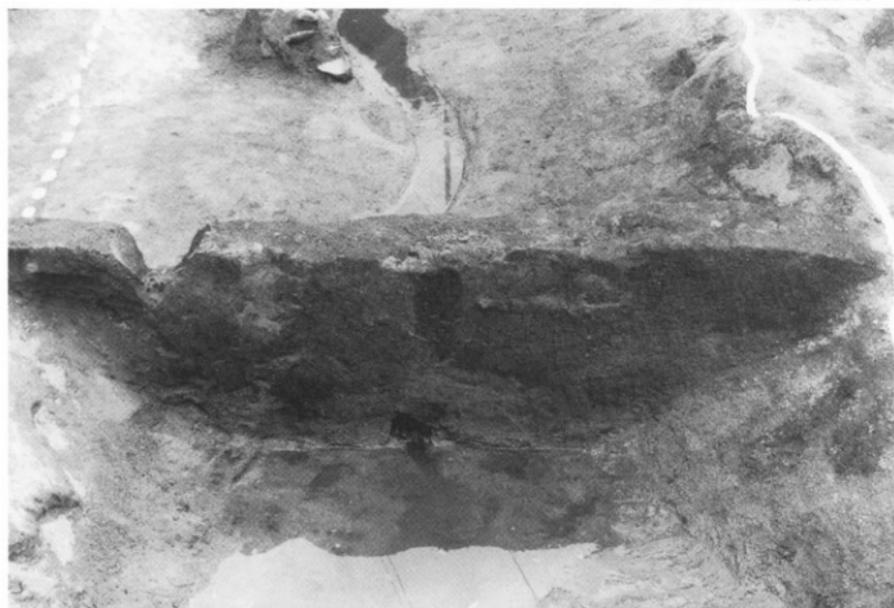
1. 第3-b遺構面・B区(南東より)



2. 第3-b遺構面・C区(西より)



1. SD-A301 (南西より)



1. SD-A301断面 (南西より)



1. SD-A301遺物出土状況(南より)



2. SD-A302(南西より)



1. SD-A302断面 (南西より)



2. SD-A302遺物出土状況 (南西より)



1. SD-A303 (南より)



2. SD-A303遺物出土状況① (北より)



1. SD-A303遺物出土状況（北東より）



2. SD-A304（北より）



1. SD-B302 (西より)



2. SD-B302断面 (西より)



1. S D-B302遺物出土状況（上層）①（東より）



2. S D-B302遺物出土状況（上層）②



1. SD-B302遺物出土状況（下層）①



2. SD-B302遺物出土状況（下層）②



1. SD-C301 (南より)



1. SD-C301遺物出土状況 (北西より)



1. SD-C302 (南より)



2. SD-C302遺物出土状況 (上層)



1. SD-C302遺物出土状況(下層)①



2. SD-C302遺物出土状況(下層)②









95



115



111



117



112



118









206



237



217



243



227



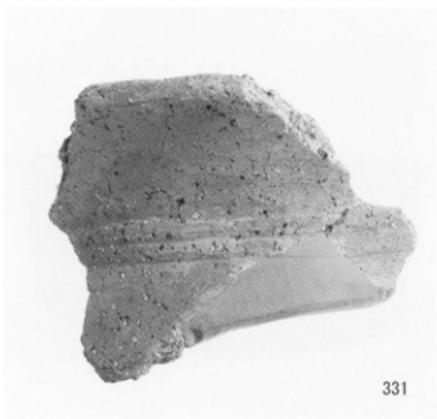
244















2



4



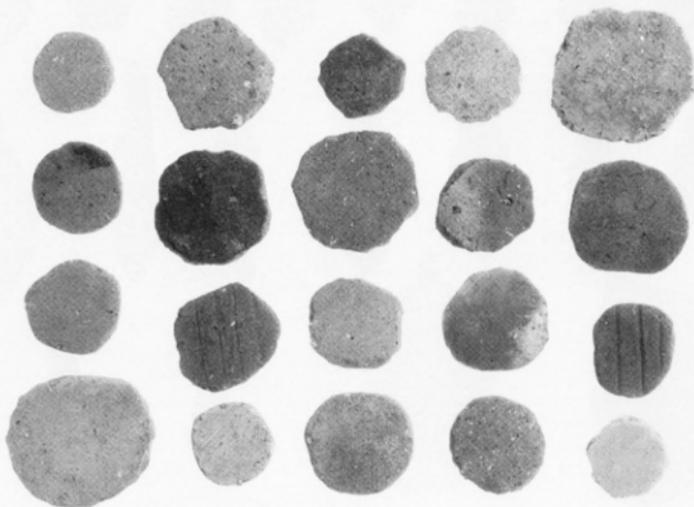
321

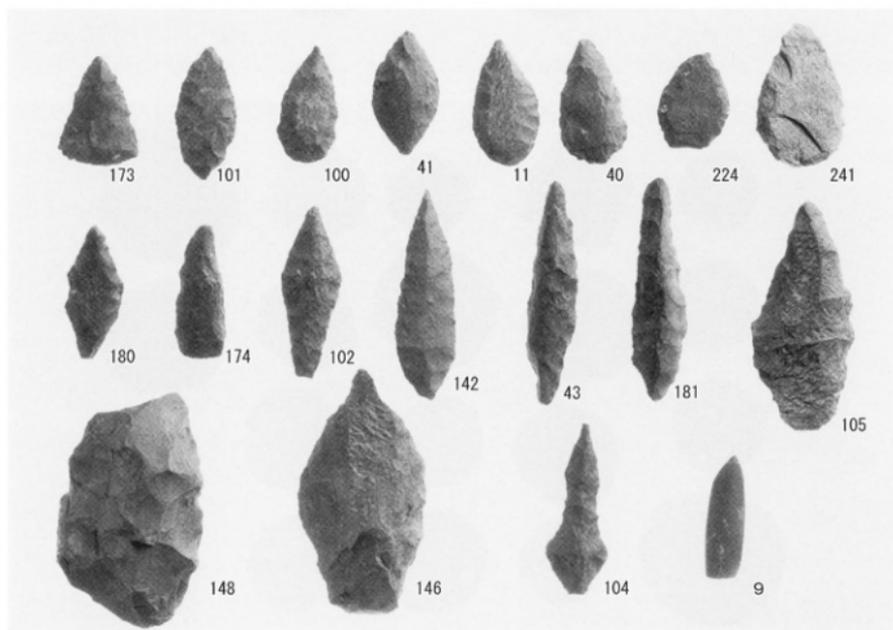
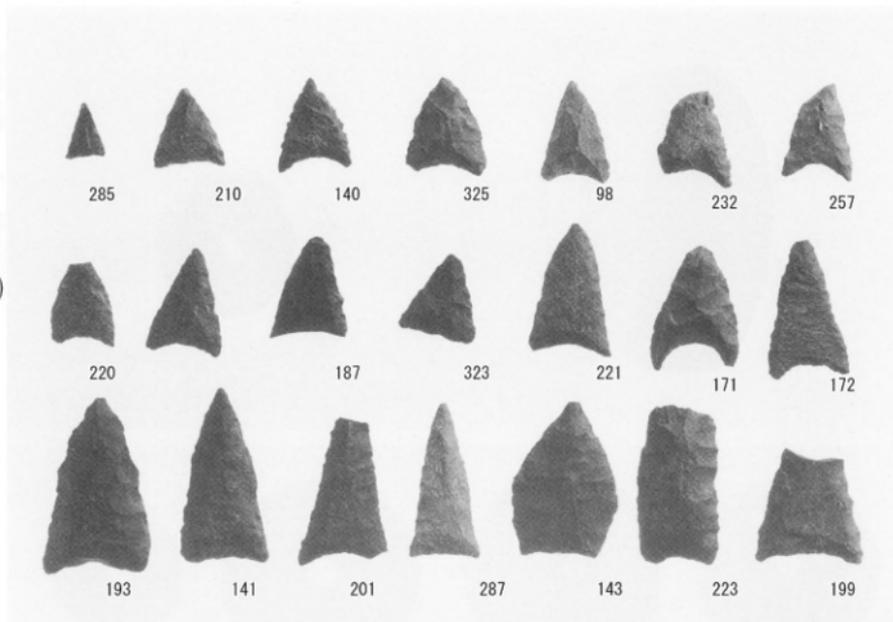


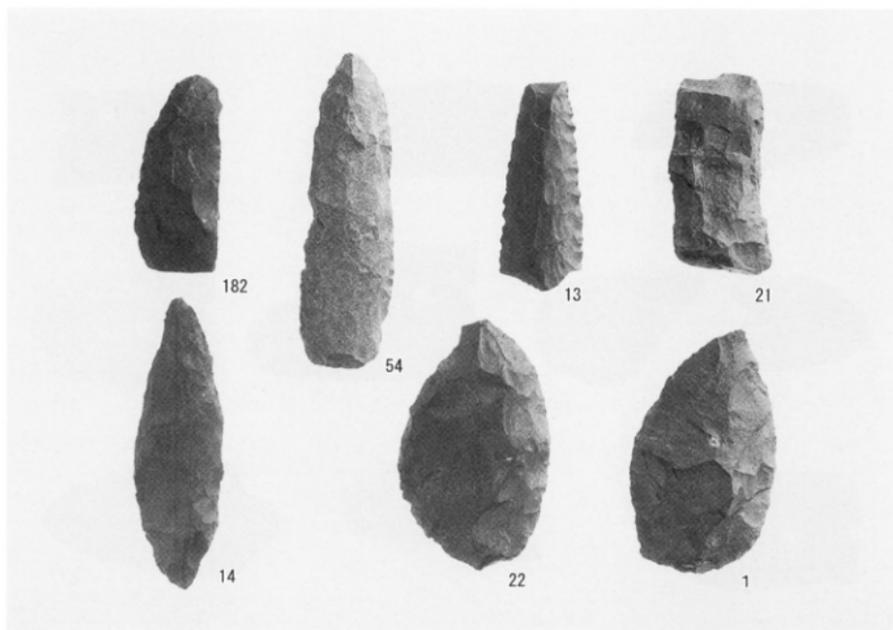
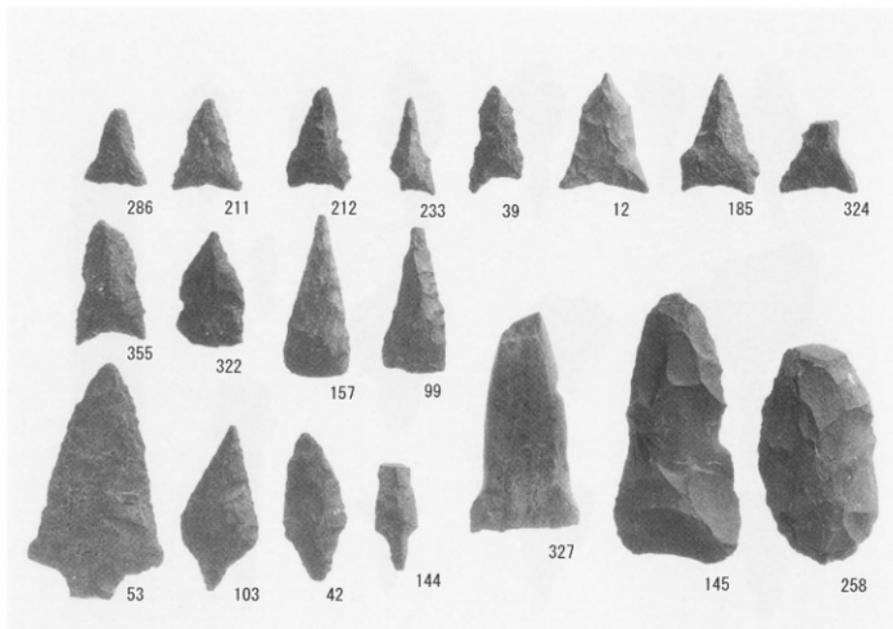
158



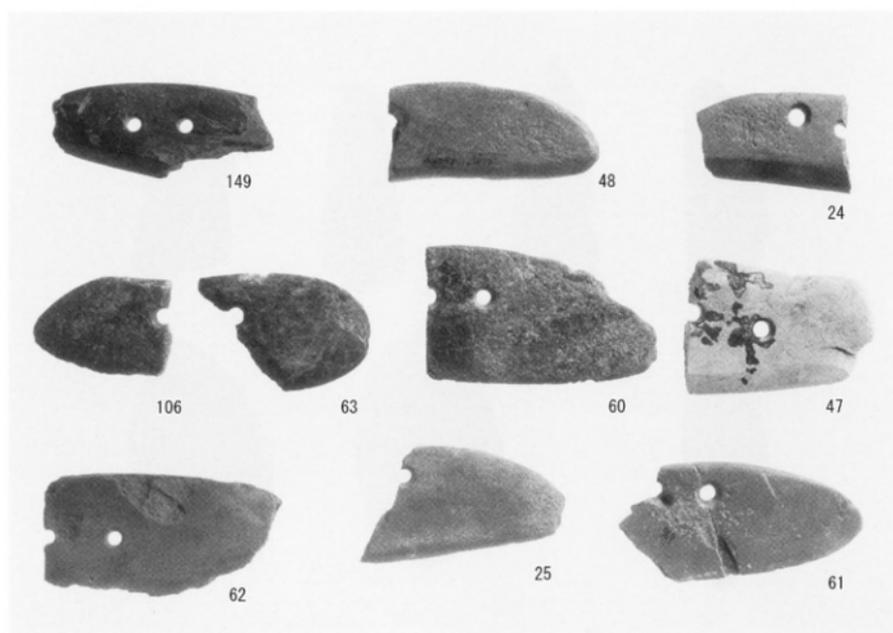
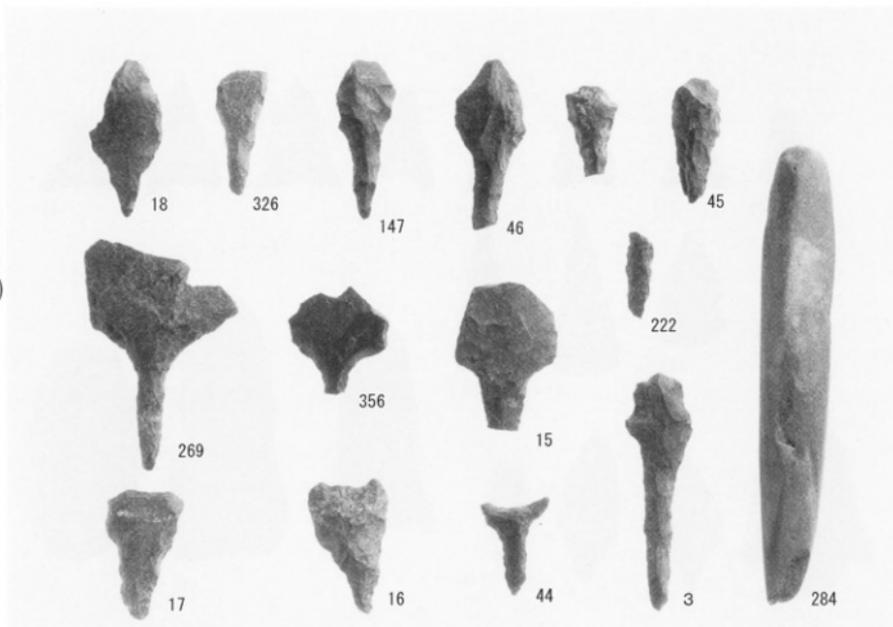
230

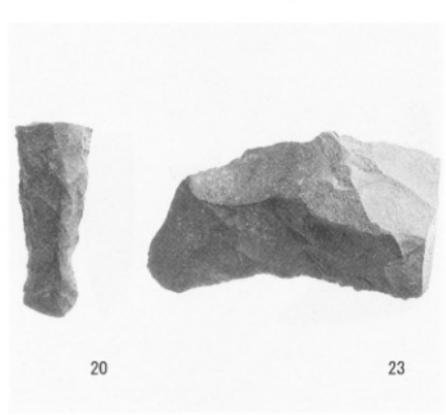
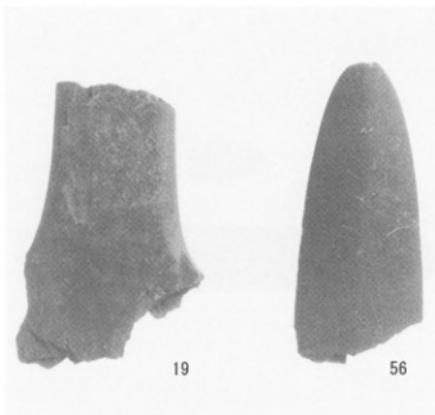




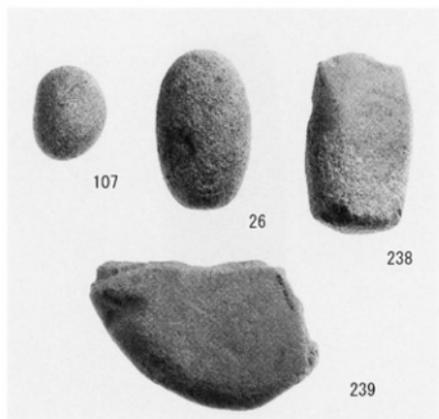
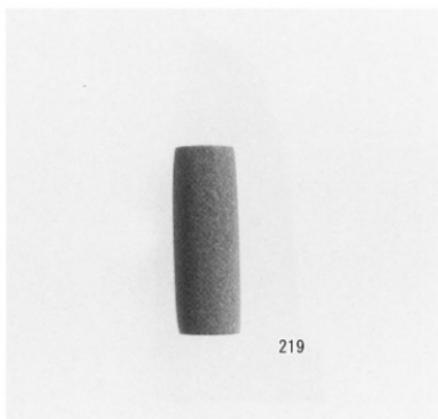
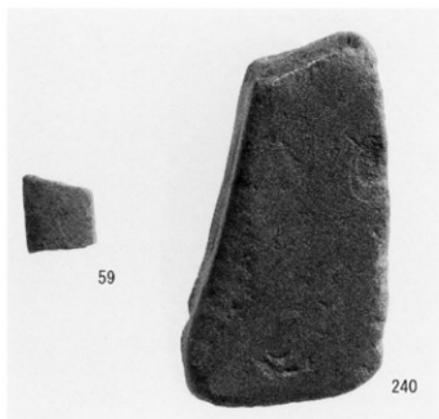
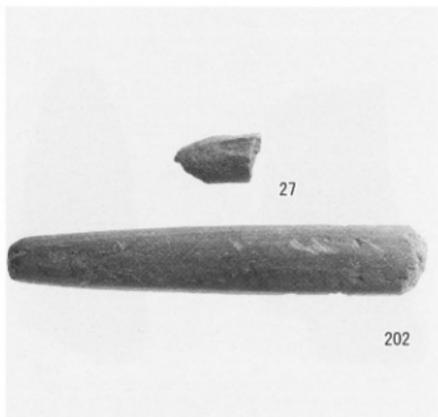
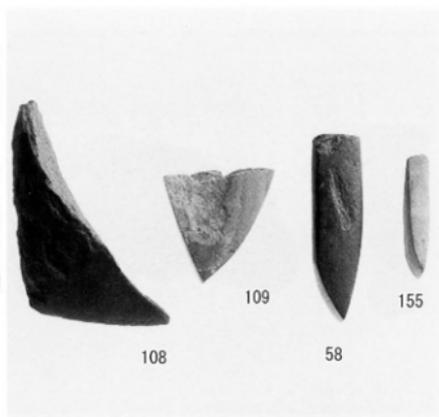


図版 68
出土遺物 (18)





図版 70
出土遺物 (20)





328



SP-A215



329



SP-A271



330



SP-A371



報告書抄録

ふりがな	なかがいといせき							
書名	中垣内遺跡							
副書名	関西電力株式会社架空送電線鉄塔 (No. 24) 建替え等に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	中遠健一・阿部みき子・高志こころ							
編集機関	大東市教育委員会							
所在地	〒574-8555 大阪府大東市谷川1-1-1 TEL. 072-872-2181							
発行年月日	2004年(平成16年)3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかがいといせき 中垣内遺跡	おおいとせき 大阪府大東市 なかがいといせき 中垣内	27218	4	34° 42′ 15″	135° 38′ 50″	1992年6月22日) 1992年10月30日	鉄塔拡張部分 373.45㎡ 地中配電線移設 部分 302.63㎡ 合計 676.08㎡	送電線鉄塔 建替え、及 び地中配電 線移設に伴 う
所収遺跡名	種別	主な時期	主な遺構		主な遺物		特記事項	
なかがいといせき 中垣内遺跡	集落	弥生時代前期	溝、土坑、ピット		土器 土製品 石製品 柱材 骨角製品・獣骨			
		弥生時代中期	溝、土坑、ピット		土器 土製品 石製品 柱材 骨角製品・獣骨			
		中世以降	鋤溝、土坑、ピット		土師器 須恵器 瓦器 瓦質土器			

印刷物番号

15-51

大東市埋蔵文化財調査報告第20集

中垣内遺跡

—関西電力株式会社架空送電線鉄塔 (No. 24) 建替え等に伴う発掘調査報告書—

2004年3月31日発行

編集・発行 **大東市教育委員会**

〒574-8555 大東市谷川1丁目1番1号

TEL. 072-872-2181

印刷・製本 **西村印刷株式会社**

〒534-0021 大阪市都島区基島本通5丁目15番3号

TEL. 06-6925-6555
